

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査

第3回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
(2007)
報告書 Ver.2

雇用形態の変容と労働観の変化。無業者増加問題をはじめ、若者への職業観育成指導はいま日本が取り組むべき大きな課題となっています。行政、学校教育はむろんですが、若者にとって最も身近な大人である「保護者」ができることはなんのでしょうか。

進路に関する親と子のコミュニケーションのあり方と、大人ができる高校生のよりよい進路選択へのサポートを探りたい。社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、2003年、2005年に続き、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対してコミュニケーションの実態とさまざまな進路観について問うアンケート調査を実施しました。

その分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

社団法人全国高等学校PTA連合会
会長 高橋 正夫
進路対策委員会委員長 青木 秀伸

株式会社リクルート
進学カンパニー
カンパニー長 井上 智生

▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします▼

(株)リクルート キャリアガイダンス編集室
TEL:03-6835-4068/e-mail:career@r.recruit.co.jp

この調査結果については、キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス」No.20(リクルート)にも掲載しています。出版・印刷物等へデータ転載する際には、“(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果サマリー

■「進路を考える時に不安になる」「将来働くことについて気がかりがある」という高校生が前回に引き続き増加

進路を考える時にどんな気持ちになるかを高校生に聞くと、「自分の可能性が広がるようで楽しい」という回答は24%、「自分がどうなってしまうのか不安になる」が49%で最も多かった。過去2回の調査の推移を見ると、2回連続で「楽しい」が減少、「不安」は増加している(p.21)。また、高校生に対する「将来働くことについて気がかりなことがあるか」という質問では、「気がかりがある」という回答が74%で、やはり前回に引き続き増加しており、働くことへの不安も増していると言えそうだ(p.23)。

■「学力不足」が進路選択に関する最大の気がかり

進路選択に関する気がかりの内容について高校生に質問したところ、最も多かったのは「学力が足りないかもしれない」で58%が回答。「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」など、自分の適性や目標が見えないことへの不安も多い(p.22)。

■「子どもの頃から保護者にほめられてきた」高校生は48%、「子どもをほめてきた」保護者は75%。両者の認識に大きなギャップ

高校生が幼少の頃から家庭教育がどのように行われてきたのかを、共通の7項目で親子にたずねたところ、ほとんどの項目において親子間の数字に開きがあり、認識のギャップが見られた。最も著しいのは「ほめる」に関する項目で、「子どもの頃から保護者にほめられてきた」という高校生が48%なのに対して、「子どもをほめてきた」という保護者は75%だった(p.33)。

■家庭内キャリア教育がなされてきた高校生ほど「進路を考える時楽しい」「就きたい職業がある」「未来社会は好ましい」などの回答率が高い

家庭における幼少時からのしつけや目標を持たせる言葉がけなどを『家庭内キャリア教育』と称し、その度合い別に、高校生に対するさまざまな設問の回答状況を見た。すると、家庭内キャリア教育度が高い層ほど、進路を考える時の気持ちは「楽しい」、将来就きたい職業の有無は「ある」、未来社会については「好ましい」など、前向きな選択肢の回答率が高かった(p.34～36)。

■保護者の53%が「子どものために学校調べをしたことがある」

保護者が高校生の進路選択行動にどのように関わっているかをたずねたところ、「子どもに合う分野をアドバイスしたことがある」との回答は74%、「子どもに合う学校にはどんな学校があるか調べたことがある」は53%、「興味を持った学校の見学に行ったことがある」は29%など、保護者が活発に行動していることがわかった(p.39)。

◆◆◆ コンテンツ ◆◆◆

【調査概要】	3
【回答者プロフィール】	3
I. 親子コミュニケーションの実態	
1. 進路について話す頻度 高校生の75%、保護者の91%が「話をする」と回答	4
2. 進路について話す内容 「高卒後の具体的な進路」が59%で最多	5
3. 進路について話さない理由 男子は「めんどくさいから」が最多	6
4. 保護者がよく使う言葉 「自分の好きなことをしなさい」が26%で最多	7
5. 希望進路の共有度 高校生の83%、保護者の92%が「知っている」と回答	8
6. 進路の悩みや不安の共有度 高校生の56%、保護者の72%が「知っている」と回答	9
7. 保護者からのアドバイス 高校生の63%がアドバイスを希望	10
8. 進路選択の相談相手 「母親」が最多で78%、「父親」は38%	11
9. 進路選択で影響を受けている人・もの 1位は「母親」34%、2位は「父親」26%	12
10. 進路選択で優先される人 「本人の考えが最優先」という高校生は85%、保護者は96%	13
II. 進学に関する考え	
11. 進学についての価値観①高校生 「やりたいことができる学校に進学したい」という高校生は94%	14
12. 進学についての価値観②保護者 「本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」という保護者は98%	15
III. 働くことに関する考え	
13. 高校生が希望する職業 高校生が希望する職業No.1は「公務員」	16
14. 高校生が希望しない職業 就きたくない職業No.1は「フリーター」	17
15. 保護者が希望する職業 「公務員」が前回に続き、子どもに就いてほしい職業No.1	18
16. 高校生が目指す人 「目指している人物がいる」という高校生は28%	19
17. ニートに関する考え 「なったら保護者がかわいそう」という高校生は41%	20
IV. 進路にまつわる不安と困難	
18. 進路を考える時の気持ち 「楽しい」という高校生は24%、「不安になる」は49%	21
19. 進路選択に関する気がかり 「学力不足」が58%で最大の気がかり	22
20. 働くことの気がかり 働くことについて「気がかりがある」という高校生は74%	23
21. 子どもが働くことの気がかり 子どもが働くことについて「気がかりがある」という保護者は65%	24
22. 未来社会への認識 「好ましくない」という高校生は59%、保護者は70%	25
23. 保護者がアドバイスすることの困難 「アドバイスが困難」という保護者は70%	26
24. 保護者の印象① 父親を「楽しそう」と感じる高校生は63%、母親を「楽しそう」と感じる高校生は72%	27
25. 保護者の印象② 進路についてよく話す高校生ほど「保護者が楽しそう」が多い	28
26. 保護者への要望 してほしいのは「あたたかく見守ること」	29
V. 自立意識と家庭内キャリア教育	
27. 自立についての考え 「自立しなさい」と保護者に言われたことがある高校生は45%	30
28. 経済的自立・精神的自立 「すでに精神的自立をしている」という高校生は16%	31
29. なぜ学び、なぜ働くかについての話し合い 「勉強する意味を話し合った」という高校生は21%、保護者は57%	32
30. 家庭内キャリア教育① 「ほめられてきた」高校生は48%、「ほめてきた」保護者は75%	33
31. 家庭内キャリア教育② 家庭内キャリア教育度が高い高校生は「進路を考える時楽しい」「進路を決めるのは自分」の割合大	34
32. 家庭内キャリア教育③ 家庭内キャリア教育度が高い高校生は「目指す人がいる」「就きたい職業がある」の割合大	35
33. 家庭内キャリア教育④ 家庭内キャリア教育度が高い高校生は「自分はニートにならない」「未来社会は好ましい」の割合大	36
VI. 保護者の動きと学校への要望	
34. 重要だと思う進学情報 保護者の過半数が「入試制度」と「進学費用」が気になる	37
35. 進学情報の入手方法 「高校で配布された資料」と「担任」が上位	38
36. 保護者の進路選択行動 保護者の53%が子どものために「学校調べ」をしたことがある	39
37. 家庭と学校の役割に関する認識 保護者の82%が「進路の相談にのる役割は家庭と学校同等」と回答	40
38. 進路指導への要望 高校生の36%、保護者の45%が「情報提供」を要望	41
39. 充実してほしい保護者向けガイダンス・指導 進学先選びのための保護者ガイダンスを39%が希望	42
40. キャリア教育の認知と期待 保護者の82%が「キャリア教育推進は良いことだと思う」	43

【調査概要】

- 調査実施者 社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象 全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども2080組
(全国高等学校PTA連合会より依頼した8都道府県1市の公立高校26校、
第2学年2クラス分の高校生と保護者)
- 調査期間 平成19年10月1日～10月15日
- 調査方法 ①高校生:ホームルームにてアンケートに回答
②保護者:高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 回収数 高校生1830(男子 858 女子 944 /無効 28)
保護者1587(父親 235 母親 1287 その他 19 /無効 46)

【回答者プロフィール】

■高校生

- ◎性別: 男子 47.6% 女子 52.4%
- ◎高校タイプ: 普通科 58.3% 専門学科 34.1% 総合学科 7.6%
- ◎高校卒業後の希望進路: 大学・短大進学 59.3% 専門学校進学 14.2% 就職 22.6% フリーター 0.3%
留学 0.2% その他 1.6% (無回答 1.9%)
- ◎地域分布: 北海道 11.9% 宮城県 12.3% 栃木県 12.0% 東京都 9.3% 新潟県 11.7%
静岡県 11.4% 大阪府 7.3% 香川県 11.2% 福岡県 12.9%

■保護者

- ◎続柄: 父親 15.2% 母親 83.5% その他 1.2%
- ◎地域分布: 北海道 10.6% 宮城県 12.3% 栃木県 9.9% 東京都 10.9% 新潟県 11.9%
静岡県 12.2% 大阪府 6.9% 香川県 12.5% 福岡県 12.7%

<注>

第1回調査(2003年)は、2003年7月に全国の高校3年生をもつ保護者とその子ども2000組を対象に実施
第2回調査(2005年)は、2005年9～10月に全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども2620組を対象に実施

フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおりです

高校生コメント (都道府県・性別、希望進路)

保護者コメント (都道府県・続柄、子どもの性別)

I. 親子コミュニケーションの実態

1. 進路について話す頻度

■ 高校生の75%、保護者の91%が「話をする」と回答

■ 最も話していないのは父親と息子

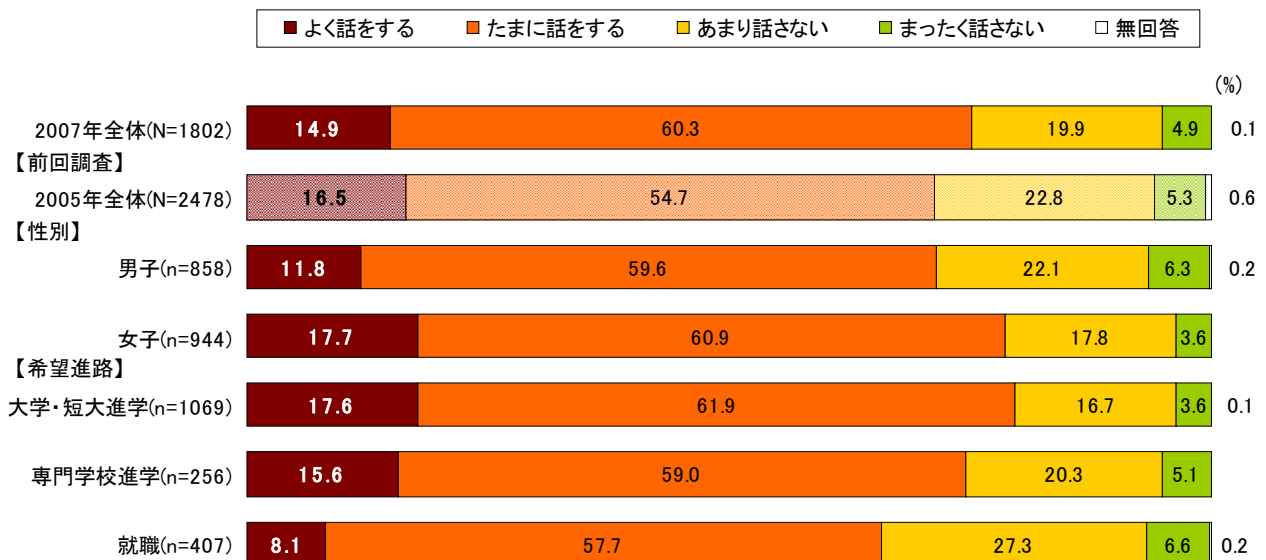
高卒後の進路について、高校2年生は保護者とどれぐらい話をしているだろうか。高校生の回答は「よく話をする」が15%とそれほど多くないが、「たまに話をする」を合わせると75%。ほぼ前回並みの数字だ。男女別では女子のほうが、希望進路別では大短希望者が最も話している。

一方、保護者の回答では「よく話をする」が25%、「たまに話をする」を含めると91%で、どちらも高校生の回答より多い。前回とほぼ同じような比率で、進路に関する親子の会話はおおむね活発な状況が続いているようだ。

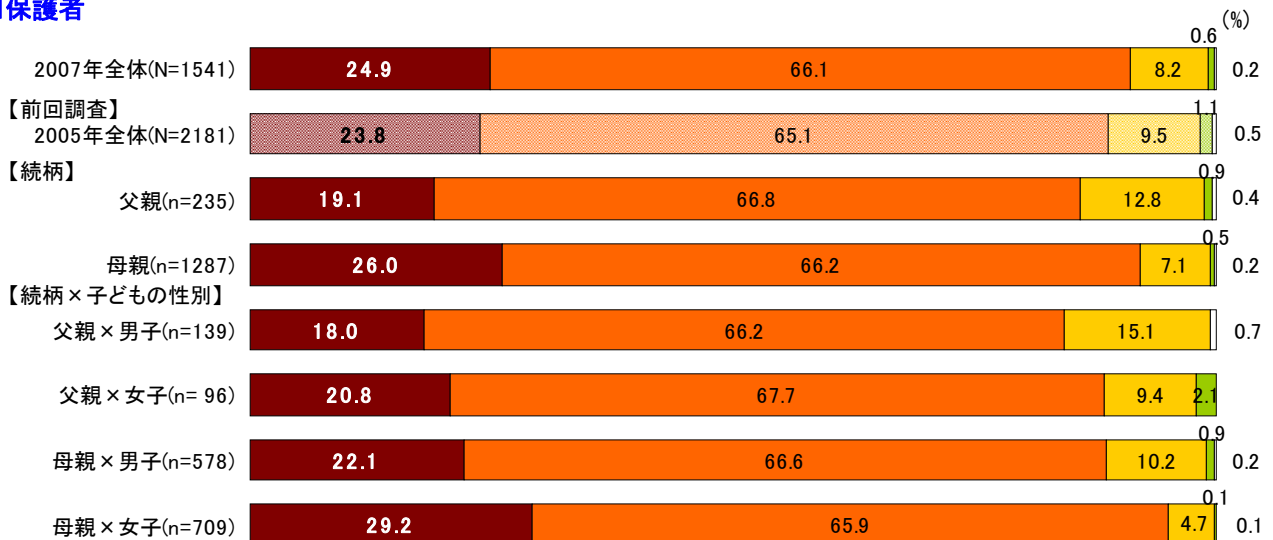
なかでも母親は「話をする」が多く、母親と娘では95%を超える。父親と息子は最も話していないが、それでも84%に達している。

Q. 進路に関して高校生と保護者は話しているか

■ 高校生



■ 保護者



2. 進路について話す内容

■「高卒後の具体的な進路」が59%で最多

■夢や将来より直近の問題に話題がシフト

進路について親子でどんな話をしているのか高校生に質問したところ、最も多かったのは「高校卒業後の具体的な進路について」で59%が回答した。次に「将来どんな職業に就きたいか」53%、「現在の成績について」44%、「将来の自分の夢」40%が続く。“進路についての話”といっても、進学か就職か、どの学校かなど「高卒後の具体的な進路」だけではなく実にさまざまな話題があることがわかる。

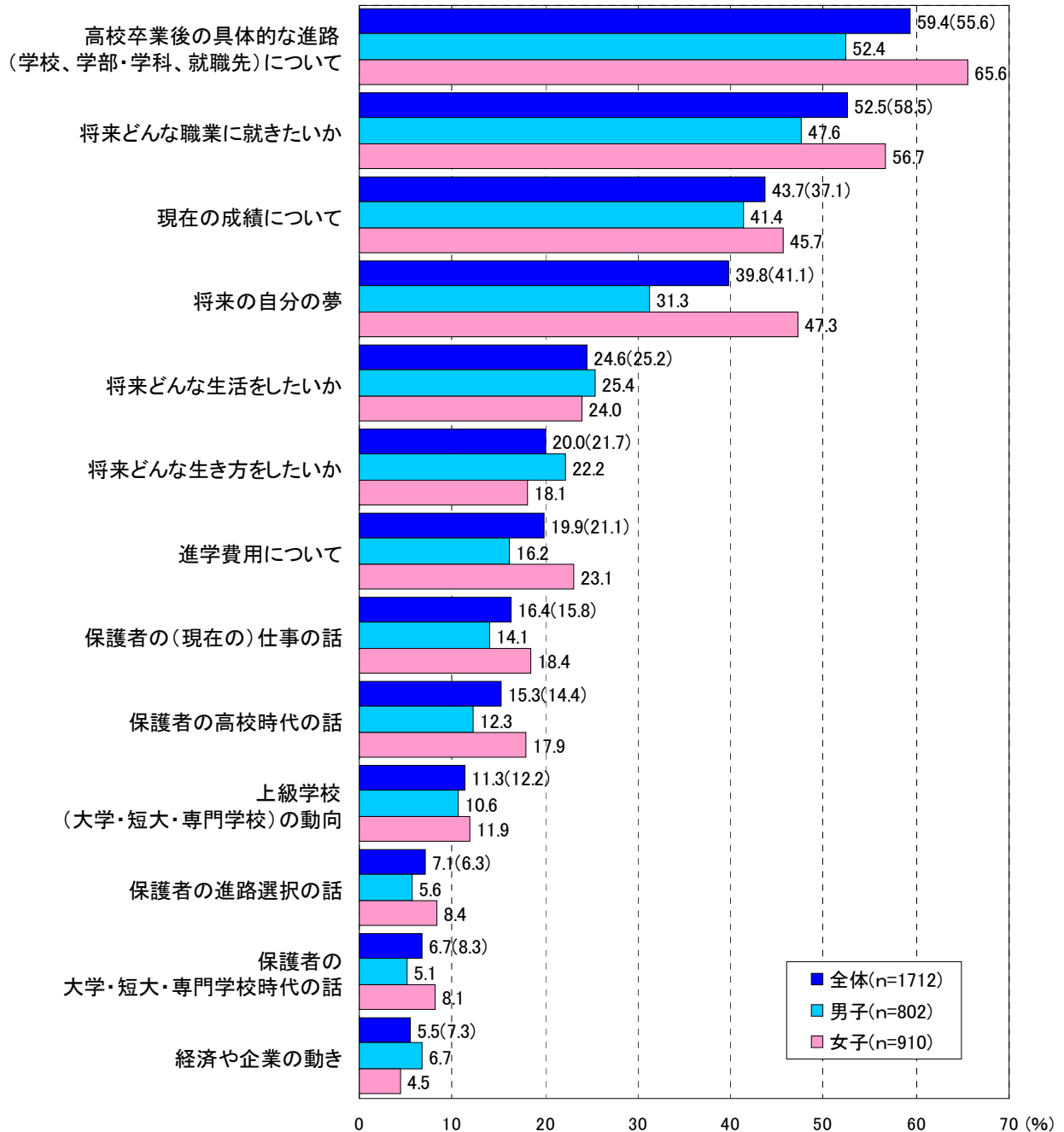
前回調査と比べると、「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」といった将来的な話題は減少し、「高校卒業後の具体的な進路～」「現在の成績～」といった間近に迫るテーマが増加した。

男女別に見ると、「将来どんな生活をしたいか」「将来どんな生き方をしたいか」「経済や企業の動き」は男子のほうが話している。それ以外は女子のほうが話しており、とくに「将来の夢」を話している女子は男子より16ポイントも多い。

Q. 進路について保護者とどんな話をしているか (進路について保護者と話をする者・複数回答)

■高校生

※()内の数字は前回調査の結果



3. 進路について話さない理由

■ 男子は「めんどくさいから」が最多

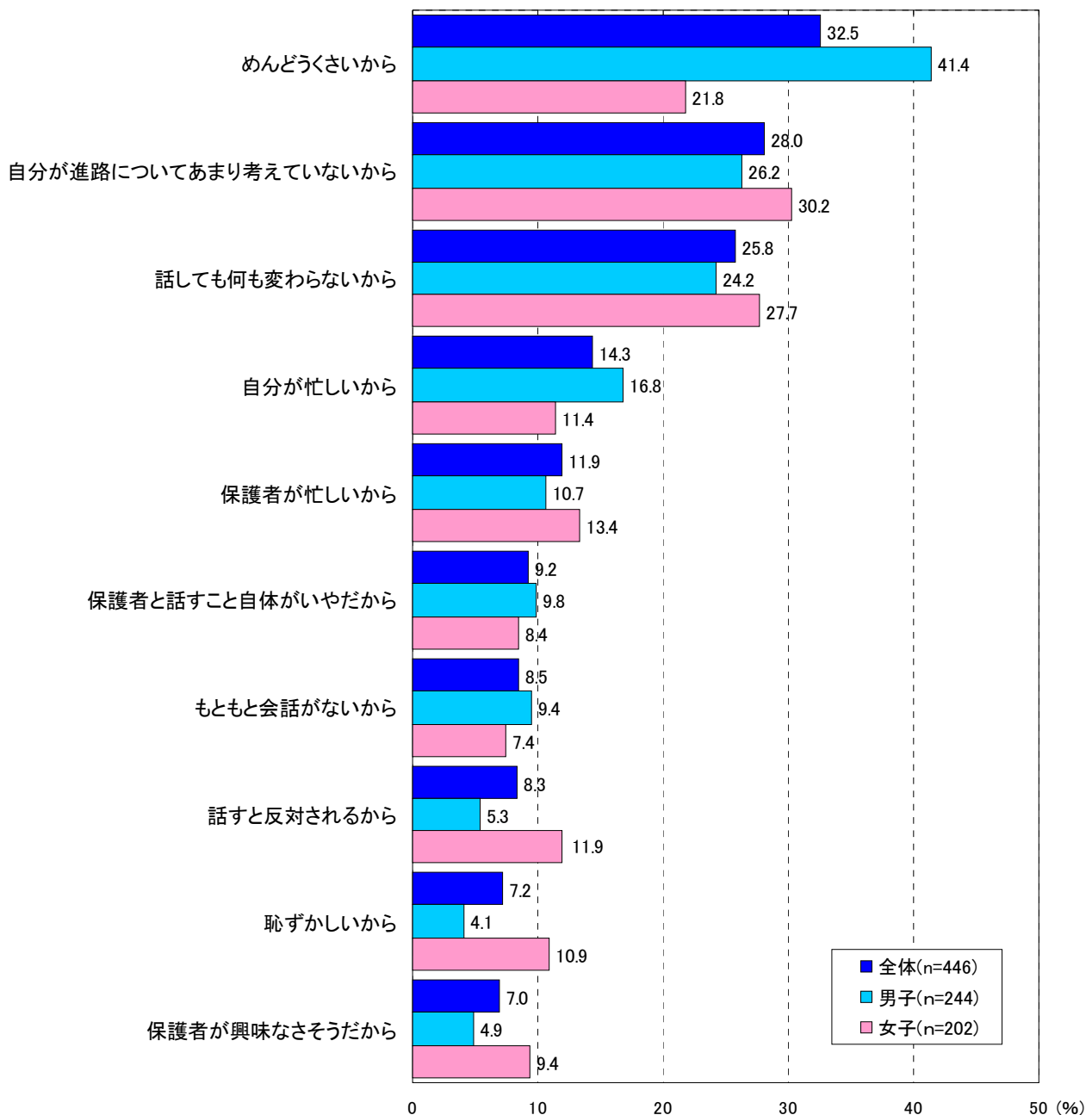
■ 高校生自身の問題より親子関係に多くの要因

進路について保護者と「あまり話さない」「まったく話さない」と回答した高校生に、その理由を選択肢から選んでもらったところ、「めんどくさいから」33%、「自分が進路についてあまり考えていないから」28%、「話しても何も変わらないから」26%、「自分が忙しいから」14%などの回答が多かった。「自分が進路についてあまり考えていないから」「自分が忙しいから」など高校生自身の問題よりも、「めんどくさいから」「話しても何も変わらないから」など保護者と話す意義を感じていないような項目が目立ち、そもそも日常的な会話も活発でない親子が多く含まれている可能性がある。

とくに男子は「めんどくさいから」の回答が突出して多く41%を超す。一方の女子は「めんどくさいから」22%より、「自分が進路についてあまり考えていないから」30%、「話しても何も変わらないから」28%のほうが多い。

Q. 進路について話さないのはなぜか(進路について「あまり話さない」「まったく話さない」と答えた者・複数回答)

■ 高校生



4. 保護者がよく使う言葉

■「自分の好きなことをしなさい」が26%で最多

■「勉強しなさい」の言葉に「むかつく」「イライラ」

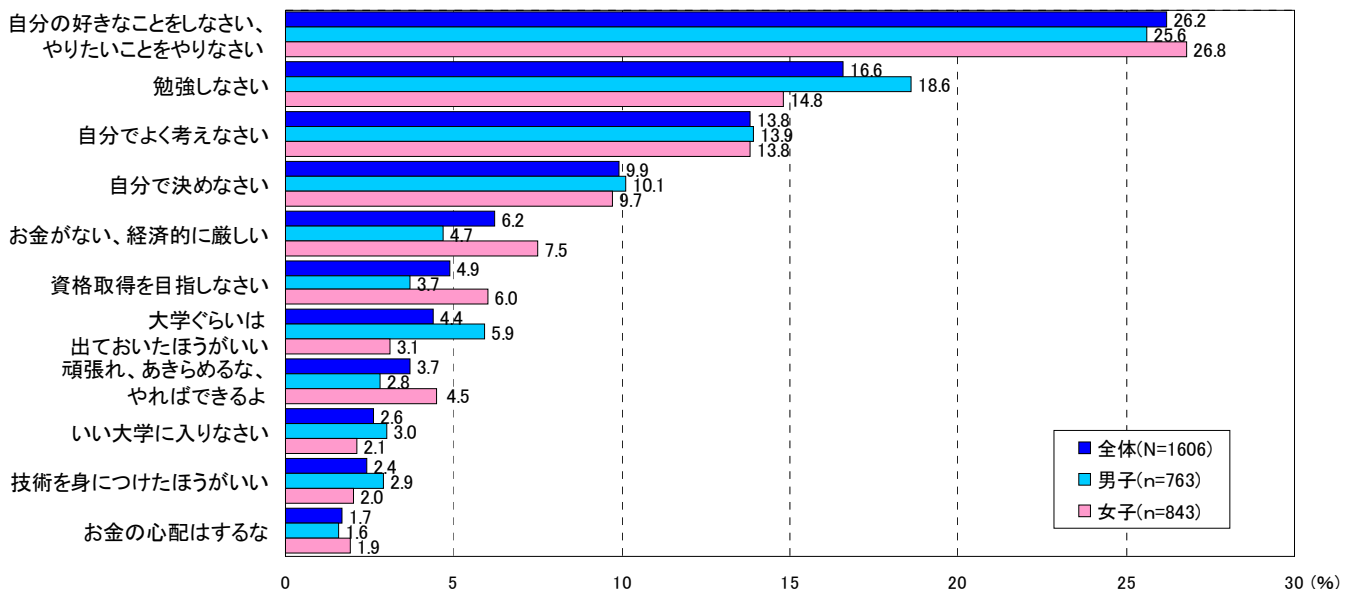
進路の話をする時に保護者はどんな言葉をよく使うかと高校生に質問した。最も多かったのは「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」で26%。次に「勉強しなさい」17%、「自分でよく考えなさい」14%、「自分で決めなさい」10%が続く。

また、これらの言葉を掛けられた時に高校生はどう感じているかも聞いた。「自分の好きなことをしなさい～」については、「信頼してくれているのかな」など好意的に受け止めるコメントが多いが、「まだやりたいことが見つからないから、いまいち」といった声もある。「自分でよく考えなさい」や「自分で決めなさい」についても同様に受け止め方が分かれており、本人の状態や保護者の関与状況によって、同じ言葉がプラスにもマイナスにも印象を変えるようだ。ただし、「勉強しなさい」については、「むかつく」「イライラ」などマイナスの反応ばかりだった。

Q. 進路の話をするときに保護者はどんな言葉をよく使うか

■高校生

※単一回答を求める設問のため複数回答は無効とし、除いて集計しています。



≫ 保護者の言葉をどう感じるか

■「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」

- 信頼してくれているのかな(香川・女子、就職)
- 好きなようにやらせてくれるんだから、頑張ろうと思う(北海道・女子、専門)
- 自分の夢についてちゃんと応援してくれている感じがする(福岡・女子、専門)
- 自分できちんとした考えをしななければならないと感じる(北海道・男子、大短)
- やりたいことをやられて言われるのは嬉しいけれど、とくにまだやりたいことが見つからないから、いまいちな感じ(北海道・女子、就職)
- 頑張ろうと思うけど、少し放っておかれて見捨てられてる気がする(香川・女子、専門)

■「勉強しなさい」

- わかっているって(汗)(大阪・男子、就職)
- むかつく。すべてそれで話を終わらせる(宮城・男子、就職)
- やる気をなくす。自分でもそう思っているのになんて思う(北海道・女子、大短)
- 1日何回も言うのでイライラする(栃木・女子、大短)

■「自分でよく考えなさい」

- 親に頼ってばかりではダメだと思った(栃木・男子、大短)
- 親が決めるのではなく、自分に考えさせてくれて嬉しい(静岡・女子、就職)
- 決めるのは自分だけけど、すべてを任せられるのは重い(栃木・女子、大短)

- どうなっても自己責任なので、ちょっと不安になる(大阪・男子、大短)

■「自分で決めなさい」

- 自分の意見を尊重してくれていると思う(宮城・男子、大短)
- そう言いつつも、両親も進路について考えてくれているので、悪い気はしない(北海道・男子、大短)
- あまり興味を持っていないと思える(栃木・女子、就職)
- どうすればよいのかわからなくなり、不安になる(新潟・女子、就職)

■「お金がない、経済的に厳しい」

- お金がないから夢を諦めると言われている感じがして、自分は夢に向かって頑張っているのに、悲しい(北海道・女子、専門)
- これからのこととか、まったく考えられなくなる(福岡・女子、専門)
- 俺の将来は限られていると思う(宮城・男子、就職)

■「資格取得をめざしなさい」

- しっかりと勉強して、ひとつでも多くの資格を取る(東京・男子、就職)
- 確かにそう思うけど、自分に合った資格がわからない(東京・女子、大短)
- 同感だけど、本当に自分の進路決定の第一条件にするべきかは疑問(新潟・女子、大短)

■「大学ぐらいは出ておいたほうが良い」

- 親がそういうのであれば、出たほうが良い(福岡・男子、大短)
- 実際に大学へ行っても、したいことがない(福岡・男子、その他)

5. 希望進路の共有度

■ 高校生の83%、保護者の92%が「知っている」と回答

■ 子の認識以上に親は「知っている」つもり

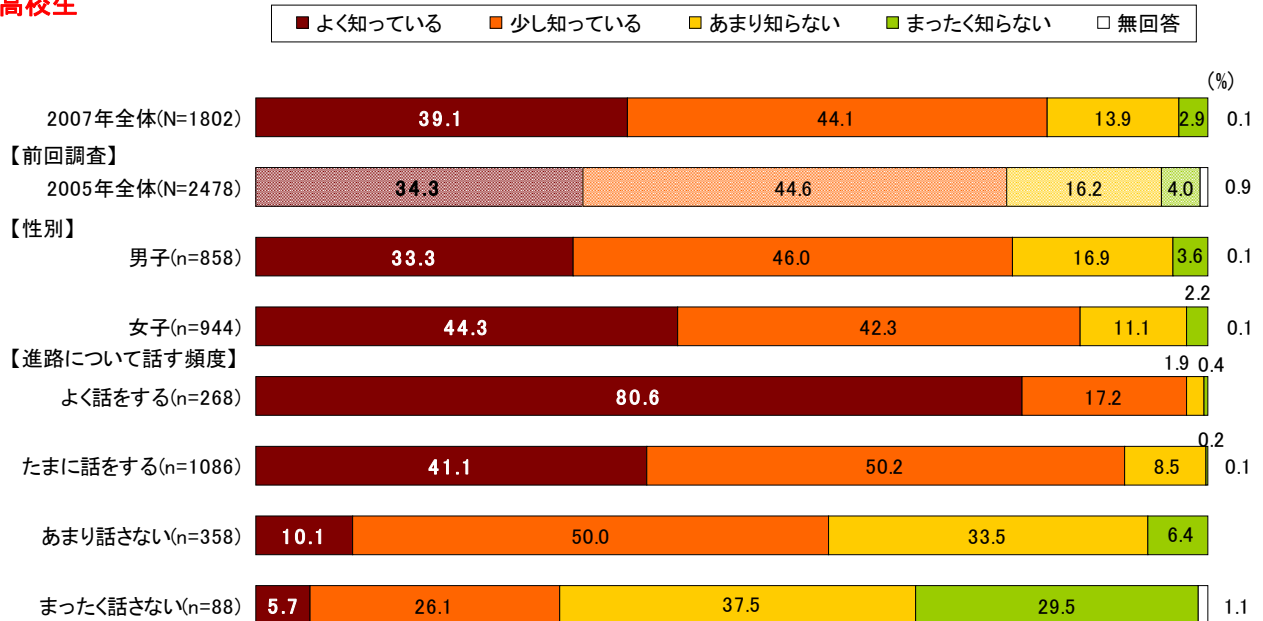
高校生の希望する進路についてどれぐらいの保護者が知っているか、親子それぞれの認識を聞いた。まず高校生の回答を見ると、保護者が自分の進路希望を「よく知っている」という回答は39%で、「少し知っている」を合わせると83%。前回より若干増えている。また、男子より女子のほうが「知っている」が多い。

一方の保護者は、子どもの進路希望を「よく知っている」「少し知っている」が前回よりやや多い92%。高校生の認識以上に保護者は「知っている」つものようだ。続柄別では、父親より母親のほうが「よく知っている」と答えている。

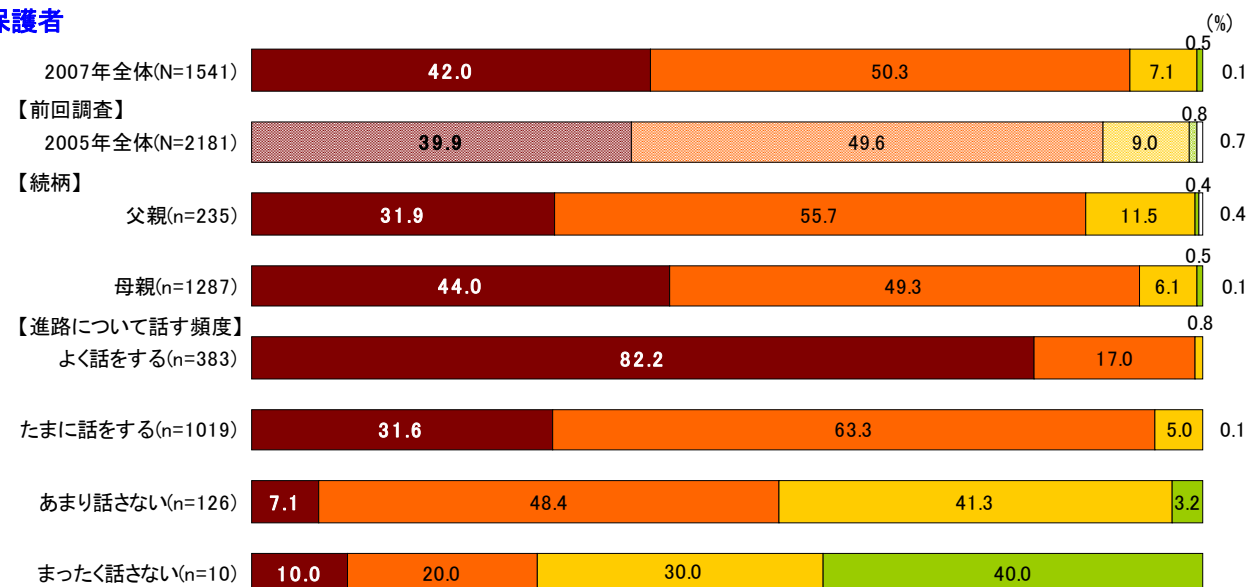
両者の回答とも、【進路について親子で話す頻度】(参考p.4)による違いが非常に大きい。高校生、保護者とも「よく話をする」人は「よく知っている」「少し知っている」が95%を超えたのに対し、「まったく話さない」人は3割程度となっている。当たり前だが、話さなければわからないといえる。

Q. 高校生の希望進路を保護者は知っているか

■ 高校生



■ 保護者



6. 進路の悩みや不安の共有度

■ 高校生の56%、保護者の72%が「知っている」と回答

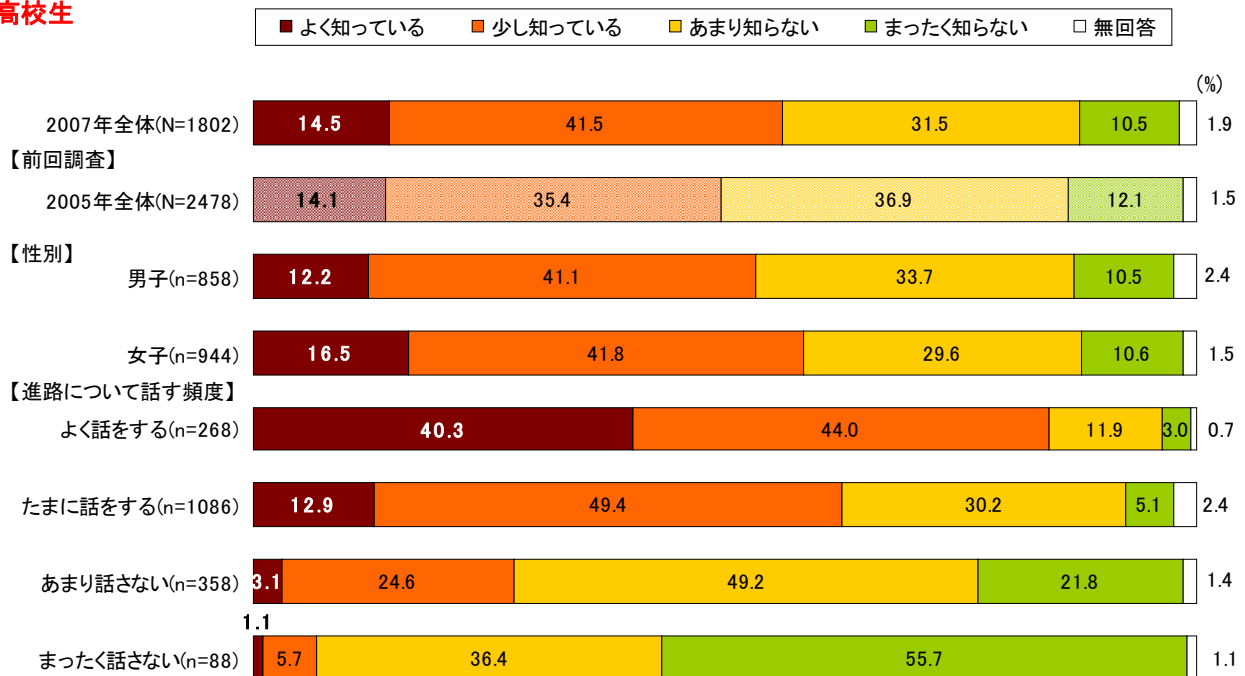
■ 進路について話す親子は悩みや不安も共有

高校生が持つ進路選択の悩みや不安について、保護者は知っているだろうか。高校生にたずねると、保護者が「よく知っている」という回答は15%。「少し知っている」と合わせると56%で、前回より増加した。男女別では、女子のほうが「知っている」が多い。一方、保護者は72%が子どもの進路選択の悩みや不安を「よく知っている」「少し知っている」と回答しており、高校生の回答率よりも高い。また、父親より母親のほうが「知っている」が多い。

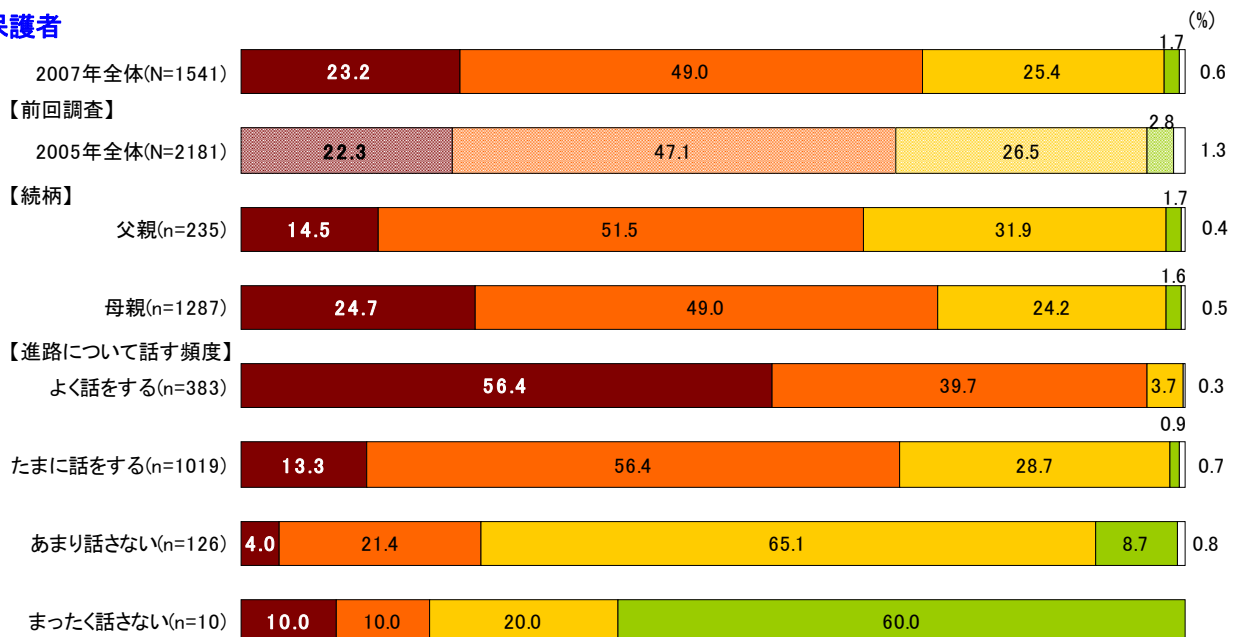
前頁の『希望進路の共有度』と同様、高校生と保護者の両方で【進路について親子で話す頻度】による差が大きい。「よく話をする」という高校生の84%、保護者の96%が「悩みや不安を知っている」と回答しており、話をする親子ほど「知っている」と認識している。しかし、いずれも『希望進路』よりは「知っている」が少ない。話をしていても、悩みや不安まで共有しているかどうかは個人差がありそうだ。

Q. 高校生の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか

■ 高校生



■ 保護者



7. 保護者からのアドバイス

■ 高校生の63%がアドバイスを希望

■ 「考えの押し付け」や「否定」ならアドバイス不要

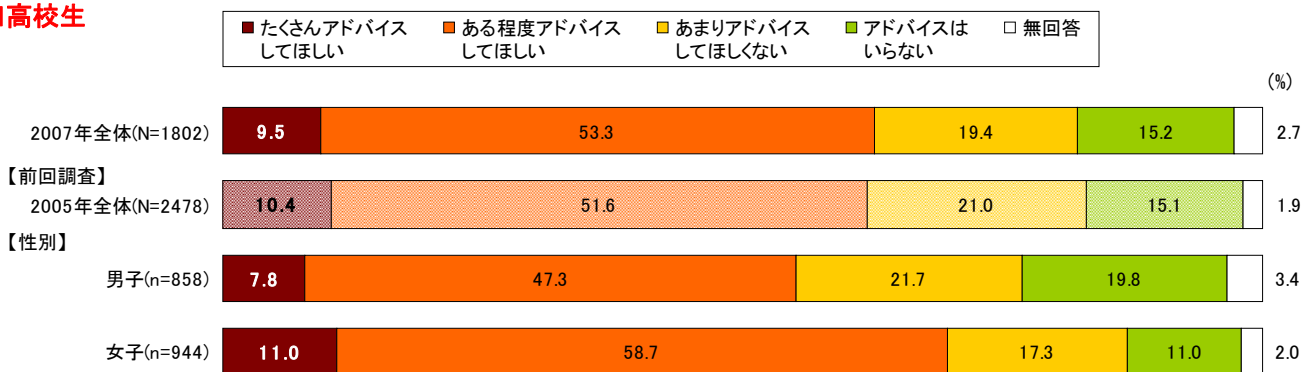
進路選択に際して保護者にアドバイスしてほしいかを高校生にたずねたところ、「たくさんアドバイスしてほしい」「ある程度アドバイスしてほしい」を足した63%がアドバイスを望んでいた。

その理由を見ると、「人生の先輩としてアドバイスしてほしい」のように保護者の人生経験に期待する声が多いが、一方で「本当にわからない時か、悩んでいる時に限りたい」「たくさん言われるのはちょっと腹が立つ」など過剰な関与には否定的なコメントが並ぶ。また、アドバイスしてほしい人からは「考えを押し付けられる」「否定しかしない」など、保護者のアドバイスのしかたに問題がありそうなコメントもあがった。

保護者に対しては、進路に関する子どもの悩みや不安にアドバイスをしているかどうかを聞いた。「よくしている」「少ししている」の合計は77%で、父親より母親のほうがアドバイスしていると回答した。

Q. 進路選択について保護者にアドバイスしてほしいか

■ 高校生



➤ アドバイスしてほしい内容や理由

■ たくさんアドバイスしてほしい人

- よくわからないことばかりなので、人生の先輩としてたくさんアドバイスしてほしい(静岡・女子、大短)
- 実体験ほど参考になるものはない。マイナス面も言ってくれる(新潟・男子、大短)
- 間違っていることはちゃんとやってほしい(大阪・女子、その他)
- 多くの情報を集めてから、自分で考え自分の意志で行動したいから。たくさんのことを知っておきたい(新潟・女子、就職)

■ ある程度アドバイスしてほしい人

- 自分だけで決めるのは不安だから(北海道・女子、就職)
- ちょっとアドバイスしてくれれば楽な気持ちになれるから(新潟・女子、大短)
- なるべく自分で答えを見つけたいので、本当にわからない時か、悩んでいる時に限りたい。余計な先入観を持ちたくない(宮城・女子、大短)
- たくさん言われるのはちょっと腹が立つけど、何も言ってくれないのは悲しいから(香川・女子、専門)

- 1から10までアドバイスしてもらって、保護者に頼りすぎて自分で考えられなくなりそうだから、程々のアドバイスがいい(新潟・女子、就職)
- アドバイスは適度でないと、自分の考えに納得してくれないのか…という気分になる(東京・男子、大短)

■ あまりアドバイスしてほしくない人

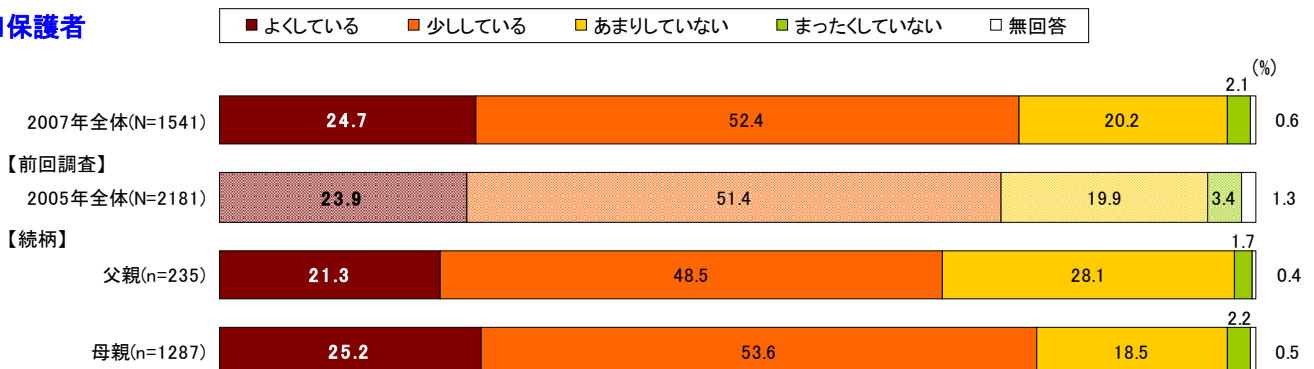
- うるさくされると、自分の考えがまとまらなくなる(宮城・女子、大短)
- 自分のやりたいことは、自分で見つけたいから(宮城・男子、就職)
- 自分で決めたことだから、信じてほしい(栃木・女子、大短)
- アドバイスと言いつつ自分の考えを押し付けられているような感じだから(北海道・女子、大短)
- いつも別の方向に進むから(福岡・男子、専門)

■ アドバイスはいららない人

- アドバイスをくれても適当そうだから(宮城・女子、就職)
- 自分の気持ちはわかってくれないから(香川・女子、大短)
- 半端に口出しされて、責任は自分で持つ、というのがいやだ(宮城・女子、大短)
- 否定しかせず、やる気を損なうだけであるから(北海道・女子、大短)

Q. 進路に関する子どもの悩みや不安について相談に乗ったりアドバイスしたりしているか

■ 保護者



8. 進路選択の相談相手

■「母親」が最多で78%、「父親」は38%

■父親や先生よりも友人に相談

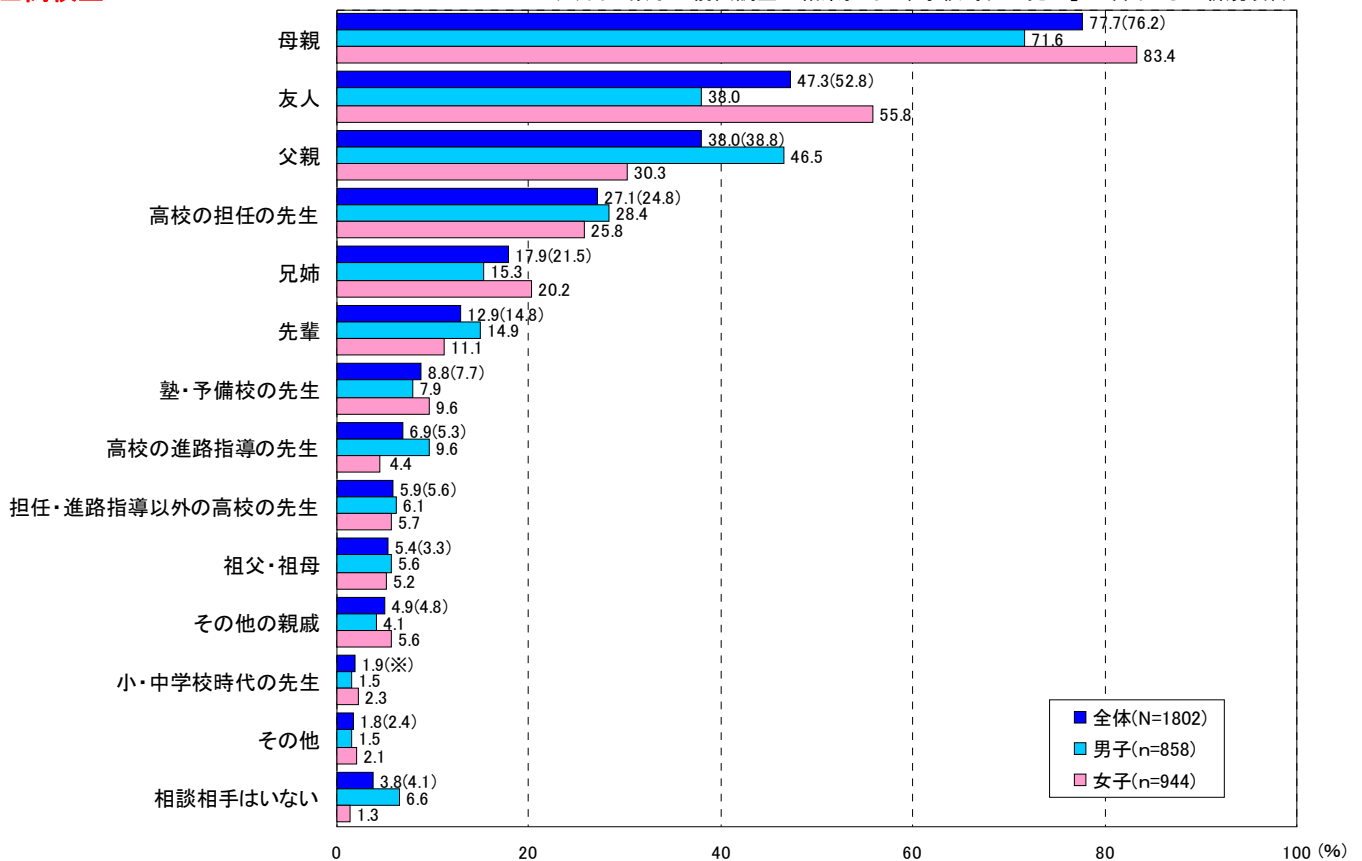
進路を考える時に誰と相談しているかを高校生に質問したところ、最も多かったのは「母親」で78%が回答。「友人」47%、「父親」38%、「高校の担任の先生」27%がこれに続く。男女とも最多は「母親」だが、男子は「父親」が「友人」を上回って2番目に多い。全体的に前回とほぼ同じ傾向だが、「友人」(前回53%)の減少が目立った。

また、一番の相談相手を1人選んでもらったところ、上位はやはり「母親」「友人」「父親」という順に並んだ。そう思う理由もたずねると、「母親」を選んだ人は「いつでも相談でき、自分のことを一番に理解してくれているから」「ちゃんと話を聞いてくれる」など、多くが身近さや相談しやすさをあげた。「父親」を選んだ人からは、「経験があるので母親より父親」「信頼できる人であり、父親の考えには間違いがないと思っている」などのコメントがあり、知識や経験への信頼感がうかがえる。

Q. 高校生は進路について誰と相談しているか(複数回答)

■高校生

※()内の数字は前回調査の結果。「小・中学校時代の先生」は今回からの新規項目



➤ 一番の相談相手と、そう思う理由

- 母親:いつでも相談でき、自分のことを一番に理解してくれているから(栃木・女子、大短)
- 母親:ちゃんと話を聞いてくれるから(栃木・女子、大短)
- 母親:一緒にいる時間が長いから(東京・女子、就職)
- 母親:一番よく理解してくれて、真剣になってくれるから(東京・女子、専門)
- 友人:よく一緒にいるし、考え方が大人みたいに偏っていないから(栃木・女子、大短)
- 友人:同じ歳で、同じ悩みを共感できるから(静岡・男子、就職)
- 父親:経験があるので母親より父親(大阪・男子、就職)
- 父親:信頼できる人であり、父親の考えは間違いがないと思っているから(香川・女子、専門)
- 父親:経済的なこともあるし、自分のこともよく知っていると思うから(福岡・男子、大短)
- 担任の先生:今まで出て行った人のこととか、よくわかっているから(北海道・男子、大短)
- 担任の先生:いろんな資料を集めてくださるし、学校の時いつでも聞けるから(香川・女子、就職)
- 兄姉:一番、立場が近いから(宮城・女子、大短)
- 進路指導の先生:たくさん情報を持っていて、信頼できるし、安心して話せるから(北海道・女子、専門)

9. 進路選択で影響を受けている人・もの

■ 1位は「母親」34%、2位は「父親」26%

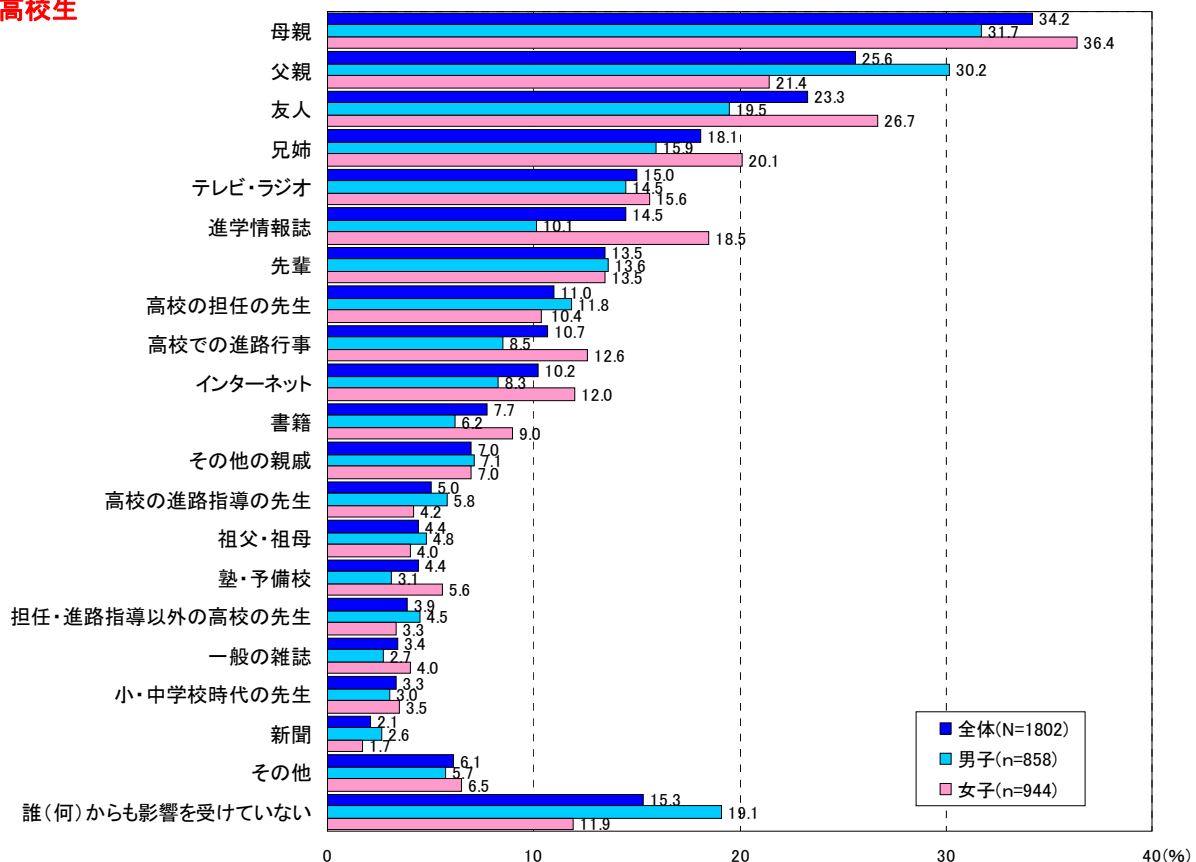
■ 「誰(何)からも影響を受けていない」高校生が15%

進路を考えるうえで影響を受ける人・ものを高校生にたずねた。最多は「母親」の34%だが、前頁の『進路選択の相談相手』ほど突出してはいない。2位は『進路選択の相談相手』で3位だった「父親」、3位は「友人」だ。人物以外に「テレビ・ラジオ」「進学情報誌」などメディアの影響力もうかがえる。また、「誰(何)からも影響を受けていない」が15%いる点も見逃せない。男子は1位の「母親」と2位の「父親」の差がほとんどないが、女子は「友人」が2位で「父親」を上回った。

一番影響を受ける人・ものとその理由もあげてもらくと、やはり1位は「母親」で、「一番進路について話をするから」というように日頃の会話による影響が大きいようだ。また、2位の「父親」については、「がんばっている姿を見てやる気をもたらす」「反面教師」など、父親の背中がよくも悪くも影響を及ぼすことがわかる。「学費などの経済面を支えてくれるから」など決裁者としての影響力もあるようだ。

Q. 高校生は進路について誰(何)から影響を受けているか(複数回答)

■ 高校生



➤ 一番影響を受けている人・ものと、そう思う理由

- 母親: 一番進路について話をするから(香川・女子、大短)
- 母親: 自分にはどんな職業が合っているのかとか、アドバイスをくれるから(栃木・女子、大短)
- 母親: 先輩とか友達とも話すが、最終的には母親と相談することで安心できる(東京・女子、専門)
- 母親: 母親が仕事をしている姿を見て、同じ職業に憧れるようになった(北海道・女子、就職)
- 父親: がんばってる姿を見てやる気をもたらす(大阪・男子、就職)
- 父親: 超えてみたいから(香川・男子、大短)
- 父親: 反面教師(静岡・男子、大短)
- 父親: 社会に出てから役立つことをよく教えてくれるから(東京・女子、大短)
- 父親: 学費などの経済面を支えてくれるから(栃木・女子、大短)
- 友人: 一緒に勉強をしている仲間だから(新潟・男子、大短)
- 友人: 何もしていない自分の隣で、一生懸命に進路について考えているから(北海道・女子、大短)
- 兄姉: 一番身近で進路について悩んでいた人だから(新潟・女子、就職)
- テレビ・ラジオ: テレビで夢をかなえた人を見るとうらやましく思う(新潟・女子、専門)
- 進学情報誌: いろいろな学校の情報を集めて、自分が本当に行きたい学校を選びたいと思うから(新潟・女子、専門)

10. 進路選択で優先される人

■「本人の考えが最優先」という高校生は85%、保護者は96%

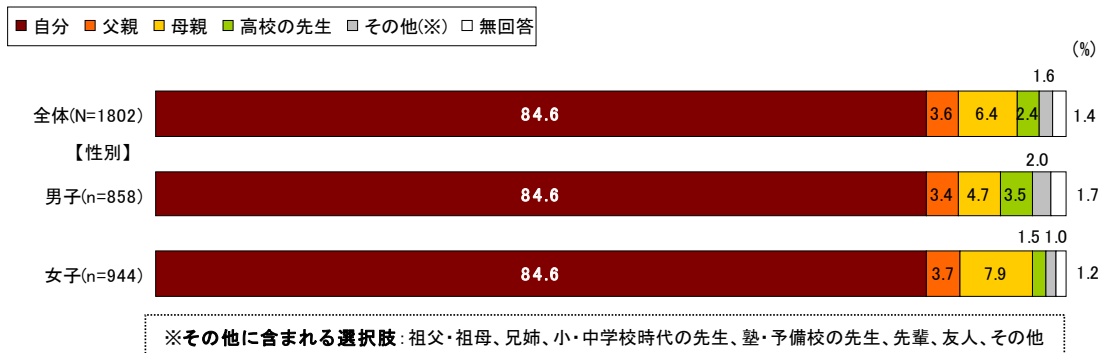
■自分が最優先でないと思う高校生は15%

高校生が高卒後の進路を決めていく際、誰の考えが強く反映されるのだろうか。高校生と保護者それぞれに、考えが優先されると思う順に本人とその周辺人物を並べてもらった。まず高校生は、「自分」が一番優先されるとの回答が85%。それ以外の15%は「父親」「母親」などをあげており、自分の考えが最優先ではないと思う高校生が少なからず存在する。2番目に優先される人は「父親」と「母親」の2項目で65%になる。男子は「父親」、女子は「母親」という回答が多めだ。

一方の保護者は、一番優先されるのは「子ども本人」だと96%が回答した。高校生の考えよりも「本人」の比率が10ポイント以上も高いというギャップがあり、実際に保護者の回答どおりほとんどの高校生が自分の意志で決められるかは気になるところだ。また、2番目に優先される人に最も多いのは「父親」で40%が回答。次いで「高校の先生」、「母親」が17%で続く。

Q. 高卒後の進路を決める際に誰の考えが優先されると思うか

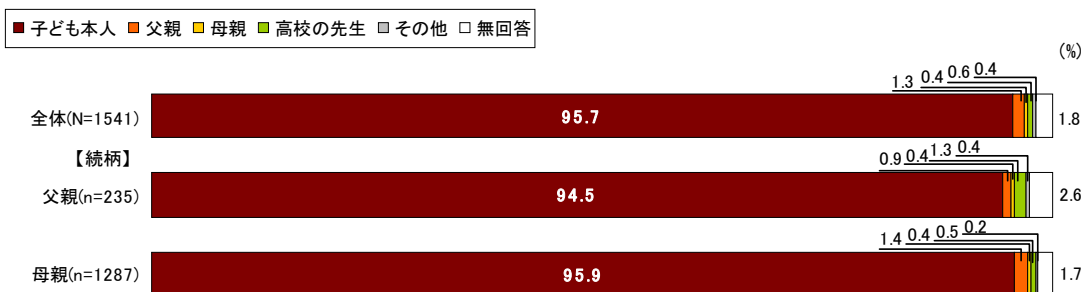
■ **高校生** (1番目に優先される人)



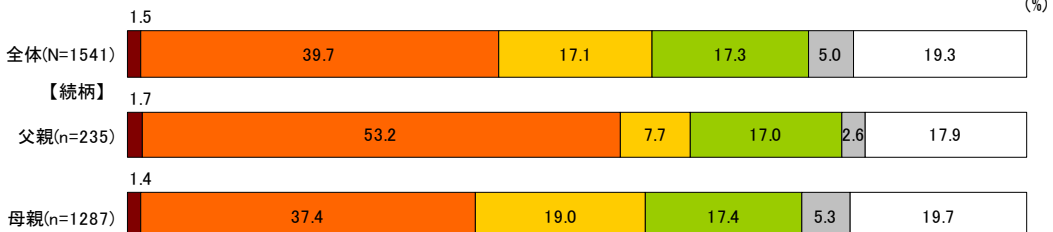
■ **高校生** (2番目に優先される人)



■ **保護者** (1番目に優先される人)



■ **保護者** (2番目に優先される人)



Ⅱ. 進学に関する考え

11. 進学についての価値観①高校生

■「自分のやりたいことができる学校に進学したい」という高校生は94%

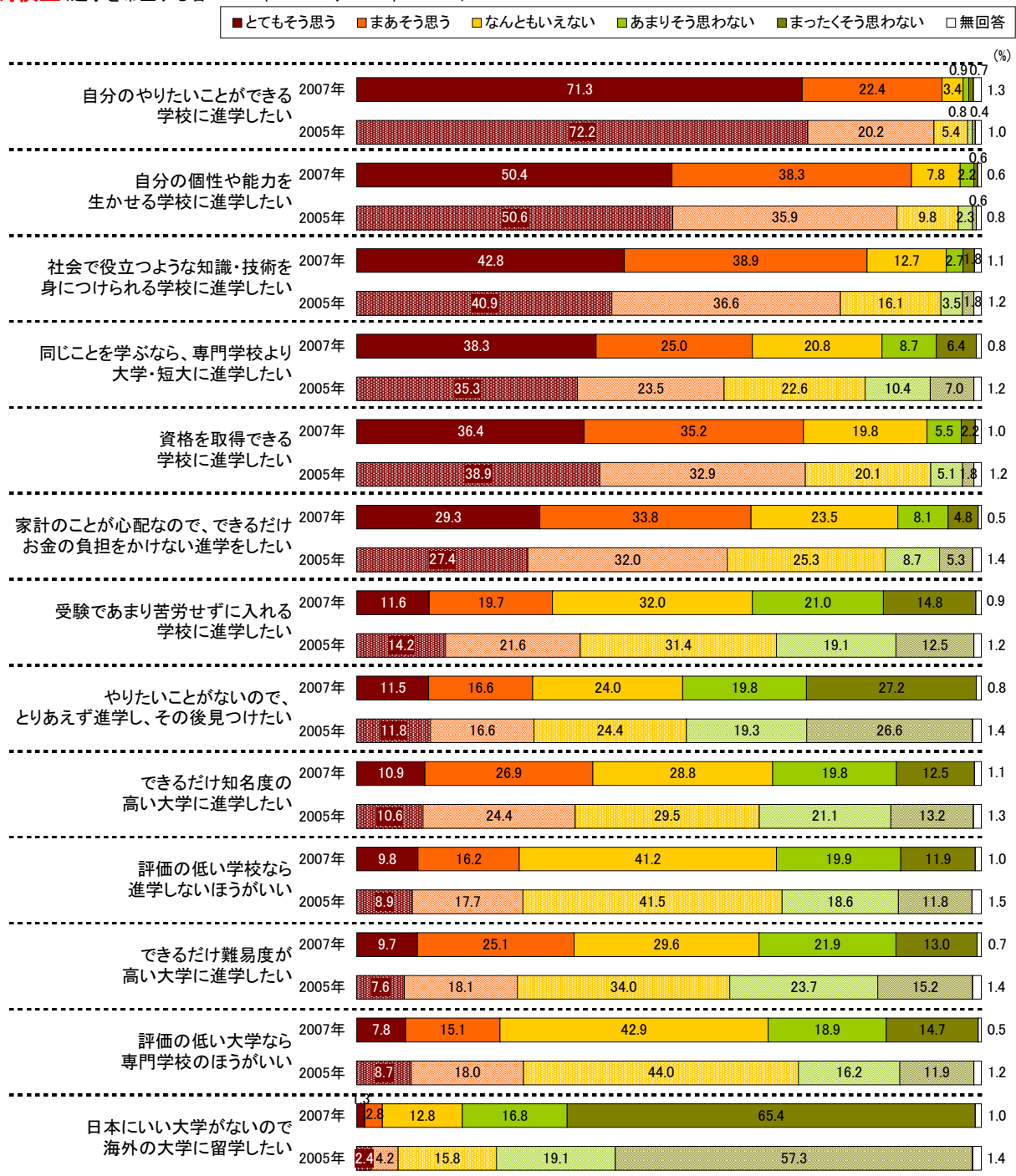
■「専門学校より大学・短大に進学したい」が前回より増加

進学を希望する高校生に、進学に関する下記の13の考え方についてそれぞれどう思うかを聞いた。

「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計が最も多いのは「自分のやりたいことができる学校に進学したい」で94%。「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」「社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい」と思う人も8割を超えた。前回比で注目したいのは、「同じことを学ぶなら、専門学校より大学・短大に進学したい」「できるだけ難易度の高い大学へ進学したい」と思う人は増加、「評価の低い大学なら専門学校のほうが良い」と思う人は減少している点で、大学志向の高まりがうかがえる。

Q. 高校生は進学に関してどんな価値観を持っているか

■ **高校生** (進学を希望する者: 2007年 n=1325、2005年 n=1909)



12. 進学についての価値観②保護者

■「本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」という保護者は98%

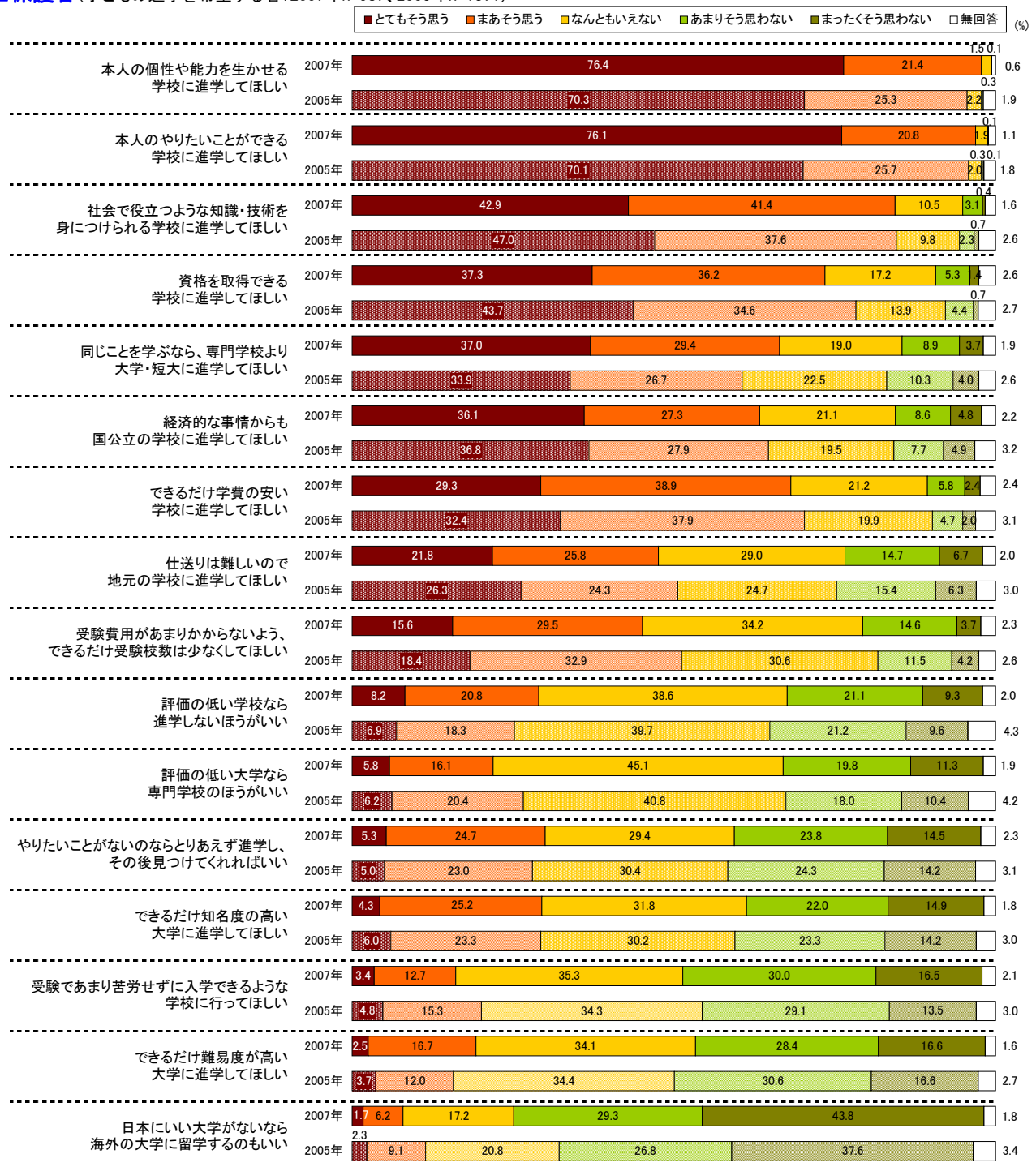
■「専門学校より大学・短大に進学してほしい」が前回より増加

子どもの進学を希望する保護者に対して、進学に関する16の考え方について同様に質問した。「本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」と「本人のやりたいことができる学校に進学してほしい」と思う人はともに95%超。「やりたいこと」や「個性や能力」を重視するという価値観は、高校生と共通しているようだ。

前回との比較が目立つのが、「同じことを学ぶなら、専門学校より大学・短大に進学してほしい」と思う人の増加と「資格を取得できる学校に進学してほしい」「評価の低い大学なら専門学校のほうがいい」と思う人の減少。高校生と同じように、専門学校より大学という傾向が強まっているようだ。

Q. 保護者は子どもの進学に関してどんな価値観を持っているか

■保護者(子どもの進学を希望する者:2007年n=987、2005年n=1371)



Ⅲ. 働くことに関する考え

13. 高校生が希望する職業

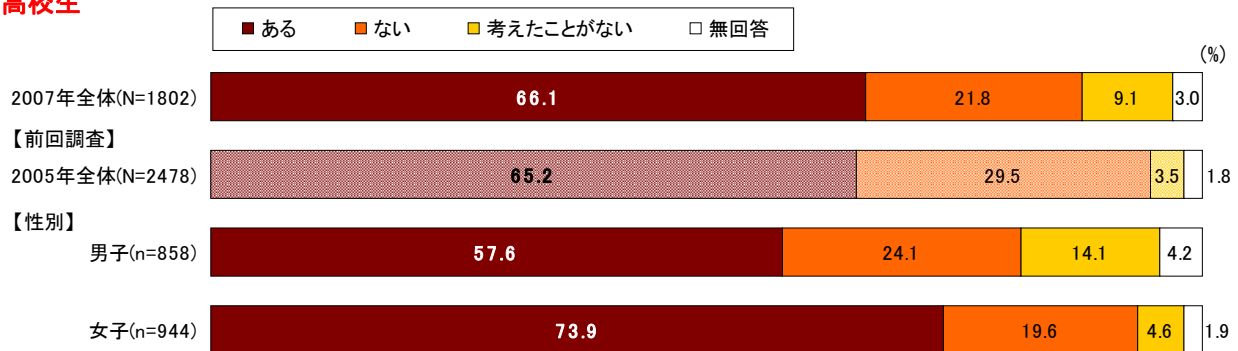
■高校生が希望する職業No.1は「公務員」

■男子には「モノづくり」、女子には「看護師」が人気

高校生に将来就きたい職業があるか質問すると、66%が「ある」と回答。その具体的な職業で最も多かったのは、前回同様「公務員」だ。男子には「製造・加工・組立などのモノづくり」「公務員」「技術者・研究者」、女子には「看護師」「保育士・幼稚園教諭」「教師」が人気だ。

Q. 高校生には将来就きたい職業があるか

■高校生



Q. 高校生はどんな職業に就きたいか(就きたい職業がある者)

■高校生

全体(n=1192)		【2005年】 (n=1616)	
職業	%	順位	%
1 公務員(国家・地方)	7.9	1	9.3
2 看護師	6.7	5	4.6
3 教師	6.5	2	6.7
4 製造・加工・組立などのモノづくり	5.7	-	-
5 保育士・幼稚園教諭	5.1	3	6.5
6 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	4.4	7	3.6
7 技術者・研究者	4.2	4	5.4
8 薬剤師	4.0	11	2.5
9 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.4	17	1.8
10 事務	3.2	16	1.9
11 医師・歯科医師・獣医	3.0	10	3.0
12 整備士	2.0	6	3.8
13 トリマー・動物関連	1.9	11	2.5
14 会社員	1.8	20	1.6
14 販売(ショップの店員など)	1.8	19	1.7
美容師・理容師	1.8	8	3.4
ジャーナリスト・編集者・ライター	1.7	23	1.2
17 俳優・タレント・ミュージシャン	1.7	8	3.4
ゲーム関係	1.7	13	2.2
20 弁護士・法律関連	1.6	23	1.2

男子(n=494)		%	
職業	順位	%	順位
1 製造・加工・組立などのモノづくり	1	12.3	1
2 公務員(国家・地方)	2	12.1	2
3 技術者・研究者	3	7.7	3
4 教師	4	7.1	4
5 薬剤師	5	5.1	5
6 整備士	6	4.7	6
7 医師・歯科医師・獣医	7	3.8	7
8 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	8	3.4	8
9 ゲーム関係	9	2.8	9
10 会社員	10	2.6	10
弁護士・法律関連		2.6	

女子(n=698)		%	
職業	順位	%	順位
1 看護師	1	10.9	1
2 保育士・幼稚園教諭	2	8.0	2
3 教師	3	6.0	3
4 事務	4	5.3	4
5 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	5	5.0	5
6 公務員(国家・地方)	6	4.9	6
7 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	7	4.3	7
8 薬剤師	8	3.3	8
9 販売(ショップの店員など)	9	2.7	9
10 医師・歯科医師・獣医	10	2.4	10

※「製造・加工・組立などのモノづくり」は今回からの新規項目

≫ その職業に就きたい理由

- 公務員: リストラがない。収入が安定している(香川・男子、専門)
- 公務員: 親の要望だから(新潟・男子、大短)
- 公務員: 自分の力で社会に何かしたい(東京・男子、大短)
- 看護師: 小さい頃から憧れて、かっこいいと思うから(大阪・女子、専門)
- 看護師: 病気や怪我をしてしまった人を治してあげたい(北海道・女子、大短)
- 教師: 学ぶことの楽しさを教えてあげたいから(栃木・女子、大短)
- 教師: 昔の担任がとてもよい人で、憧れたから(静岡・男子、大短)
- モノづくり: 機械などを造りたいから(宮城・男子、大短)
- モノづくり: 学校でものづくりについて学んでいるが、それがとても楽しいから(宮城・男子、就職)
- 保育士など: 子どもが大好きだから。毎日子どもと関われる仕事かしたい(新潟・女子、専門)
- 調理師など: 自分の作ったものをお客さんが笑顔で食べてくれるといいなと思ったから(新潟・女子、専門)

14. 高校生が希望しない職業

■ 就きたくない職業No.1は「フリーター」

■ 就きたい職業で3位の「教師」は、就きたくない職業でも2位にランクイン

就きたくない職業では前回同様「フリーター」が突出して多く、4人に1人があげた。2位には、『就きたい職業』3位と人気の高い「教師」が入った。以下、「政治家」「医師・歯科医師・獣医」「主婦・主夫」と続く。

男女別に見ると、男女とも1位は「フリーター」。2～5位は男女で順位の違いはあるものの、「教師」「政治家」「主婦・主夫」「医師・歯科医師・獣医」と共通の職業があがった。

Q. 高校生はどんな職業に就きたくないか

■ 高校生

	全体 (N=1802)	%	【2005年】 (N=2478)	
1	フリーター	25.0	1	21.7
2	教師	6.2	3	5.3
3	政治家	5.9	2	7.4
4	医師・歯科医師・獣医	2.6	5	2.8
	主婦・主夫	2.6	4	3.0
6	通訳・翻訳	1.4	13	1.2
	俳優・タレント・ミュージシャン	1.4	6	2.1
8	弁護士・法律関連	1.3	10	1.7
	製造・加工・組立などのモノづくり	1.3	-	-
10	公務員(国家・地方)	1.2	8	2.0
	会社員	1.2	8	2.0
	看護師	1.2	12	1.3
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.2	-	0.0

	男子(n=858)	%
1	フリーター	26.3
2	教師	4.3
3	政治家	3.6
4	主婦・主夫	2.6
5	医師・歯科医師・獣医	1.7
6	製造・加工・組立などのモノづくり	1.6
7	俳優・タレント・ミュージシャン	1.5
8	通訳・翻訳	1.4
	心理カウンセラー	1.4
10	公務員(国家・地方)	1.3
	会社員	1.3

	女子(n=944)	%
1	フリーター	23.7
2	政治家	7.9
3	教師	7.8
4	医師・歯科医師・獣医	3.3
5	主婦・主夫	2.6
6	弁護士・法律関連	1.8
7	看護師	1.7
8	通訳・翻訳	1.4
	俳優・タレント・ミュージシャン	1.4
10	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.3

➤ その職業に就きたくない理由

- フリーター: 収入が安定せず、生活も苦しいから(香川・男子、大短)
- フリーター: 社会で不利な立場になるから(栃木・男子、専門)
- フリーター: お金がたまらないし、将来が心配だから(福岡・女子、大短)
- フリーター: したいことを見つけていない感じがする(静岡・女子、就職)
- フリーター: フラフラしていて、遊んでいるイメージしかないから(栃木・女子、大短)
- 教師: ストレスが一番たまりそうだから(福岡・男子、大短)
- 教師: 教える立場は向いていない(静岡・女子、大短)
- 教師: 高校の先生とか見て、なんで先生なんて面倒くさいことをするんだろうと思うから(東京・女子、就職)
- 政治家: あんな汚い世界いやだね(北海道・女子、大短)
- 政治家: 政界にあまり興味が無いから(大阪・男子、大短)
- 医師など: なるまでの努力が自分にはできない(北海道・女子、大短)
- 医師など: 他人の命に責任が持てないから(静岡・女子、大短)
- 医師など: 血が苦手(東京・男子、大短)
- 主婦・主夫: 働いてお金をもらいたい(香川・男子、大短)
- 主婦・主夫: 生きがいがない。社会に出たい(北海道・女子、専門)
- 主婦・主夫: なんとかか仕事はしたい。パート等でも(香川・女子、専門)
- 通訳・翻訳: 英語がとてつもなく苦手だから(北海道・男子、大短)

15. 保護者が希望する職業

■「公務員」が前回に続き、子どもに就いてほしい職業No.1

■「安定」が保護者にとって最も重要な条件

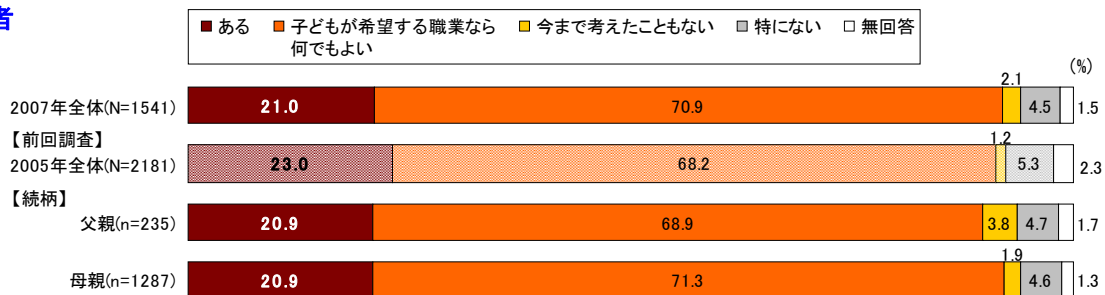
保護者に対して子どもに就いてほしい職業があるか聞いたところ、「ある」という回答は21%。「子どもが希望する職業なら何でもよい」が71%と多数を占めた。「今まで考えたこともない」は2%、「特にない」は5%だ。父母の数字に大きな違いは見られない。

子どもに就いてほしい職業が「ある」という人に具体的な職業を選んでもらったところ、最も多かったのは「公務員」で29%と突出。2位以降には「看護師」「薬剤師」「教師」と国家資格が必要な職業が並んだ。前回と比べると「教師」が順位を下げ、「薬剤師」が上がっているが、上位の顔ぶれはほとんど変わらない。

これらの職業に就いてほしい理由を見ると、公務員の「将来安定しているから」、看護師の「これから先も絶対になくならない」、薬剤師の「高収入で再就職も可能」など、雇用や収入の安定をあげるコメントが多かった。

Q. 保護者は子どもに就いてほしい職業があるか

■保護者



Q. 保護者は子どもにどんな職業に就いてほしいか (就いてほしい職業がある者)

■保護者

全体 (n=323)		【2005年】 (n=501)		男子(n=136)		女子(n=187)			
順位	職業	%	順位	職業	%	順位	職業	%	
1	公務員(国家・地方)	29.4	1	公務員(国家・地方)	36.0	1	公務員(国家・地方)	24.6	
2	看護師	8.4	3	会社員	8.1	2	看護師	12.8	
3	薬剤師	7.4	6	技術者・研究者	8.1	3	薬剤師	10.2	
4	教師	6.2	2	医師・歯科医師・獣医	7.4	4	教師	7.0	
5	技術者・研究者	5.9	4	教師	5.1	5	保育士・幼稚園教諭	5.9	
6	医師・歯科医師・獣医	5.3	5	製造・加工・組立などのモノづくり	5.1	6	事務	5.3	
7	会社員	3.7	7	7	薬剤師	3.7	7	技術者・研究者	4.3
8	保育士・幼稚園教諭	3.7	8	8	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.9	8	医師・歯科医師・獣医	3.7
9	事務	3.1	9	9	弁護士・法律関連	2.2	9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.2
9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.1	19	9	整備士	2.2	10	フライトアテンダント・グランドスタッフ	2.1
					看護師	2.2			

➤ その職業に就いてほしい理由

- **公務員**: 子どもの希望や資質に合っているし、安定しているから (静岡・母親、女子)
- **公務員**: 倒産することがないから (北海道・母親、男子)
- **公務員**: 安定している。男女の給料格差がない。結婚、出産しても就業可能である (北海道・母親、女子)
- **公務員**: 人の役に立つ仕事に就いてほしい。安定。性格的にコツコツ、きっちり型なので (大阪・母親、男子)
- **看護師**: これから先も絶対になくならず、なおかつ必要性が高いので (新潟・母親、女子)
- **看護師**: やりがいがあり、求人が多い (東京・母親、男子)
- **看護師**: 子ども自身が希望しているし、将来一人になっても安心な職業かな (宮城・母親、女子)
- **薬剤師**: なれば価値があり、やりがいがある。女性のわりに高収入なので、安定した生活が送れる (栃木・母親、女子)
- **薬剤師**: 高収入で再就職も可能で、年齢も問われない (香川・母親、女子)
- **薬剤師**: 資格を取得して、専門分野で活躍してほしい (香川・母親、女子)
- **教師**: 安定した職業・やりがいのある職業だと思うから (新潟・母親、女子)
- **教師**: 子ども (小学校時代) のころからの希望だった (東京・母親、女子)
- **教師**: 本人が希望し、適性もあると思うから (新潟・母親、女子)
- **技術者・研究者**: 求人情報を見ても、技術者系はとくに優遇されている傾向にある (福岡・母親、男子)
- **技術者・研究者**: 創造性が豊かであり、自分のペースで仕事ができる。さらに興味あるものの研究は充実感が得られる (静岡・父親、女子)
- **医師など**: 医師不足と言われる今、社会に貢献できるのではないかと。子どもに向いているようにも思う (新潟・母親、女子)
- **医師など**: しっかりしていて判断力があり、性格に合っているとと思うから (香川・父親、男子)
- **医師など**: 開業医をしているので (新潟・母親、男子)
- **会社員**: 安定している会社に勤めてほしい (福岡・母親、男子)
- **会社員**: 大企業なら公務員にも負けない魅力があるから (大阪・父親、男子)
- **保育士・幼稚園教諭**: 本人が中学校時代から望んでいるため (静岡・母親、女子)
- **事務**: 仕事人間ではなく、結婚後のことを考えて！ (新潟・母親、女子)
- **事務**: 社会的な立場。安定した収入 (北海道・母親、女子)
- **福祉関係**: これからの世の中に必要な職種だと思うから (宮城・母親、女子)
- **福祉関係**: 気持ちは優しく、老人や障害者に対してスムーズに接している (大阪・母親、男子)

16. 高校生が目指す人

■「目指している人や憧れている人がいる」高校生は28%

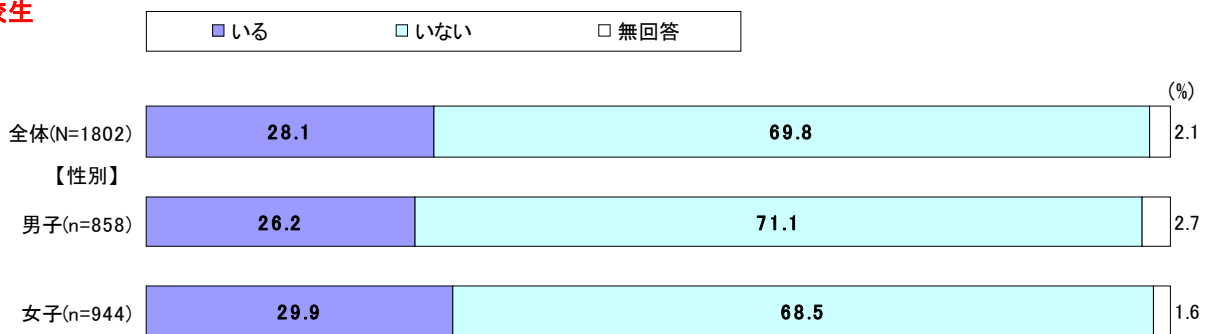
■目指している人物が「父親」は15%、「母親」は12%

高校生に自分の将来像を考えた時に目指している人や憧れている人がいるかを聞いたところ、「いる」は28%と少数派。70%が「いない」と回答した。男女別に見ると、目指す人が「いる」という男子は26%、女子は30%で、若干、女子のほうが多い。

また、目指す人物を大きく3つから選んでもらったところ、「父親」が15%、「母親」が12%、「有名人」が25%だった。その他には「先生」「先輩」「ボランティアと一緒にしている人」「職場体験でお世話になった人」など身近に接したことのある人物が多くあがった。

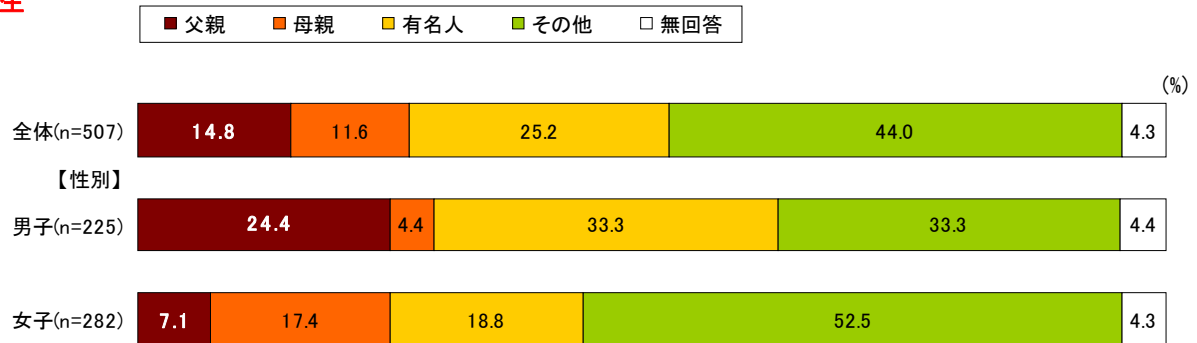
Q. 目指している人や憧れている人はいるか

■高校生



Q. 目指している人は誰か(目指している人がいる者)

■高校生



≫ その人を目指す理由

■父親

- かっこいいと思うから(北海道・男子、大短)
- 家族のために毎日頑張っているから(香川・男子、就職)
- 稼ぐし、とにかくすごいと思うから(東京・男子、大短)
- とても優しく、そんなふうにながくて、誰かを助けられる人になりたいから(香川・女子、大短)

■母親

- 家庭を築いた時に、自分の母親のような母親になりたい(香川・女子、大短)
- 子育ても家事も仕事も、すべて両立できていてすごいと思う(北海道・女子、就職)
- 周りから信頼され、明るく生きているから(栃木・女子、大短)
- 辛いけどその分楽しい、みたいなことを言っていたから(北海道・男子、専門)

■有名人

- イチロー:考えが素晴らしいから(福岡・男子、大短)
- マザー・テレサ:人のため、困っている人のために一生尽くしてすごい(大阪・女子、大短)
- 黒柳徹子:世界の役に立てるようなことをしているから(新潟・女子、専門)

■その他

- 中学の時の先生:考え方や行動がすばらしく、とても尊敬している(香川・女子、大短)
- 先輩:自分自身のことも頑張り、さらに友人をサポートできるような人に、自分もなりたいと思ったから(東京・男子、大短)
- ボランティアと一緒にしている人:生き生きしていて、楽しそう(東京・女子、大短)

17. ニートに関する考え

■「なったら保護者がかわいそう」という高校生は41%

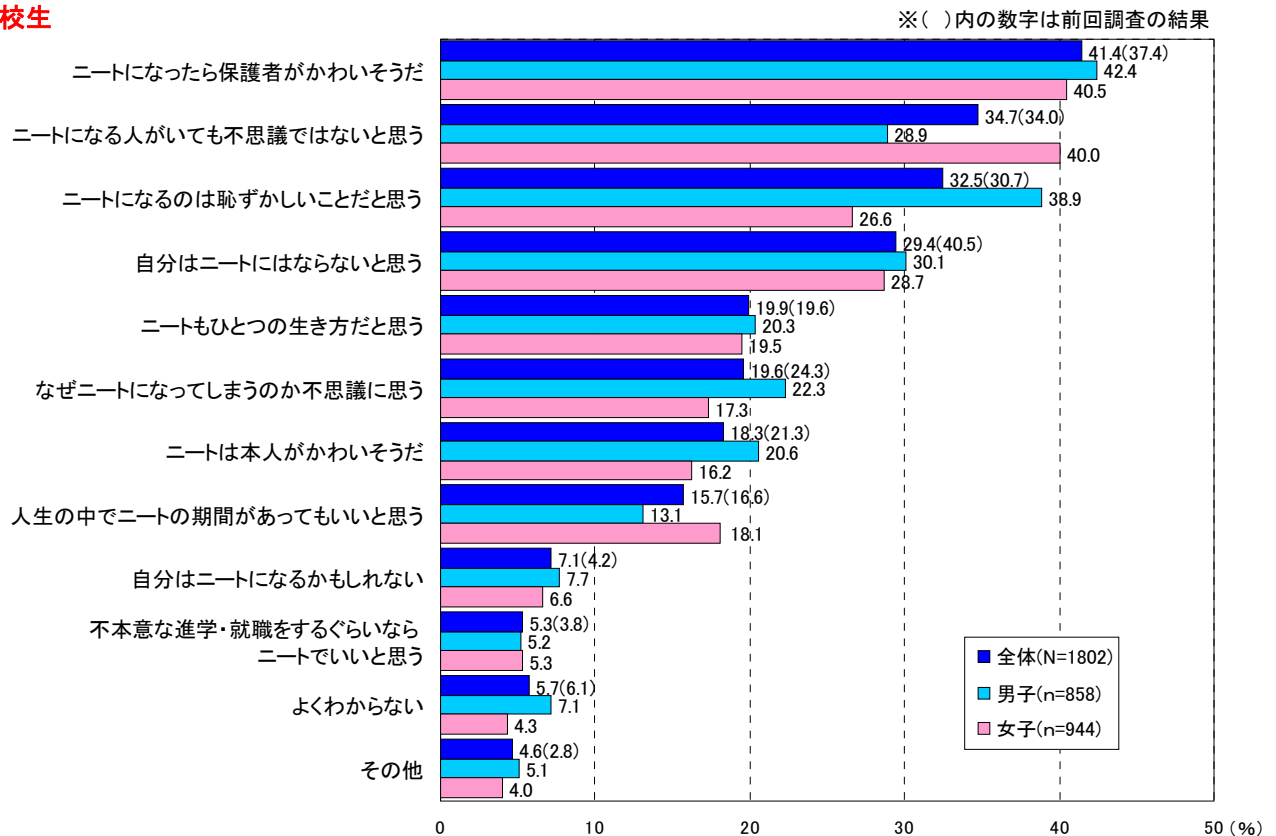
■「自分はニートにならない」が大きく減少

ニートに対してどう思うかを高校生に聞いたところ、多かった意見は「ニートになったら保護者がかわいそうだ」41%、「ニートになる人がいても不思議ではないと思う」35%、「ニートになるのは恥ずかしいことだと思う」33%などだ。前回調査で41%と最多だった「自分はニートにはならないと思う」は29%に激減。「なぜニートになってしまうのか不思議に思う」も前回より減っており、ニートに否定的な意見の減少が目立つ。男女別では「ニートになる人がいても不思議ではないと思う」「人生の中でニートの期間があってもいいと思う」などニートを容認するような意見は女子が多い。

保護者には、子どもが今後ニートになる不安があるかを聞いた。「ならないと断言できる」「たぶんならないと思う」の合計は84%で、前回より増加した。「いつかなりそうな予感がする」「なりそうな兆候を強く感じる」は3%と少数だ。前回同様、保護者のほうが楽観的な印象を受ける。

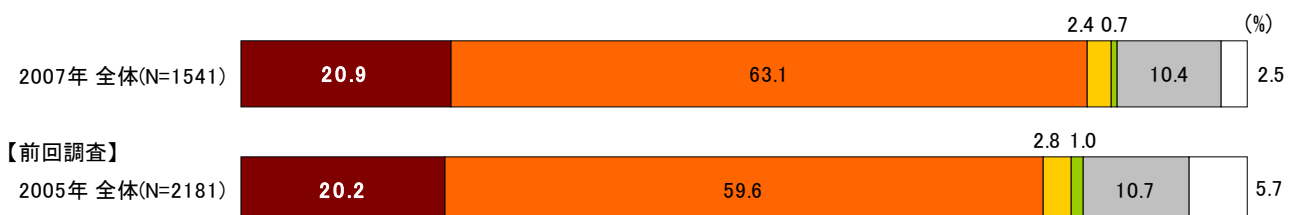
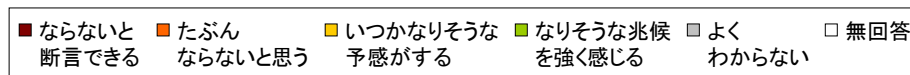
Q. ニートに対してどう思うか(複数回答)

■高校生



Q. 子どもがニートになる不安はあるか

■保護者



IV. 進路にまつわる不安と困難

18. 進路を考える時の気持ち

■「楽しい」という高校生は24%、「不安になる」は49%

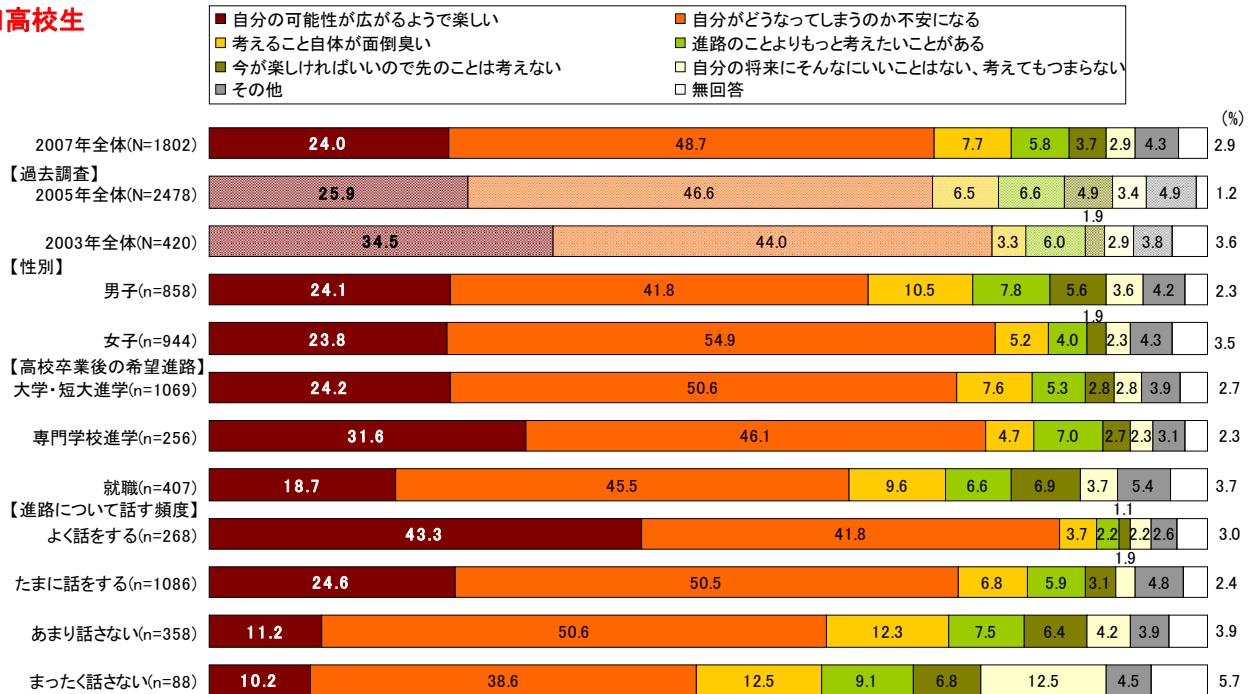
■「楽しい」高校生は保護者から「自分の好きなことをしなさい」と言われる割合が他の高校生より大きい

高校生に進路を考える時の気持ちを聞いたところ、「自分の可能性が広がるようで楽しい」という人は24%。最も多いのは「自分がどうなってしまうのか不安になる」で49%が回答した。前々回から前回にかけての変動と同様、今回も「楽しい」が減り、「不安」は増している。男女別では女子に「不安」の多さが目立つ。【希望進路】別では、大学・短大進学希望者は「不安」が多めで、専門学校進学希望者は「楽しい」が多めだ。【進路について保護者と話す頻度】別に見ると、話をするほど「楽しい」が多くなり、「よく話をする」人では「楽しい」が「不安」を上回る。

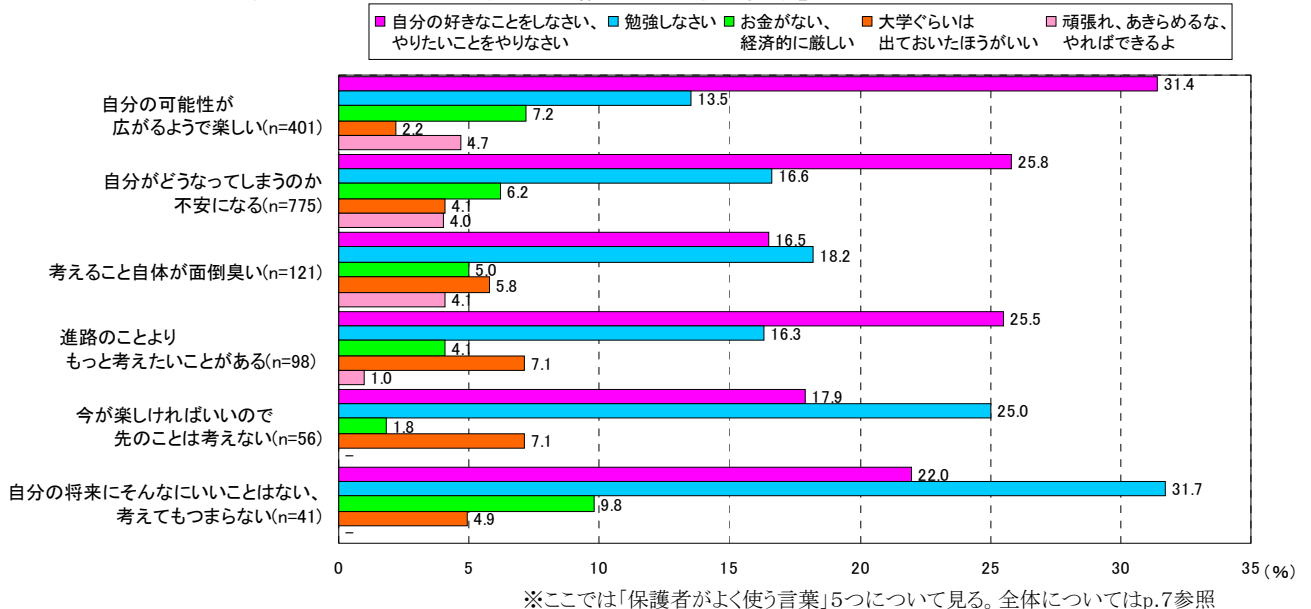
また、こうした気持ち別に『保護者がよく使う言葉』の回答(参考p.7)を見ると、「楽しい」人は「自分の好きなことをしなさい」と言われる割合が他の人よりも大きい。「考えること自体が面倒臭い」「今が楽しければいい」「自分の将来にそんなにいいことはない」という人は「勉強しなさい」が一番多い。

Q. 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか

■高校生



●進路を考える時の高校生の気持ち別に見た「保護者がよく使う言葉」



19. 進路選択に関する気がかり

■「学力不足」が58%で最大の気がかり

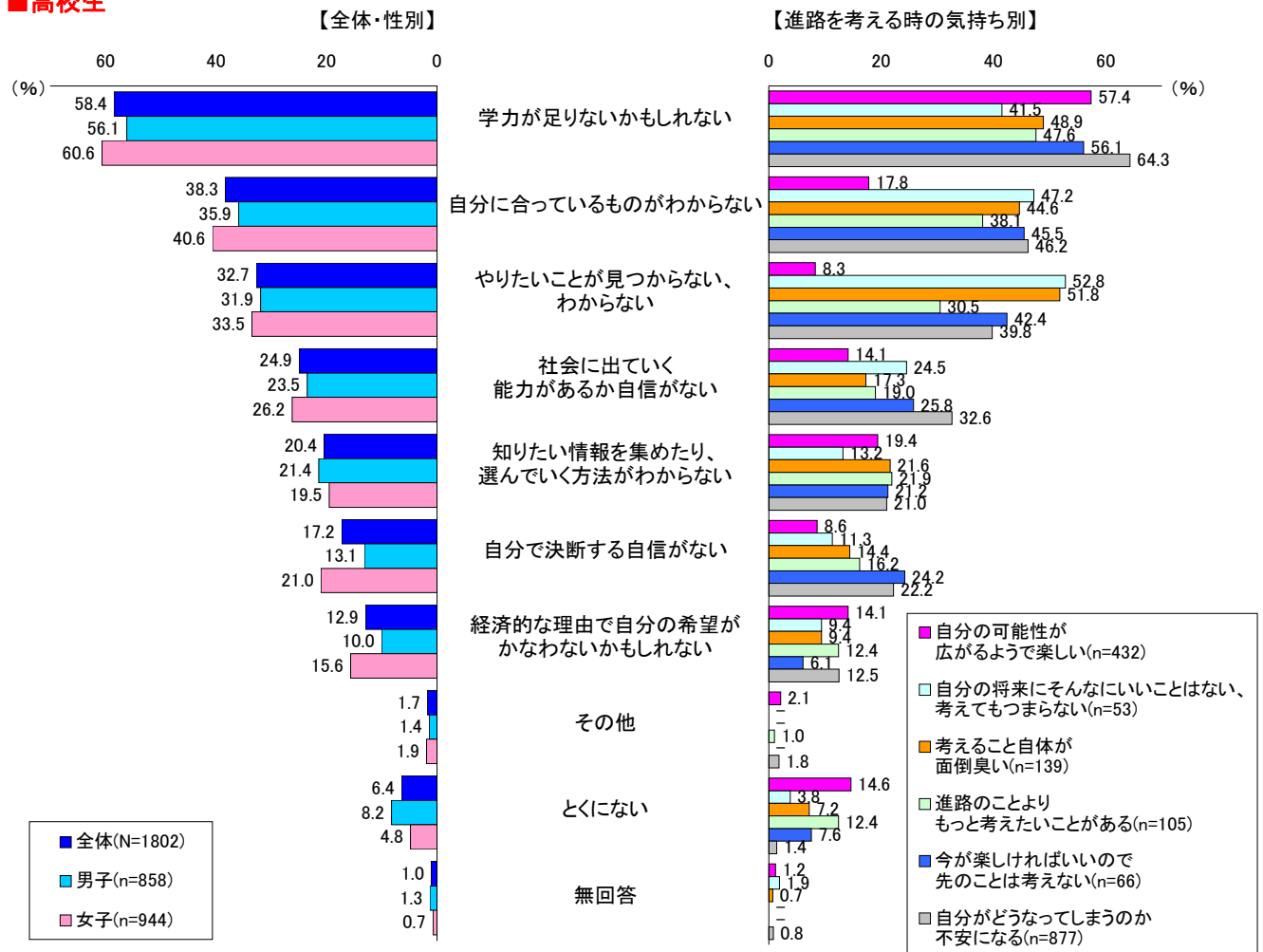
■進路を考える時の気持ちが「楽しい」人は「やりたいことが見つからない、わからない」がわずか8%

進路選択に関する気がかりの内容について高校生に質問したところ、最多は「学力が足りないかもしれない」で58%が回答。「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」など、自分の適性や目標が見えないことへの不安も多い。

【進路を考える時の気持ち】別(参考p.21)を見ると、「楽しい」人は「自分に合っているものがわからない」が18%、「やりたいことが見つからない、わからない」は8%と少なく、自分の適性や目標を比較的良好に認識しているようだ。

Q. 進路選択に関してどんなことが気がかりか(複数回答)

■高校生



20. 働くことの気がり

■働くことについて「気がりなことがある」という高校生は74%

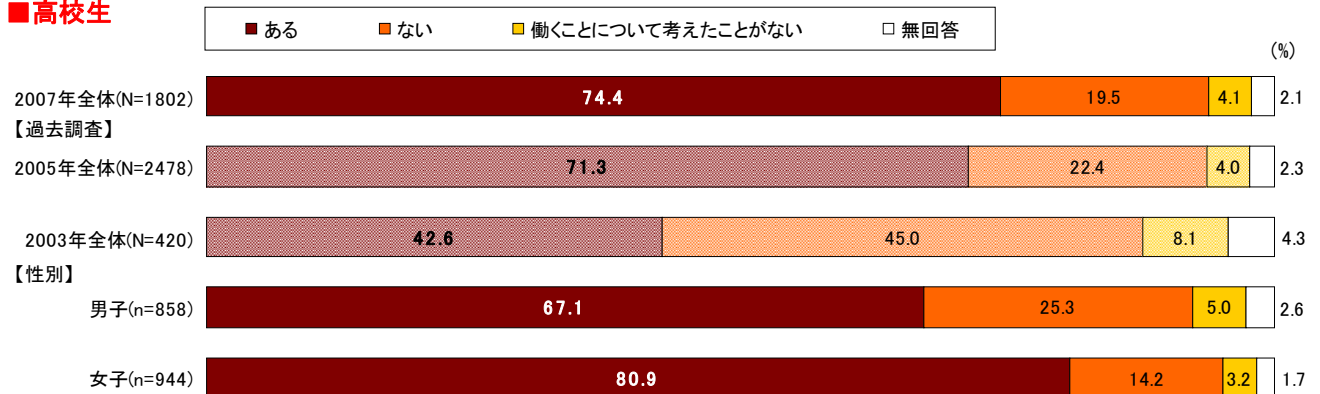
■最も気がりなのは「就きたい職業に就けるか」で63%が回答

将来働くことについて気がりなことがあるかを高校生に質問したところ、「気がりなことがある」は74%。前々回の43%から前回は71%と大きく増えたが、今回もわずかではあるがさらに増加した。p.21の『進路を考える時の気持ち』同様、やや不安が増しているといえるかもしれない。女子は「ある」が男子より多く、8割を超える。

では具体的にどんなことが気がりなのだろうか。最も多かったのは「就きたい職業に就くことができるだろうか」で63%が回答した。そのほか「十分な収入が得られるだろうか」48%、「職場の人間関係がうまくいだろうか」46%も多い。希望進路別に見ると「収入」「人間関係」「仕事を覚えられるか」などは就職希望者に多かった。

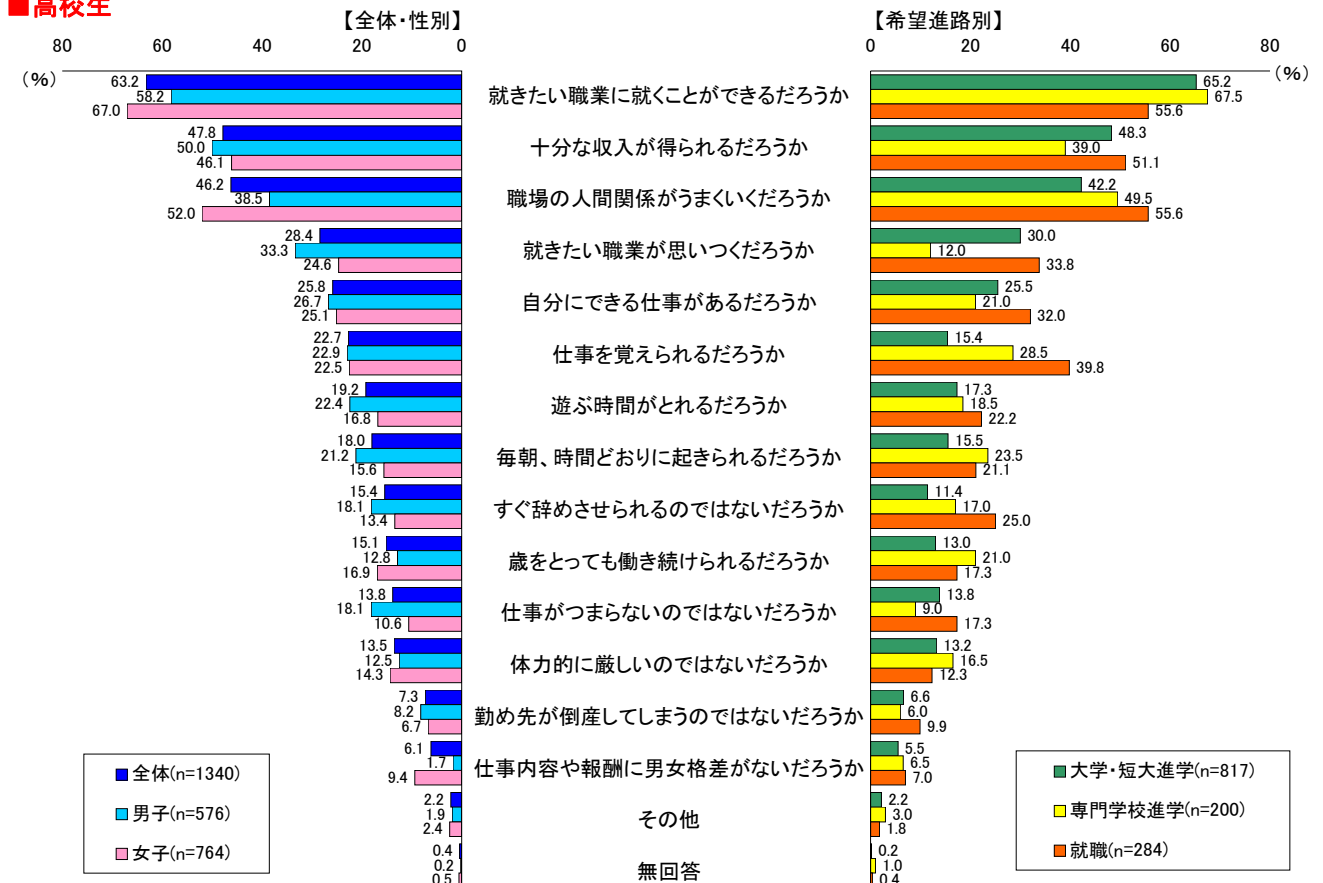
Q. 高校生は将来働くことについて気がりなことがあるか

■高校生



Q. 働くことについてどんなことが気がりか (気がりなことがあると回答した者・5つまで回答)

■高校生



21. 子どもが働くことの気付き

■ 子どもが働くことについて「気付きなことがある」という保護者は65%

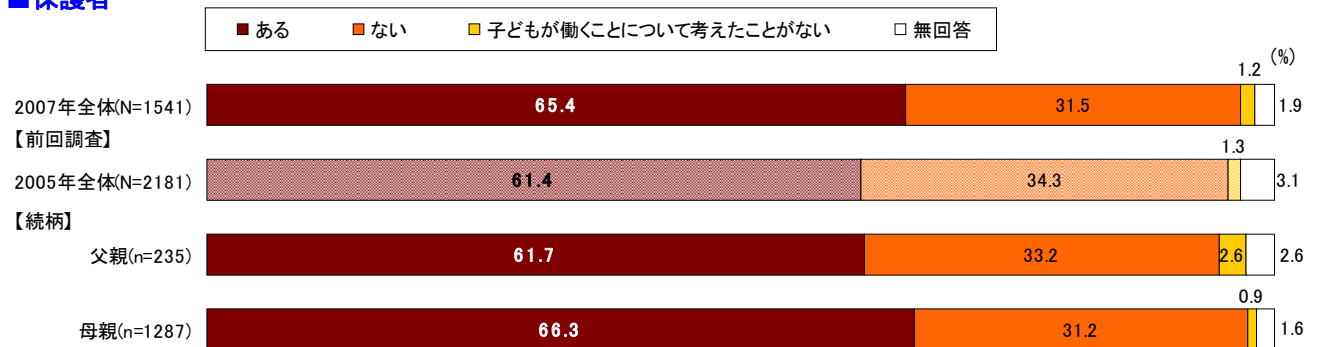
■ 最も気付きなのは「就きたい職業に就けるか」で78%が回答

子どもが将来働くことについて気付きなことがあるか、高校生と同じように保護者にも質問した。「気付きなことがある」は65%で、高校生の回答よりは少なかった。父親より母親のほうが気付きを感じているようだ。

具体的な気付きの内容について、最も多かったのは高校生と同様に「就きたい職業に就くことができるだろうか」で、保護者の78%が回答した。次に多かった「職場の人間関係がうまくいだろうか」49%、「就きたい職業が思いつくだろうか」32%については、高校生以上に心配しているようだ。

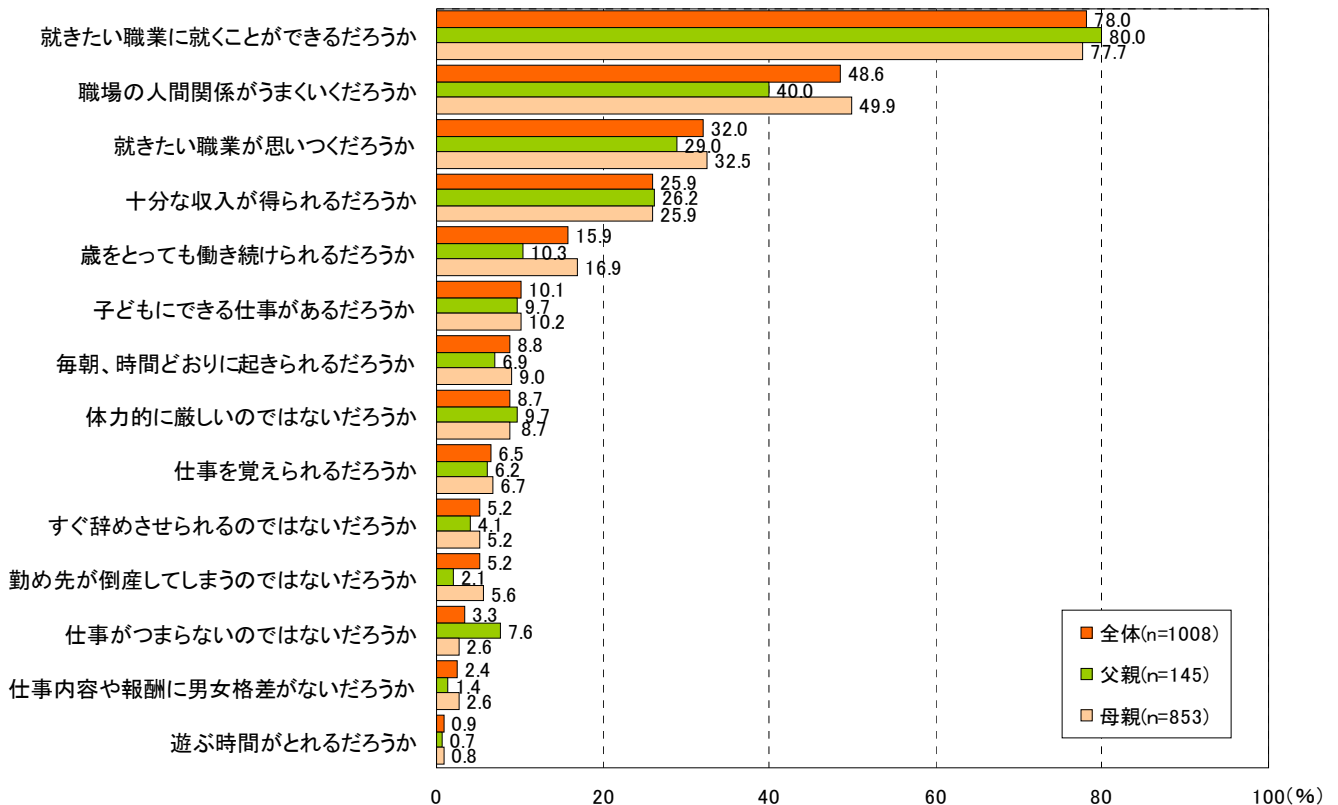
Q. 保護者は子どもが働くことについて気付きなことがあるか

■ 保護者



Q. 子どもが働くことについてどんなことが気付きか(気付きなことがあると回答した者・5つまで回答)

■ 保護者



22. 未来社会への認識

■「好ましくない」という高校生は59%、保護者は70%

■雇用環境の改善で「好ましい」が微増

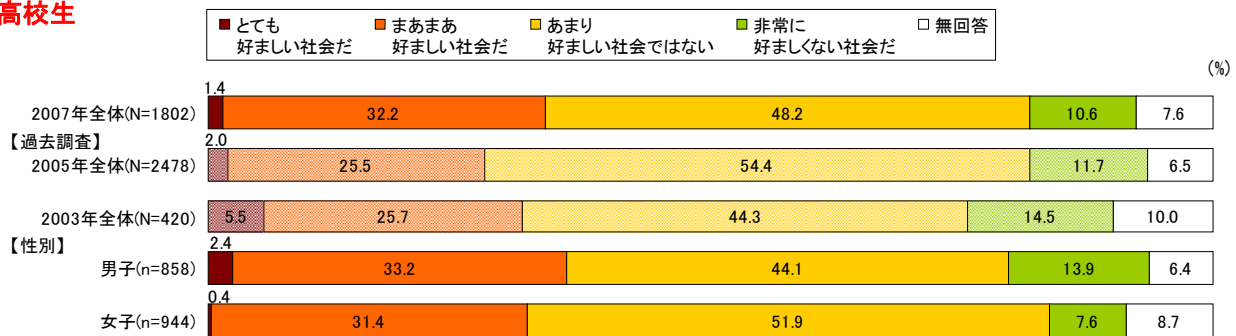
これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか、親子それぞれに聞いた。高校生の回答では、「とても好ましい社会だ」と「まあまあ好ましい社会だ」の合計が34%と前回より少し増えたが、「あまり好ましい社会ではない」と「非常に好ましくない社会だ」の合計59%にはまだ遠く及ばない。

保護者の回答でも「とても好ましい社会だ」と「まあまあ好ましい社会だ」の合計が前回より多い22%となったが、「あまり好ましい社会ではない」と「非常に好ましくない社会だ」の合計は70%で依然として厳しい見方が多数を占める。

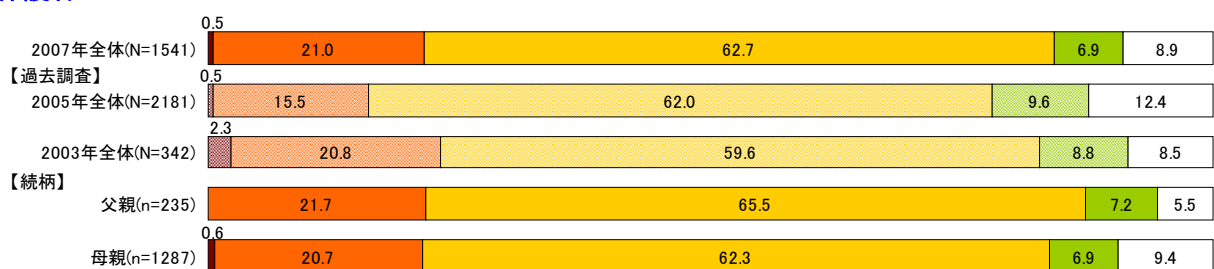
好ましいと思う理由には「景気は回復してきている」「就職しやすいと聞いた」といったコメントが目立ち、雇用環境の改善が「好ましい」の増加に影響したことが考えられる。また、好ましくないと思う理由には、「格差が広がっていきそう」「増税」「年金問題」「モラルの低下」などの言葉が数多く見られた。

Q. これからの社会は高校生にとって好ましいか

■高校生



■保護者



≫ 未来社会についてそう思う理由

■高校生

【とても好ましい】

○価値観の多様化やIT革命で、自分の才能を伸ばせそうな社会だから(北海道・男子、大短)

【まあまあ好ましい】

○格差社会は大変だけど、お金持ちにもなれるから(北海道・女子、大短)

○景気は回復してきているので、このまま回復していけばいいと思う(宮城・男子、就職)

○団塊の世代の人たちが退職して、就職しやすいと聞いたから(新潟・男子、就職)

○進学がしやすくなっているから(北海道・男子、大短)

【あまり好ましくない】

○格差がどんどん広がっていきそうだから(静岡・女子、大短)

○景気が今後どうなるか不安だから(福岡・男子、就職)

○お年寄りが増え、それを支える若者が少なく、一人ひとりの負担が増えるから(北海道・女子、大短)

○政治とか見ていると、本当に嫌な社会だと思うから(静岡・女子、就職)

【非常に好ましくない】

○高齢化だし、消費税上がるかもだし、何かとお金かかりそう(新潟・女子、大短)

○人が生きにくい。大人のツケが回ってくる(東京・女子、大短)

○物騒で暮らしにくい(静岡・女子、大短)

■保護者

【とても好ましい】

○力のあるもの、努力するものは認められると思うので。現在、パソコン、英語を得意としています(東京・母親、男子)

【まあまあ好ましい】

○就職率が上がってきているから(静岡・母親、女子)

○多少不満はあるが、ちゃんと働けば食べていけると思うから(北海道・母親、女子)

○そう思わないと夢や希望を持ってないので(福岡・その他、女子)

【あまり好ましくない】

○格差が広がっていて、本人の努力ではどうにもならない部分がある(宮城・父親、男子)

○いろいろな意味で一生懸命だったり真面目だけでは生きていけない社会だから(宮城・母親、男子)

○年金問題、税金問題など、不安な要素が多くて好ましいとは考えにくい(栃木・母親、女子)

○人間としてのモラルが低下し、心の痛む事件が多いから(東京・母親、男子)

○親自身も毎日不安な将来を思っている(宮城・母親、男子)

【非常に好ましくない】

○年金、格差、環境のどれをとっても、子どもに夢を語って聞かせてやれない。また、子どもも夢を語れない(香川・母親、男子)

23. 保護者がアドバイスすることの困難

■「アドバイスが困難」という保護者は70%

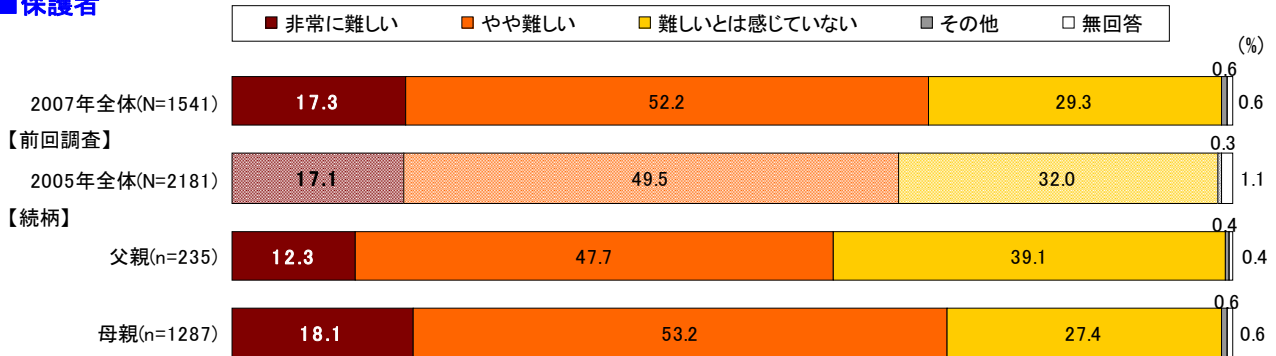
■「予測できない社会」が困難さの最大要因

進路選択について子どもにアドバイスすることを、保護者の17%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」と合わせると70%で、前回よりわずかに増加した。8割近い保護者がアドバイスしているものの(p.10参照)、困難はあるようだ。とくに母親は父親より10ポイント以上「難しい」が多く、より困難さを感じている。

また、難しいと感じる人にその要因をたずねると、「社会がどのように変わっていくのか予測がつかない」が最多で52%、次が「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」で47%。父親は「子どもが何を考えているのかよくわからない」「子どもがアドバイスを望んでいない」など親子の関わり方の問題が母親に比べて多めだが、前回からは減少している。母親は「アドバイスできるほど自分の生き方・考え方に自信がない」「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引ける」などが多めで、子どもの進路選択に対する自信のなさがうかがえる。

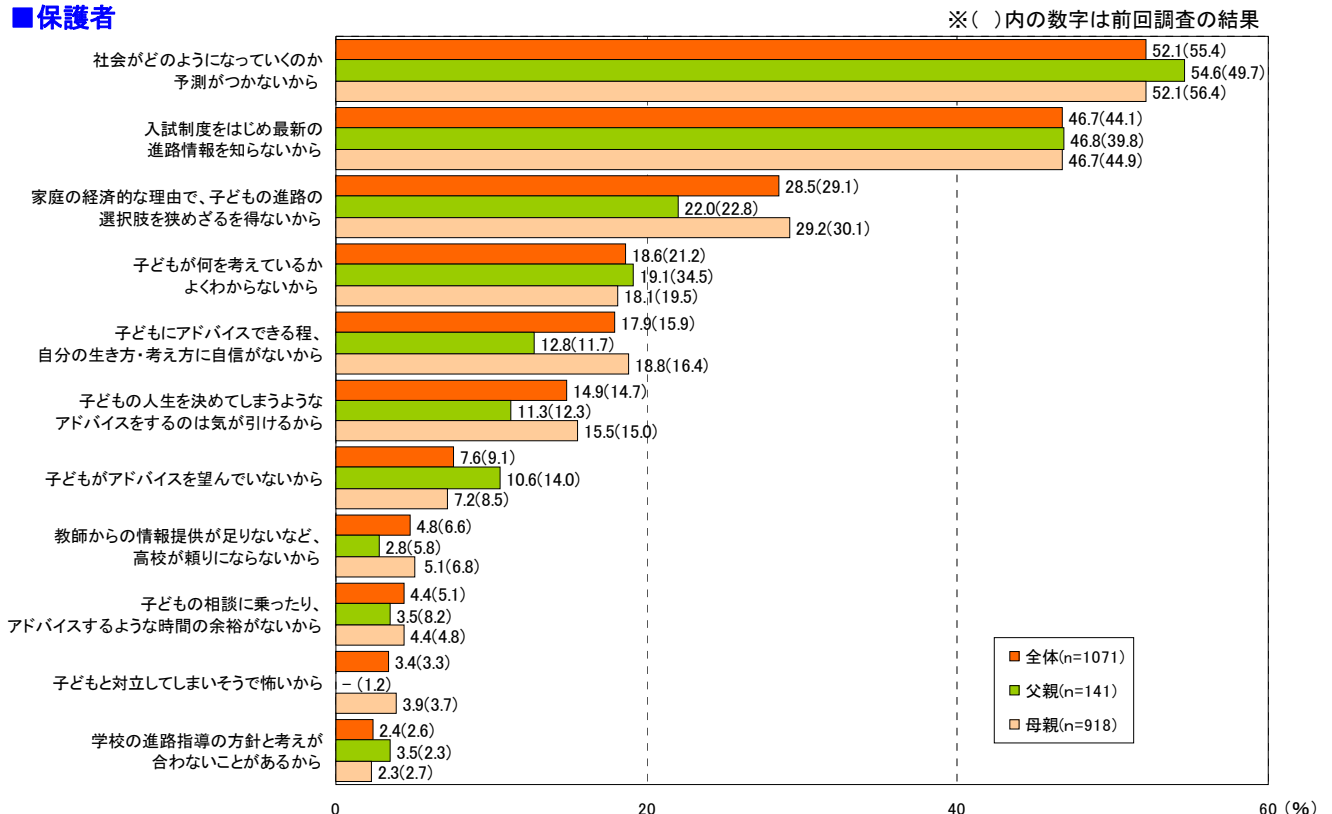
Q. 高校生の進路選択へのアドバイスを難しいと感じるか

■保護者



Q. 進路選択のアドバイスが難しいと感じる要因は何か(難しいと感じる者・複数回答)

■保護者



24. 保護者の印象①

■父親を「楽しそう」と感じる高校生は63%、母親を「楽しそう」と感じる高校生は72%

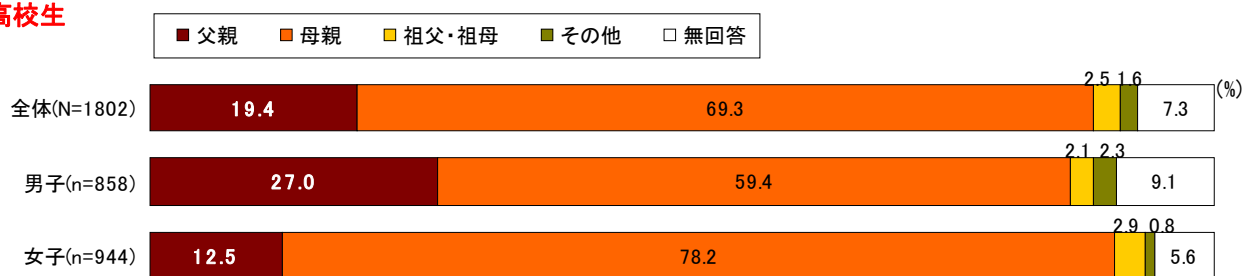
■「自分が楽しそうに見えると思う」父親は64%、母親は73%

保護者の姿は高校生の目にどのように映っているだろうか。高校生にいちばん身近な保護者を選んでもらい、その保護者に対する印象をたずねた。いちばん身近な保護者を「父親」と回答した人は19%で、その印象が「とても楽しそう」と「まあまあ楽しそう」の合計は63%。また、いちばん身近な保護者を「母親」と回答した人は69%で、その印象が「とても楽しそう」と「まあまあ楽しそう」の合計は72%。「父親」より「母親」のほうが「楽しそう」という回答が多かった。

一方の保護者には、普段の自分の姿が子どもからどのように見えていると思うかを質問した。「とても楽しそうに見える」と「まあまあ楽しそうに見える」の合計は、全体で71%。これを父母別に見ると、父親は64%、母親は73%で、それぞれに対する高校生の回答とほぼ同じような数字だった。

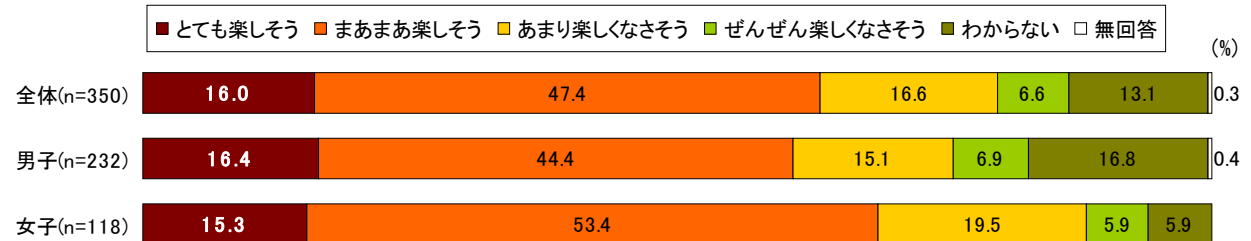
Q. いちばん身近な保護者

■高校生

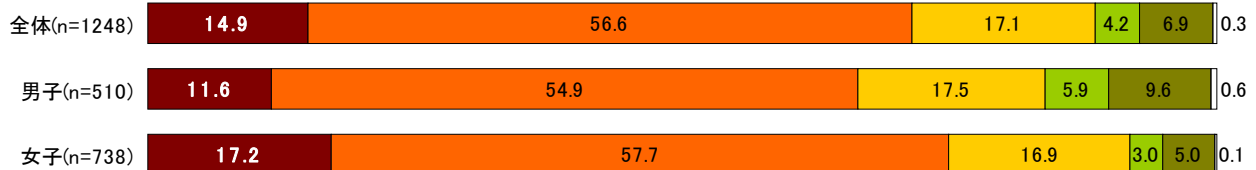


Q. いちばん身近な保護者は普段、どのような印象か

●父親の印象(「いちばん身近な保護者は父親」と回答した者)

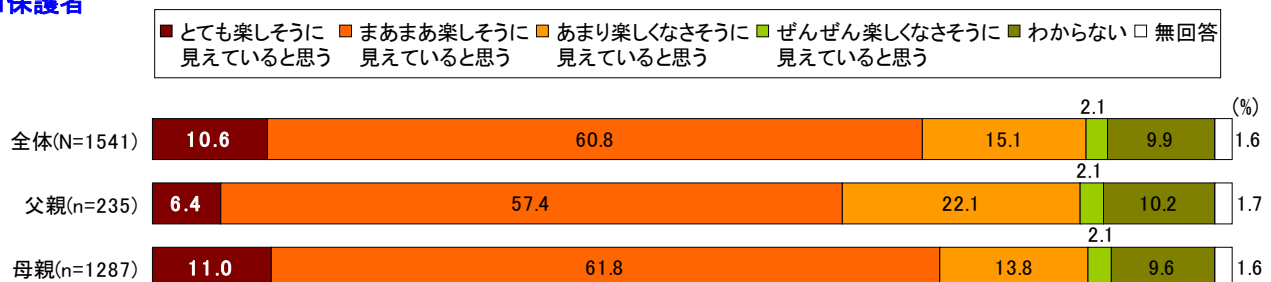


●母親の印象(「いちばん身近な保護者は母親」と回答した者)



Q. 子どもから見て普段の保護者の姿はどのように見えていると思うか

■保護者



25. 保護者の印象②

■進路についてよく話す高校生ほど「保護者が楽しそう」が多い

■進路を考える時の気持ちが「楽しい」高校生は「保護者が楽しそう」が多い

いちばん身近な保護者に対する高校生の印象を、【進路について保護者と話す頻度】と【進路を考える時の気持ち】の回答別に見てみる。まず、いちばん身近な保護者として「父親」をあげた人の、父親の印象はどうだろうか。【進路について保護者と話す頻度】別では、話をするほど父親の印象は「(とても・まあまあ)楽しそう」が多くなっている。また、【進路を考える時の気持ち】が「楽しい」人は、父親の印象について「楽しそう」が76%と多い点に注目したい。高校生自身の「楽しい」という気持ちと、「保護者が楽しそうに見える」ことは無関係ではないのかもしれない。

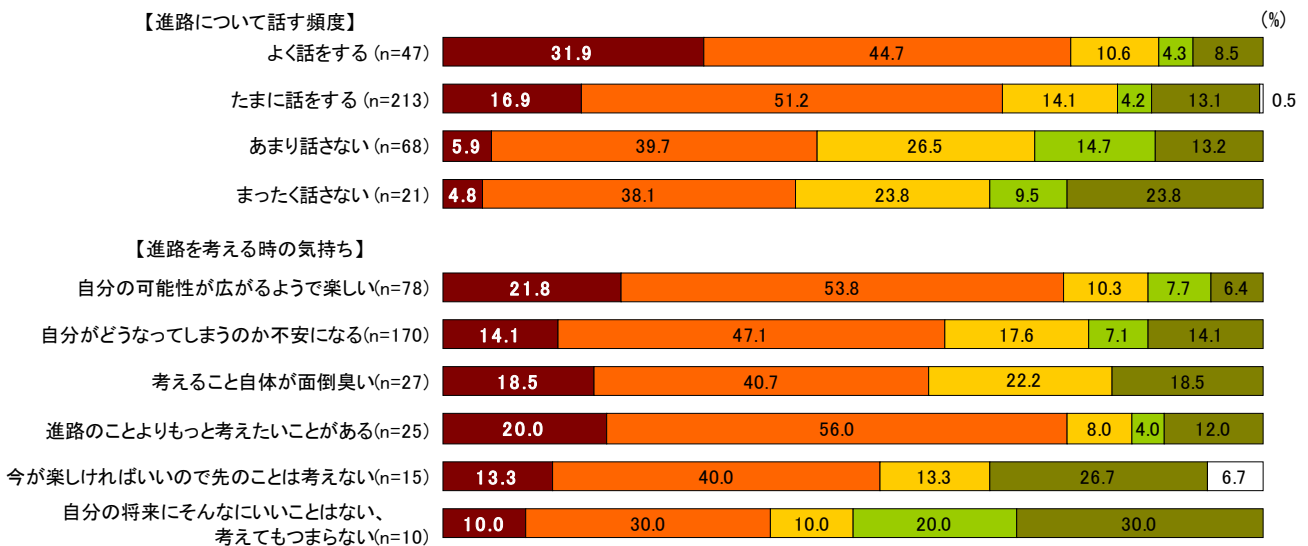
いちばん身近な保護者として「母親」をあげた人の母親についての印象も、父親についての印象と同様に、【進路について保護者と話す頻度】別では話をするほど、また、【進路を考える時の気持ち】が「楽しい」人に、「母親が楽しそう」という回答が多かった。

Q. いちばん身近な保護者は普段、どのような印象か

■高校生

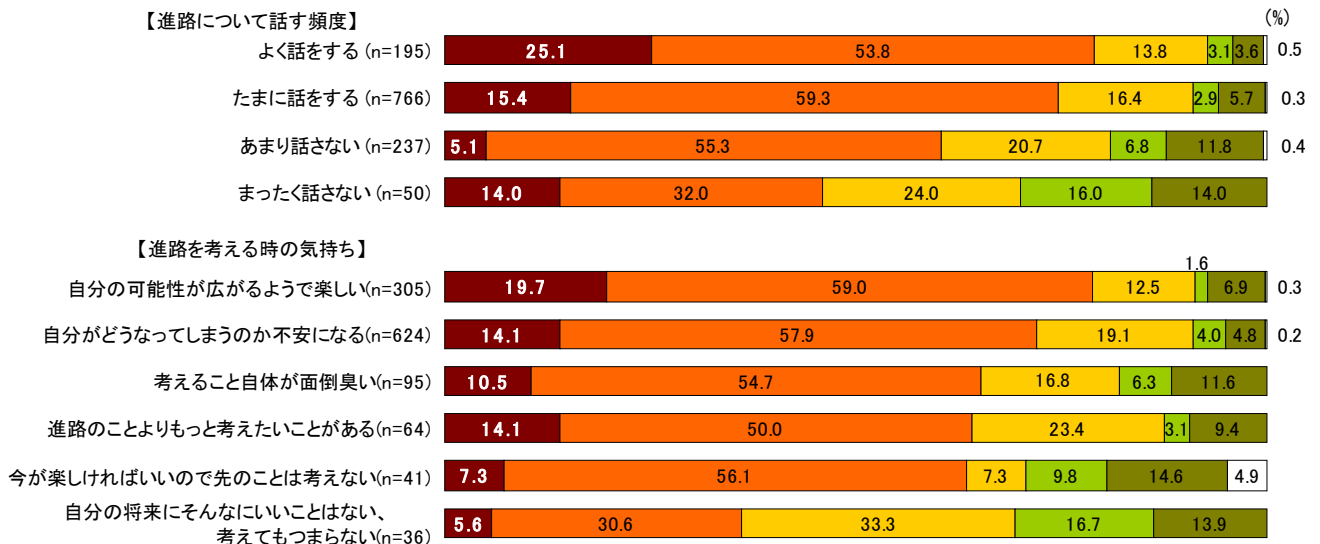
●父親の印象(「いちばん身近な保護者は父親」と回答した者)

■とても楽しそう ■まあまあ楽しそう ■あまり楽しくなさそう ■ぜんぜん楽しくなさそう ■わからない □無回答



●母親の印象(「いちばん身近な保護者は母親」と回答した者)

■とても楽しそう ■まあまあ楽しそう ■あまり楽しくなさそう ■ぜんぜん楽しくなさそう ■わからない □無回答



26. 保護者への要望

■してほしいのは「あたたかく見守ること」

■やめてほしいのは「考えの押し付け」「しつこい説教」「いい加減な発言」etc.

進路を考えるうえで保護者に対する「こうしてほしい」あるいは「こうするのをやめてほしい」という要望を、高校生に自由に書いてもらった。【してほしいこと】には、「あたたかく見守ってほしい」「話しやすいオーラを出してほしい」「自分の考えを理解してほしい」など、手出しや口出しというより、見守る姿勢や考えの理解を求める声が多かった。

また、【やめてほしいこと】には『「○○大学に行ってほしい」とか言わないでほしい』『アドバイスはありがたいが、説教に変わるのはやめてほしい』『いい加減なことをポンポン言わないでほしい』など、過剰な関与や考えの押し付け、いい加減な発言や否定への拒否反応が見られた。

➤ 保護者への要望

■してほしいこと

- あたたかく見守ってほしい(宮城・女子、大短)
- できれば行きたいところに行かせてほしい。それが無理でも、まあウソでもええけん、応援しよるふりでもしてほしい(香川・女子、専門)
- 頑張れって言ってほしい(静岡・女子、大短)
- もっと進路について関心を持ってほしい(北海道・男子、専門)
- もっと話す時間がほしい。とくに父親とは話さないから(香川・女子、大短)
- ちゃんと話を聞いてほしい(静岡・女子、大短)
- 話しやすいオーラを出してほしい(静岡・女子、大短)
- 一緒に考えてほしい(香川・女子、就職)
- なんでも好きなことをやれではなく、もっと具体的にアドバイスしてほしい(栃木・女子、その他)
- 自分の考えを理解してほしい(北海道・男子、大短)
- ちょっと黙ってほしい。あと約束ぐらい守れ(北海道・男子、就職)
- 金銭面の不安は取り除いてほしい(静岡・女子、専門)

■やめてほしいこと

- 「～の学校でえんちゃん、あんたは」とか言われて迷惑(香川・女子、専門)
- 「○○大学に行ってほしい」とか言わないでほしい。望みを高くもたないでほしい(栃木・女子、大短)
- 「え～」って、否定気味で言ってほしくない(東京・女子、大短)
- 「すぐ勉強しなさい」とか、あれしろこれしろ、と頭ごなしに言ったりとか、すぐ2階(自分の部屋)に行って寝ていると決め付けること(北海道・女子、専門)
- 「その夢はだめだ」などと、子どもの可能性をなくさないでほしい(北海道・女子、就職)
- 「決まったのか」とか「大丈夫なのか」ってしつこく聞かれること(北海道・女子、専門)
- 「好きなことをやりなさい」と言いながらも、自分の意見を押し付けようとするところ(宮城・女子、専門)
- アドバイスはありがたいが、説教に変わるのはやめてほしい(大阪・男子、専門)
- あまりプレッシャーをかけないでほしい(新潟・女子、就職)
- いい加減なことをポンポン言わないでほしい(静岡・女子、大短)
- お金がないアピール(香川・女子、専門)
- すぐに「わからない」と言うこと(香川・女子、大短)
- ダメダメって反対ばかりすること、昔はこうだったとか比較すること(香川・女子、大短)
- とても軽い感じで笑いながら、進路について話すこと(福岡・男子、大短)
- まるで自分は関係ないかのような振る舞い、すぐからかう子どもみたいなこと(栃木・女子、大短)
- 何もわかっていないのにテストを自分なりに判断して意見をぶつけてくること(北海道・男子、大短)
- 会話の内容が成績のことしかない(福岡・男子、大短)
- 改まった雰囲気ですること(東京・女子、大短)
- 私の夢を聞いてだけで「できるの?」とか、バカにしないでほしい(東京・女子、就職)
- 行きたい学科が決まっているのに、就職先が多い学科を勧めないでほしい(静岡・女子、大短)
- 最後には好きなことをやりなさいと言って終わらせないでほしい(宮城・女子、大短)
- 自分の希望を押し付けないでほしい(北海道・女子、就職)

V. 自立意識と家庭内キャリア教育

27. 自立についての考え

■「自立しなさい」と保護者に言われたことがある高校生は45%

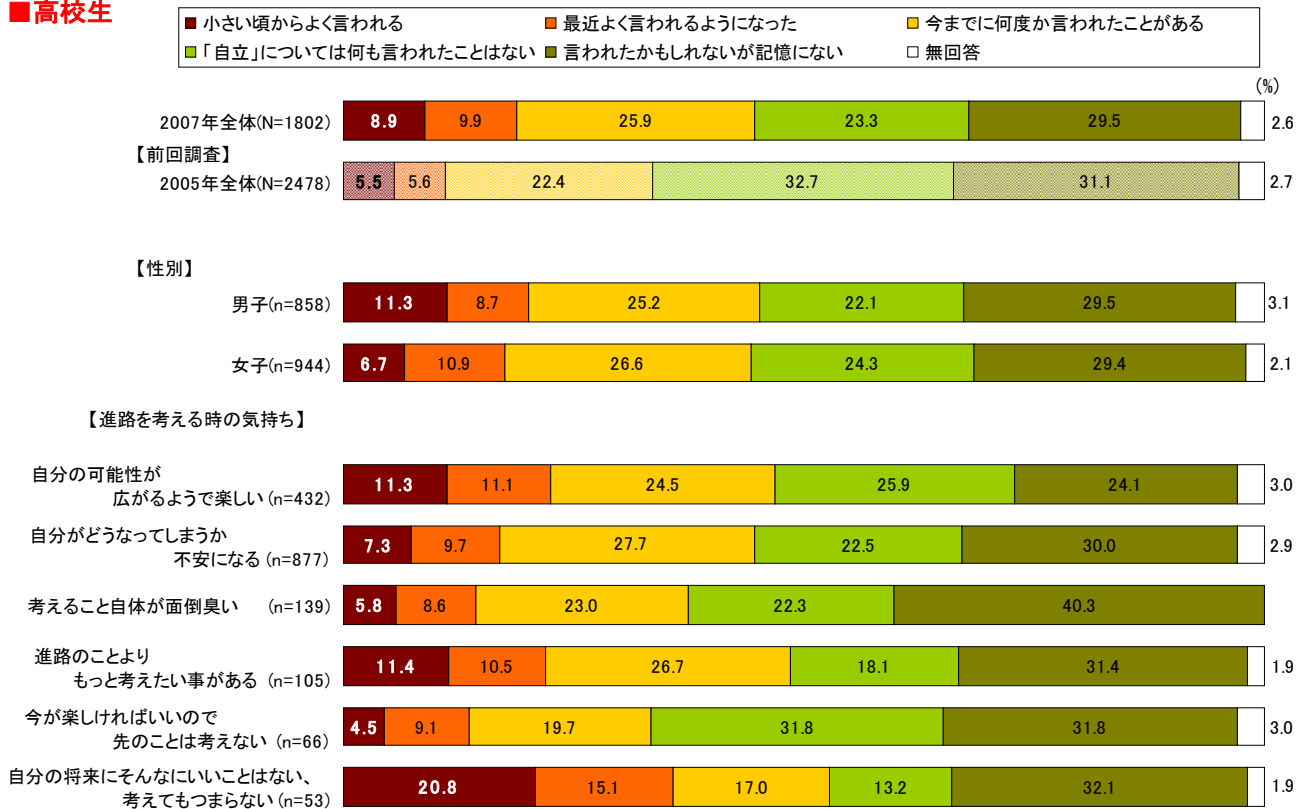
■自立を積極的に促す保護者が半数近くに

保護者から「自立しなさい」と言われたことがあるか、高校生に質問した。「小さい頃からよく言われる」「最近よく言われるようになった」「今までに何度か言われたことがある」の合計、つまり自立について何らか言われたと認識する高校生は45%で、前回より増加した。【進路を考える時の気持ち】別では、「自分の将来にそんなにいいことはない～」と悲観的な層が最も自立について言われており、とくに「小さい頃からよく言われる」が21%と高い。家庭教育は子の自立を前提にすべきだろうが、「自立」という言葉の扱いは難しい。

保護者には、子どもの自立について最も自分の考えに近いものを選択肢から選んでもらったところ、「自然に自立していくもの～」が55%と最多だった。前回より「子どもを自立させることを目標にして小さなころから～」が増加したのはよい傾向といえるが、「自立できるかどうか～不安になる」も増加しており、気になるところだ。

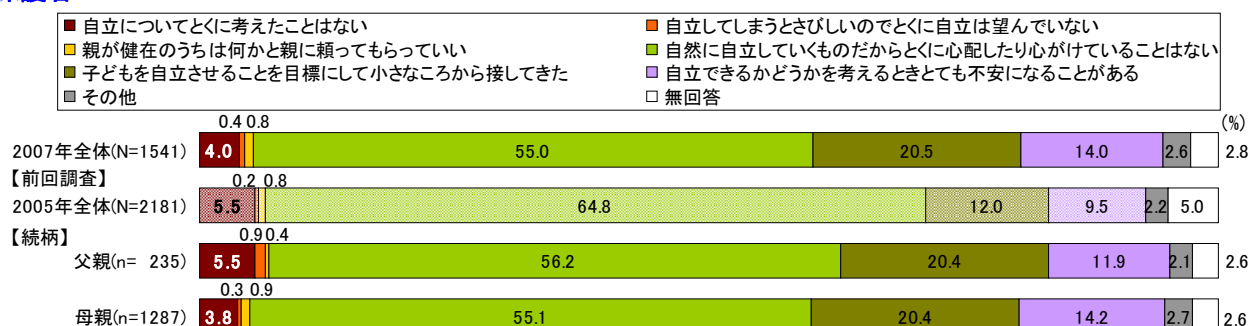
Q. 保護者から「自立しなさい」と言われたか

■高校生



Q. 子どもの「自立」についての保護者の考え

■保護者



28. 経済的自立・精神的自立

■「すでに精神的自立をしている」という高校生は16%

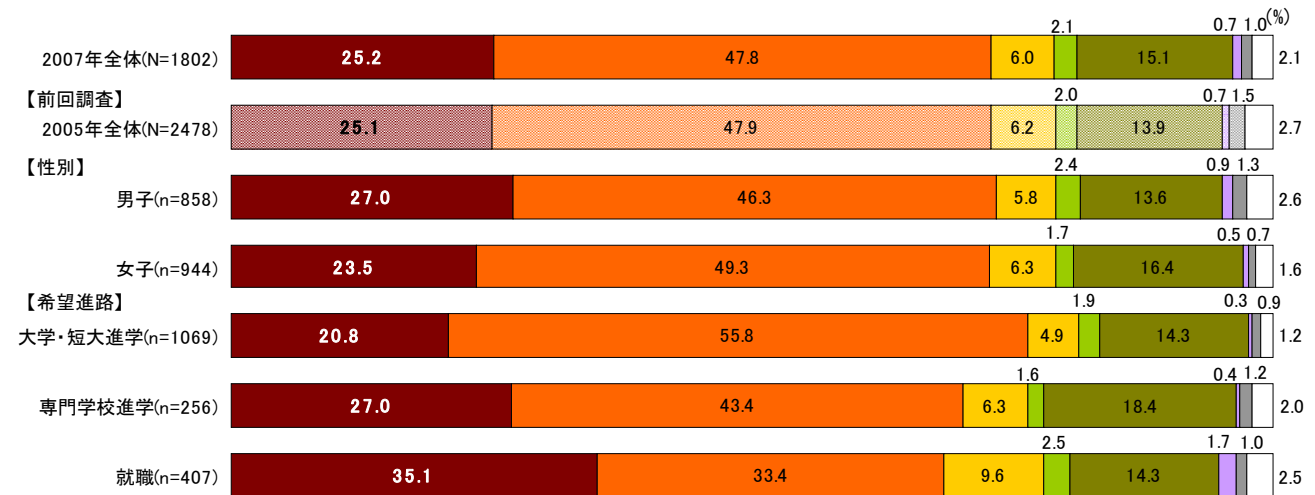
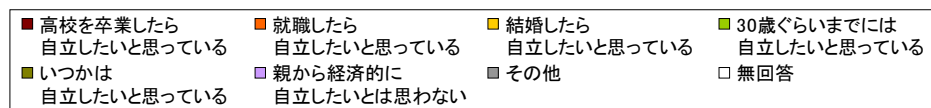
■ほとんどの高校生はどちらの自立にも前向き

経済的自立を「実家を出て経済的に自立すること」と定義し、それに対する高校生の考えをたずねた。「高校を卒業したら自立したい」が25%、「就職したら～」が48%で、合計は7割を超える。「経済的に自立したいとは思わない」は1%に満たず、ほとんどの高校生は経済的自立を望んでいる。男女別に見ても、意識に大きな差はないようだ。【希望進路】別では、「高校を卒業したら～」が就職希望者に多いが、「就職したら～」まで含めると大短希望者が最も多い。

また、精神的自立についても「自分のことは自分で判断すること」と定義して質問すると、「すでに精神的には自立していると思う」は16%。これに「高校在学中には～」「高校を卒業したら～」を足した72%が高校卒業までに精神的に自立したいという。「すでに精神的には自立～」は男子や専門学校希望者、就職希望者に比較的多い。

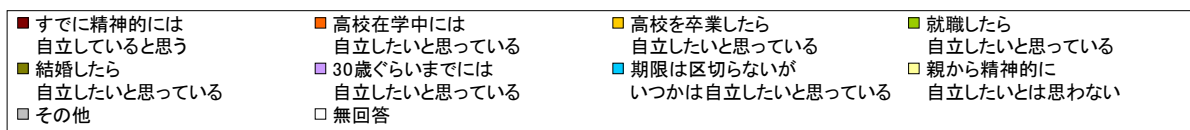
Q. 自分自身の「経済的自立」についてどう考えているか

■高校生



Q. 自分自身の「精神的自立」についてどう考えているか

■高校生



29. なぜ学び、なぜ働くかについての話し合い

■「勉強する意味を話し合った」という高校生は21%、保護者は57%。親子の認識に大きなギャップ

■子どもに仕事の内容、楽しさや大変さを話している保護者は73%

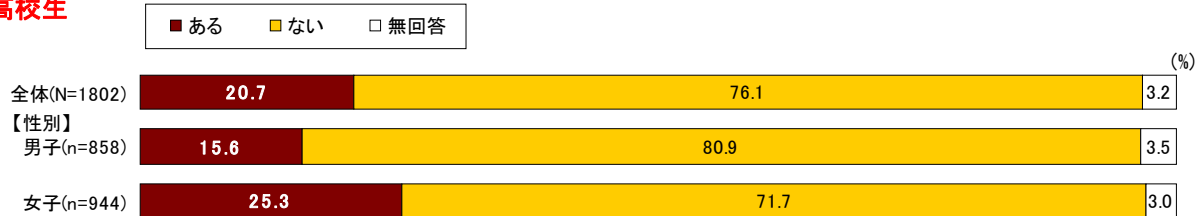
「なぜ勉強するのか」というテーマについて親子で話し合ったことがあるか、親子双方に質問した。高校生の回答では「ある」が21%で、5人に1人という状況だ。男子に限ると16%とさらに少なくなる。しかし、保護者は57%が「ある」と回答。高校生の認識と大きくない違いが見られる。

同様に「なぜ働くのか」というテーマについても聞くと、「話し合ったことがある」という高校生は16%で、「なぜ勉強するのか」の話し合いよりも少数だ。一方の保護者は53%が「ある」と回答し、やはり両者の開きは大きい。また、父親より母親に「ある」が多い。

保護者に対しては、仕事の内容、楽しさや大変さを子どもに話しているかもたずねた。「よく話す」は21%、「時々話す」と合わせると73%となり、比較的多くの保護者が仕事の話をしている。とくに母親のほうが話しているようだ。

Q. 「なぜ勉強するのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■高校生

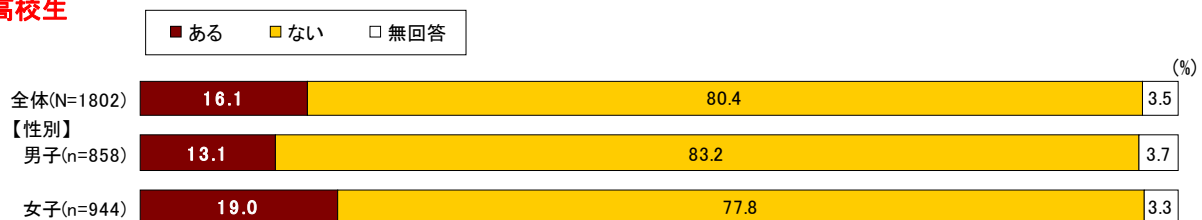


■保護者

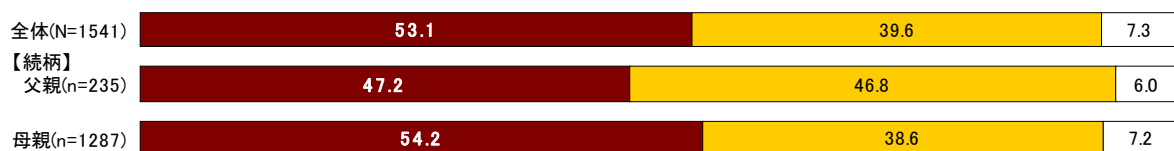


Q. 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■高校生

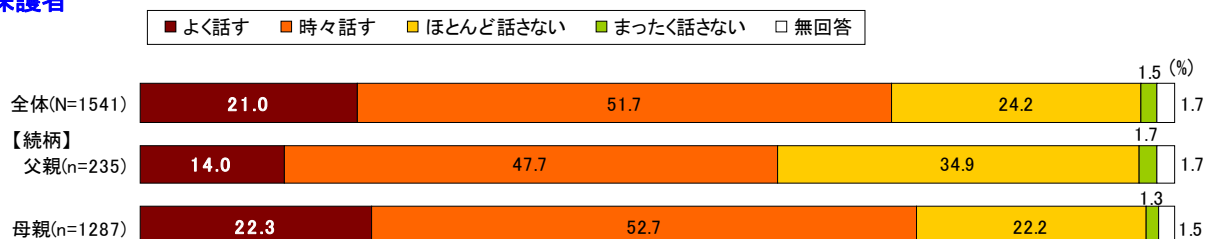


■保護者



Q. 保護者は子どもに仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか

■保護者



30. 家庭内キャリア教育①

■「ほめられてきた」高校生は48%、「ほめてきた」保護者は75%

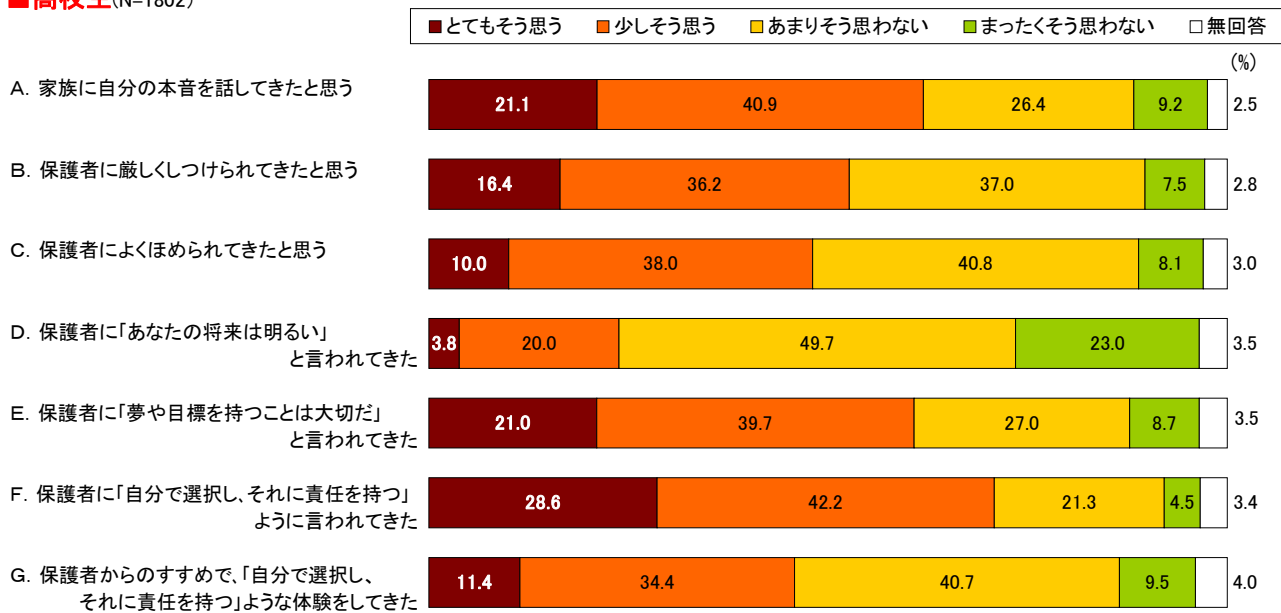
■「あなたの将来は明るい」と言われてきた高校生は少数

高校生が幼少の頃から家庭教育がどのように行われてきたのかを、共通の7項目(A~G)を用いて親子にたずねた。高校生の回答では、「A. 家族に自分の本音を話してきた」「E. 『夢や目標を持つことは大切だ』と言われてきた」「F. 『自分で選択し〜』と言われてきた」は「とてもそう思う」「少しそう思う」が比較的多い。「D. 『あなたの将来は明るい』と言われてきた」と思う人は7項目中最も少なかった。

一方、保護者の回答は全項目で「そう思う」が高校生よりも多く、高校生に「そう思う」が多めだったA、E、Fは8割超もの保護者が「そう思う」と回答した。親子の回答の差が最も著しいのはCの“ほめる”に関する項目で、親はほめてきたつもりでも子はそう受け止めていないようだ。

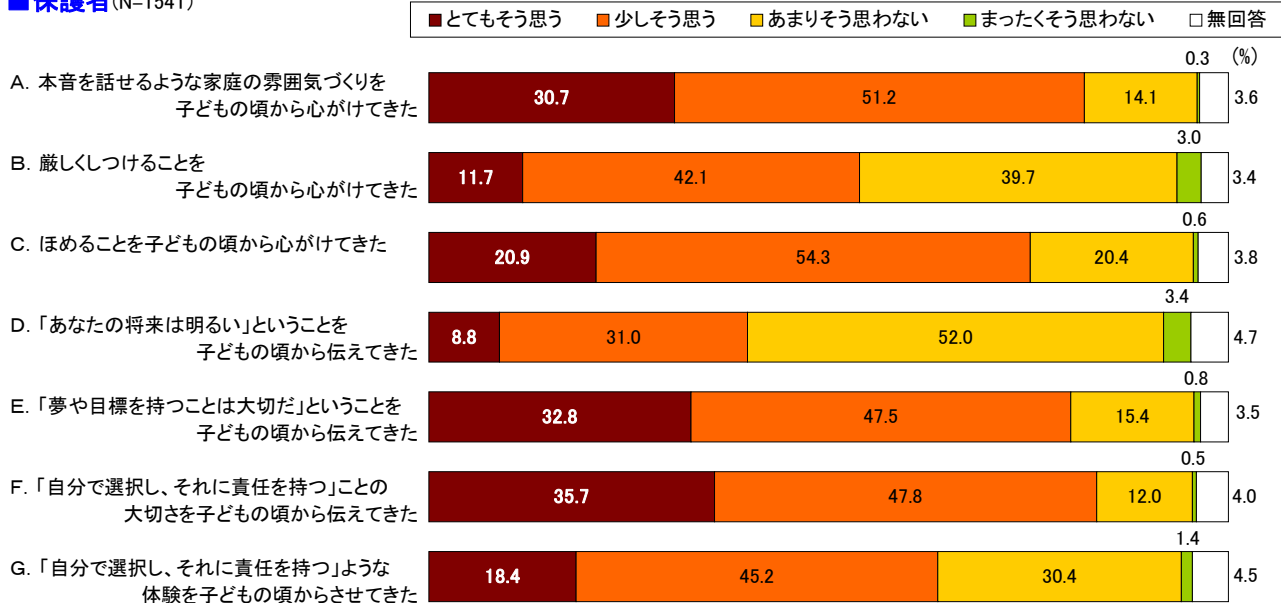
Q. 家庭でのことで高校生が子どもの頃から感じてきたこと

■ **高校生**(N=1802)



Q. 保護者が高校生に対して子どもの頃から心がけてきたこと

■ **保護者**(N=1541)



31. 家庭内キャリア教育②

■家庭内キャリア教育度が高い高校生は、「進路を考える時楽しい」、「自分の適性ややりたいことが見えている」、「進路を決めるのは自分」という割合が大きい

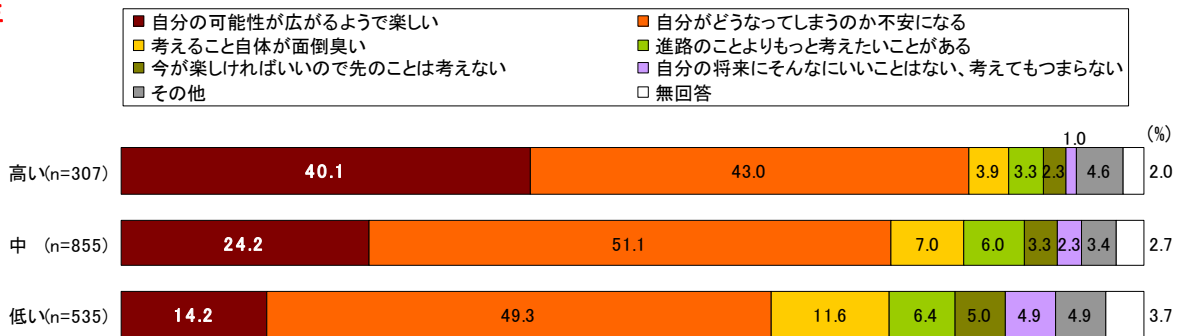
前頁の家庭教育に関する調査項目A～Gの状況を「家庭内キャリア教育度」(※)として、その度合い別に、さまざまな設問の回答状況を見てみる。まず、『進路を考える時の気持ち』を見ると、【家庭内キャリア教育度】によって「楽しい」の割合に大きな差があり、【教育度】が「高い」高校生では「楽しい」が4割を超えている。『進路選択で気がかりな点』(参考p.22)では、【教育度】が高いほど「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない～」「社会に出て行く～自信がない」の回答が少ない。

『進路選択で優先される人』の「1番目に優先される人」(参考p.13)では、【教育度】が高いほど「自分」と答えた割合が大きい。

(※)p.33「家庭内キャリア教育」に関する7項目について、「とてもそう思う」=4点、「少しそう思う」=3点、「あまりそう思わない」=2点、「まったくそう思わない」=1点として、個人ごとに合計得点を出して「家庭内キャリア教育度」とした。合計得点22～28点は家庭内キャリア教育度が「高い」、17～21点は「中」、7～16点は「低い」と分類している

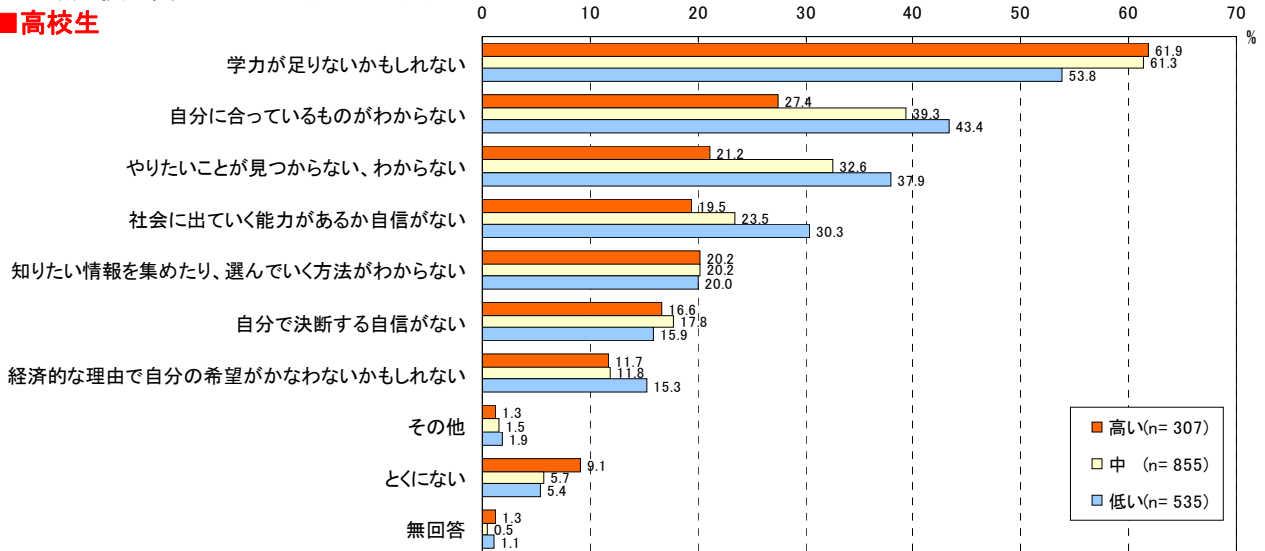
Q. 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか

■高校生



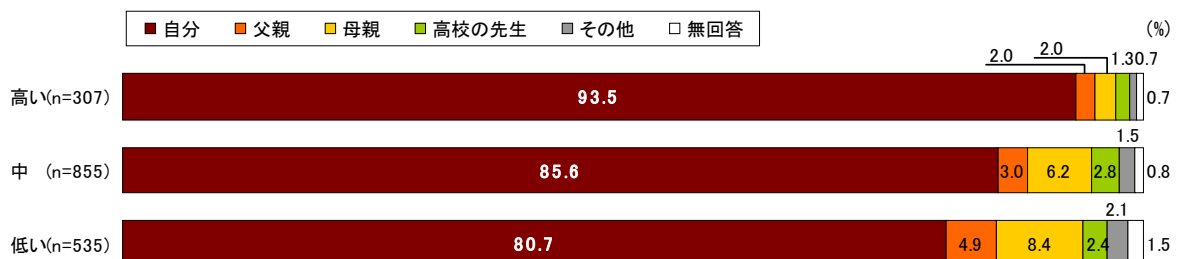
Q. 進路選択に関して気がかりなこと(複数回答)

■高校生



Q. 高卒後の進路を決める際に誰の考えが優先されると思うか

■高校生(1番目に優先される人)



32. 家庭内キャリア教育③

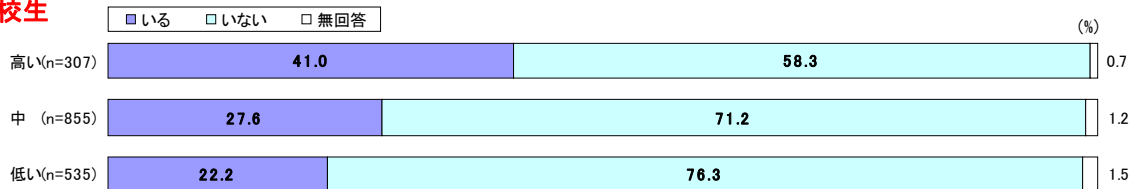
■家庭内キャリア教育度が高い高校生は、「目指す人がいる」、「父親や母親を目指している」、「就きたい職業がある」という割合が大きい

家庭内キャリア教育の度合い別に、『目指している人や憧れている人はいるか』(参考p.19)という質問に対する高校生の回答状況を見ると、【家庭内キャリア教育度】が高いほど「目指している人がいる」という回答が多かった。目指している人がいるとの回答者にその人物を大きく「父親」「母親」「有名人」から選んでもらうと、【教育度】が高い高校生ほど「父親」や「母親」をあげる割合が大きかった。

『将来就きたい職業があるか』(参考p.16)については、【教育度】が高いほど「就きたい職業がある」が多い。将来、働くことについて気がかりがあると回答した高校生に聞いた『働くことについてどんなことが気がかりか』(参考p.23)では、「就きたい職業に就くことができるか」は【教育度】が高いほど多いが、それより前段階にある「就きたい職業が思いつかか」は【教育度】が低いほど多い。「職場の人間関係」「自分にできる仕事があるか」「仕事を覚えられるか」「すぐ辞めさせられるのではないか」なども【教育度】が低い層で多く、働くことへの自信のなさが感じられる。

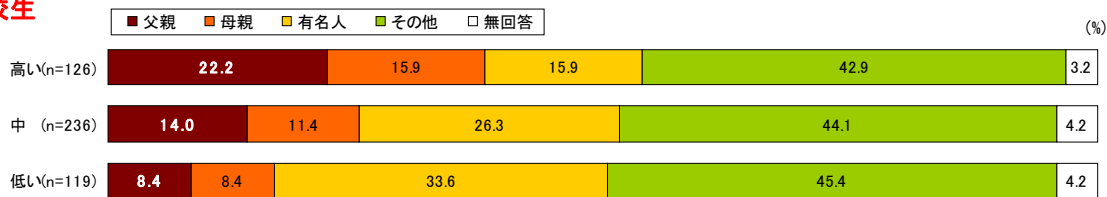
Q. 目指している人や憧れている人はいるか

■高校生



Q. 目指している人は誰か(目指している人がいる者)

■高校生



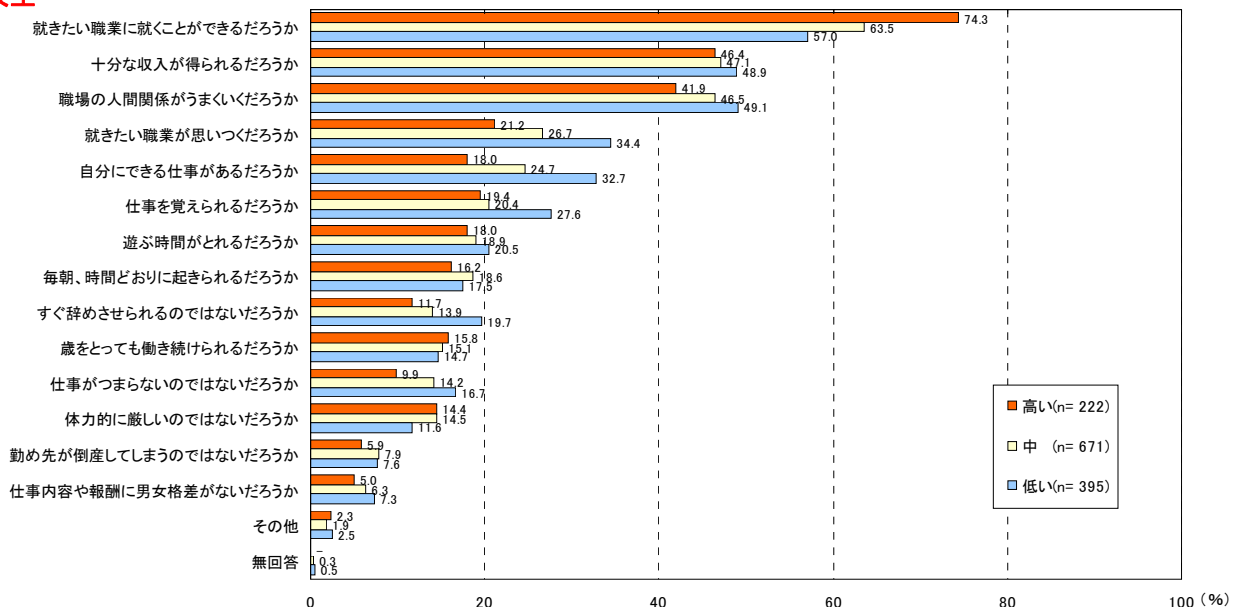
Q. 将来就きたい職業があるか

■高校生



Q. 働くことについてどんなことが気がかりか(気がかりなことがあると回答した者・5つまで回答)

■高校生



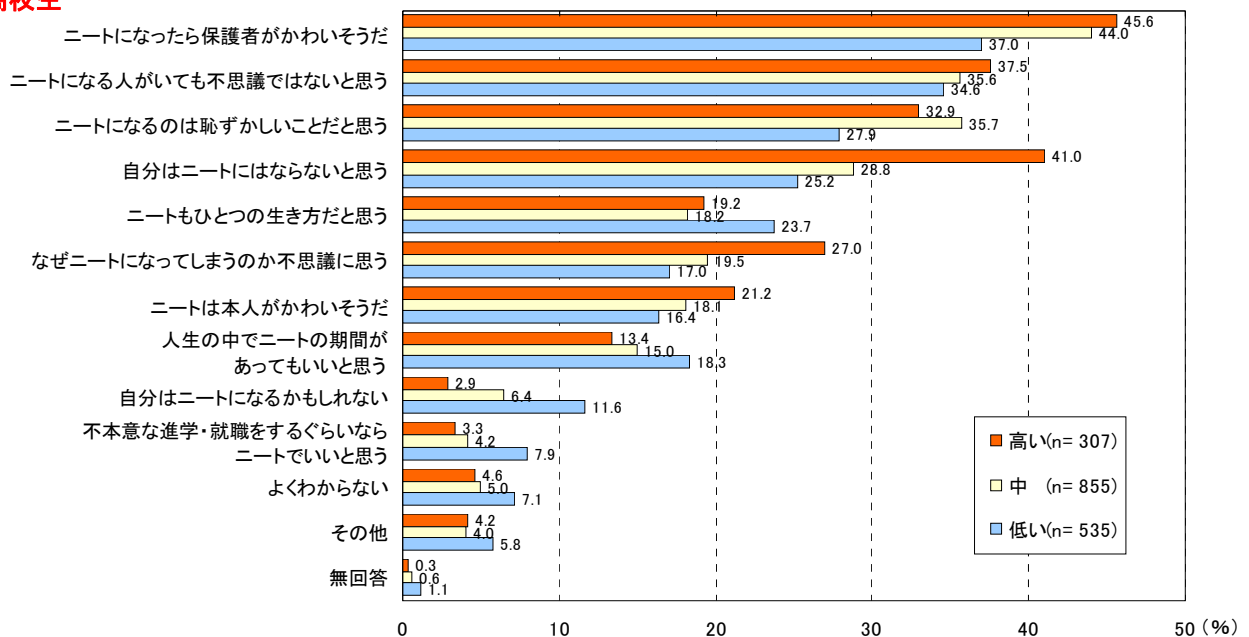
33. 家庭内キャリア教育④

■家庭内キャリア教育度が高い高校生は、「自分はニートにならない」「未来社会は好ましい」「なぜ勉強するか・なぜ働くかをテーマに話し合ったことがある」という割合が大きい

家庭内キャリア教育の度合い別に、高校生の『ニートに対してどう思うか』(参考p.20)を見ると、「自分はニートにならない」「なぜニートになってしまうのか不思議」といったニートに対して否定的な意見は、【家庭内キャリア教育度】が高いほど多かった。『これからの社会は好ましいと思うか』(参考p.25)では、【教育度】が高いほど「とても好ましい」「まあまあ好ましい」が多い。『なぜ学び、なぜ働くかについての話し合い』(参考p.32)については、どちらのテーマも、【教育度】が高いほど「話し合ったことがある」が多かった。

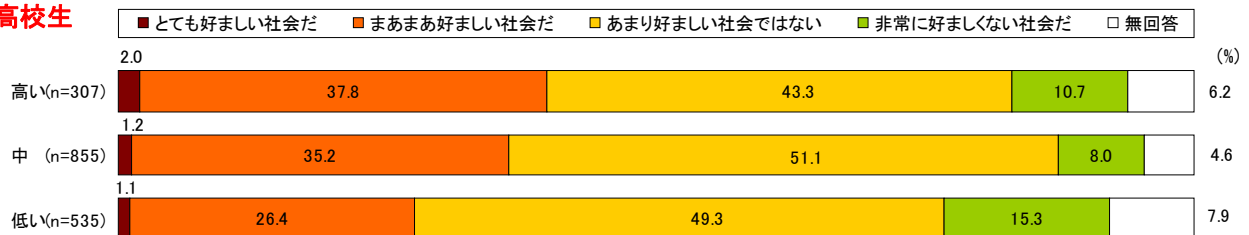
Q. ニートに対してどう思うか(複数回答)

■高校生



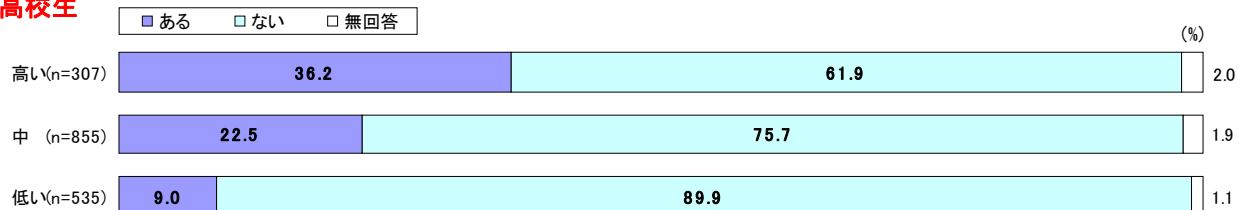
Q. これからの社会は高校生にとって好ましいか

■高校生



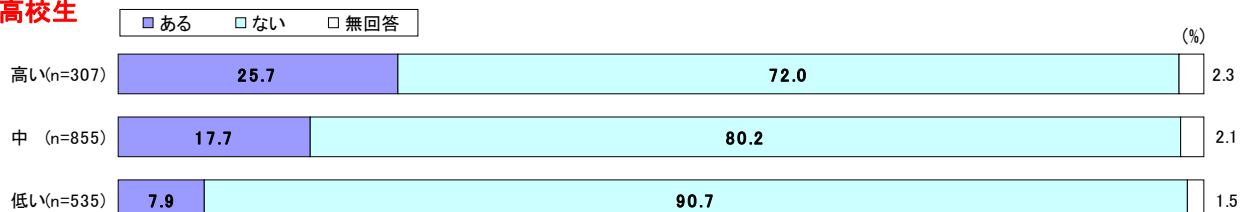
Q. 「なぜ勉強するのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■高校生



Q. 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■高校生



VI. 保護者の動きと学校への要望

34. 重要だと思う進学情報

■保護者の過半数が「入試制度」と「進学費用」が気になる

■進学後の就職や資格取得の関心薄まる

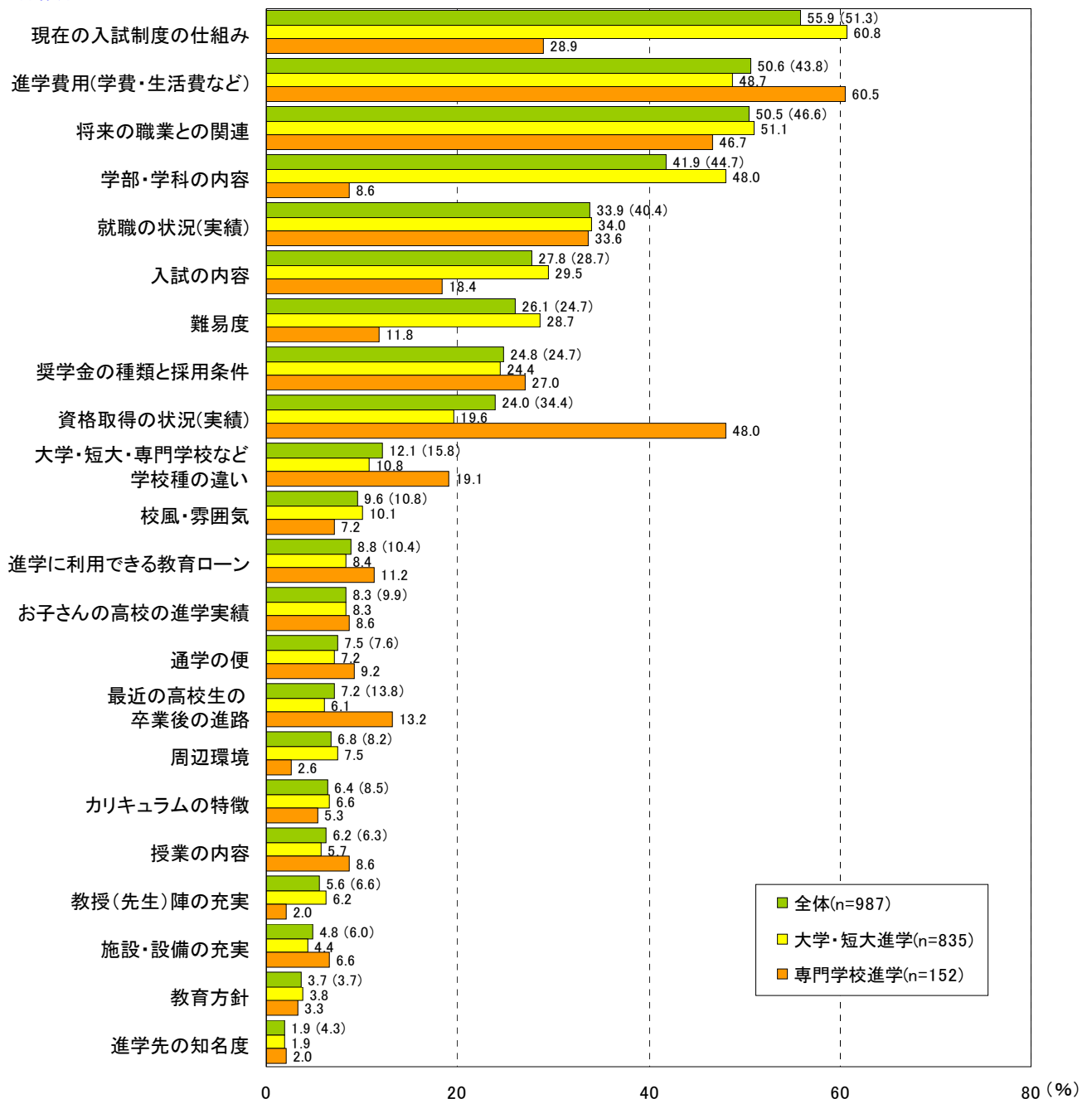
保護者に子どもの進学に際して重要だと思う情報を選んでもらった。結果、上位に来たのは「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」などで、この3つは半数以上の保護者が重要だと認識している。

前回調査とパーセンテージを比較してみると、目立って増加したのは「進学費用」(44%→51%)、「現在の入試制度の仕組み」(51%→56%)。逆に減少したのは「資格取得の状況」(34%→24%)、「最近の高校生の卒業後の進路」(14%→7%)、「就職の状況」(40%→34%)。傾向としては、就職や資格取得といった進学後のことよりも、進学費用や入試制度といった進学前のことに関心が集まってきたといえるかもしれない。

Q. 保護者は進学に際してどんな情報を必要としているか(子どもの進学を希望する者・複数回答)

■保護者

※()内の数字は前回調査の結果



35. 進学情報の入手方法

■「高校で配布された資料」と「担任」が上位

■独自に情報収集を進める保護者の存在が明らかに

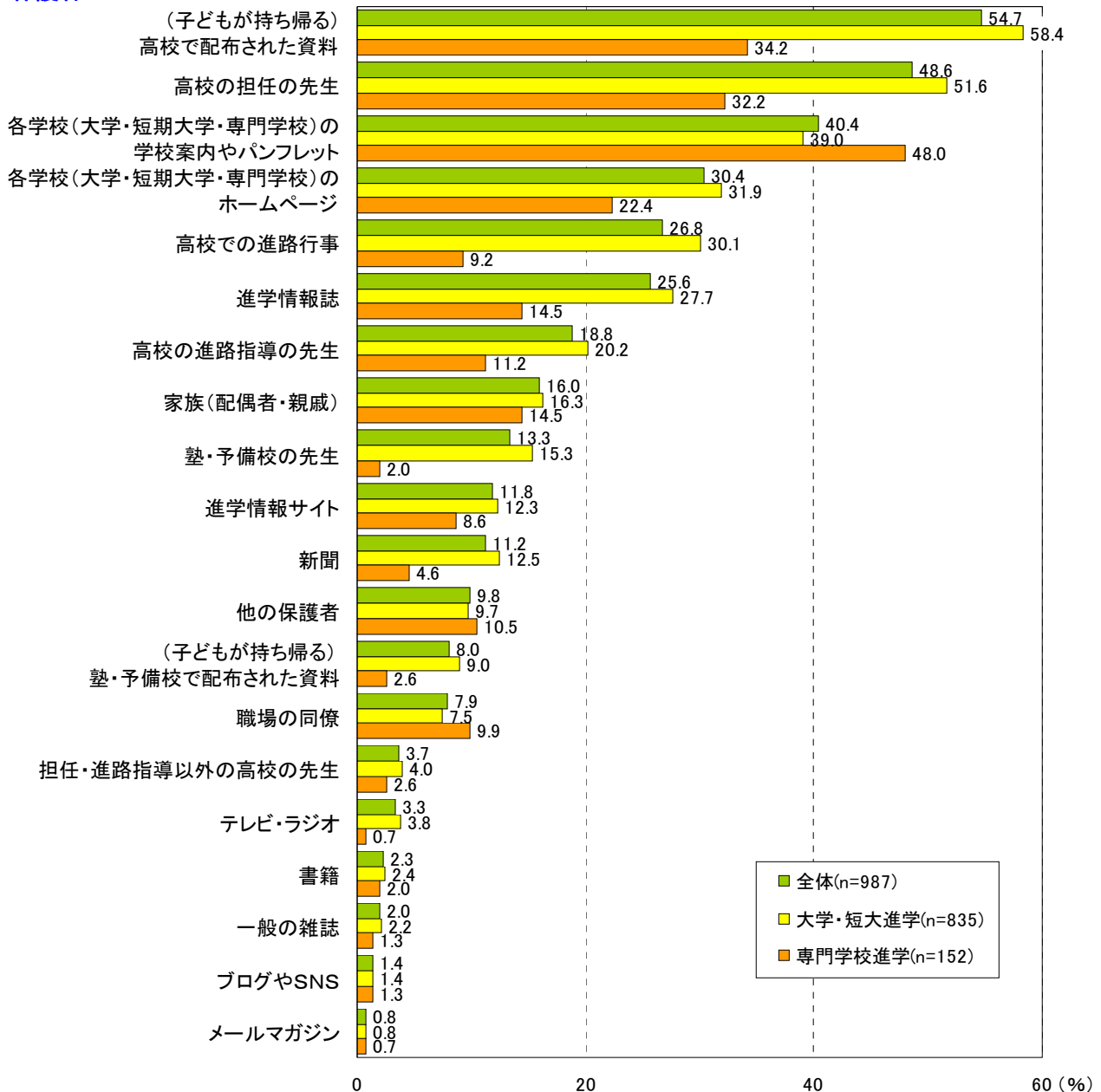
保護者はどのような方法で進学情報を入手しているのだろうか。「高校で配布された資料」と「高校の担任の先生」が1位、2位を占め、高校が進学情報についての重要な情報源であるということがあらためて明らかになった。一方で、「各学校の学校案内やパンフレット」「各学校のホームページ」「進学情報誌」も上位に入り、保護者が率先して、独自に情報収集をしているようすもうかがえる。

希望進路別に見ると、少々異なる傾向があった。大短希望の保護者については全体データと同様の傾向を示したが、専門学校希望者の1位は「各学校の学校案内やパンフレット」で、他を引き離している。専門学校については、高校経由の情報が少ないということだろうか。

また、全体的に前回の数値からの変動はあまりなかったが、「他の保護者」が17%→10%、「特に入手していない」が10%→4%と、それぞれ大きく数値を下げた。

Q. 保護者は進学情報をどんな方法で入手しているか(子どもの進学を希望する者・複数回答)

■保護者



36. 保護者の進路選択行動

■保護者の53%が子どものために「学校調べ」をしたことがある

■学校見学に行ったことがある父親は4割

保護者自身が子どもの進路選択行動にどのように関わっているのかを今回初めてたずねた。6項目中最も高かったのは「子どもに合う分野をアドバイスする」で、74%の保護者がおこなっていた。

2番目に多かったのは「子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる」。「調べる」という行為を過半数が行っているというこのデータは、今の保護者のフットワークの軽さを示しているといえるかもしれない。他に学校見学に「行く」人も、資料請求を「する」人も30%近く存在し、保護者の進路選択行動は、押しなべて活発になりつつあると見ることができるだろう。

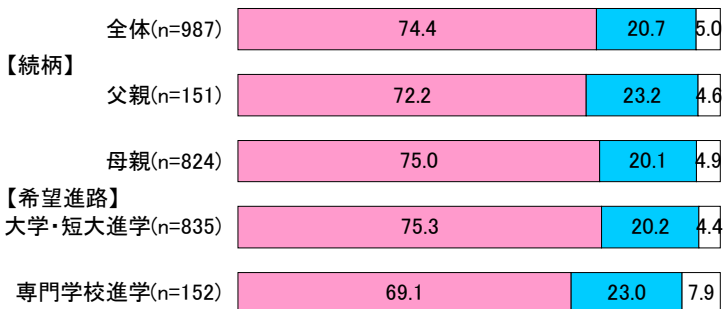
本調査全般において父親は影の薄い印象があるが、本設問では母親のデータとほとんど遜色ない。むしろ学校見学に行ったり、学校や入試方法を調べることでは母親を上回っており、こうした具体的な行動で子どもの進路選択を支える父親が今後ますます増える可能性もあるだろう。

Q. 保護者は子どもの進路選択行動にどのように関わっているか(子どもの進学を希望する者)

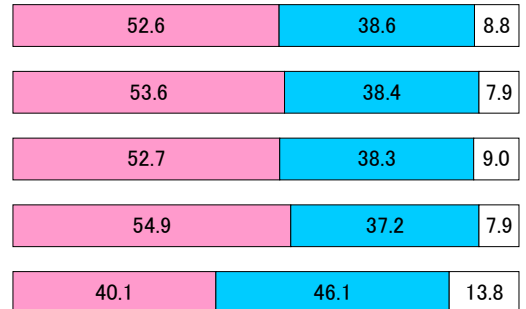
■保護者

■おこなったことがある ■おこなったことがない □無回答

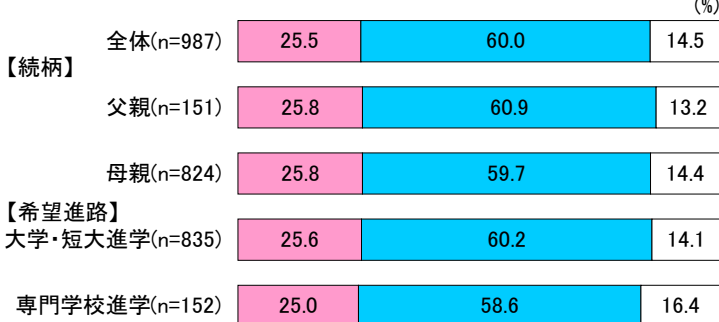
●子どもに合う分野をアドバイスする (%)



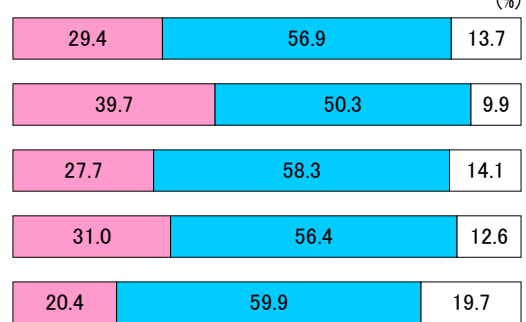
●子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる (%)



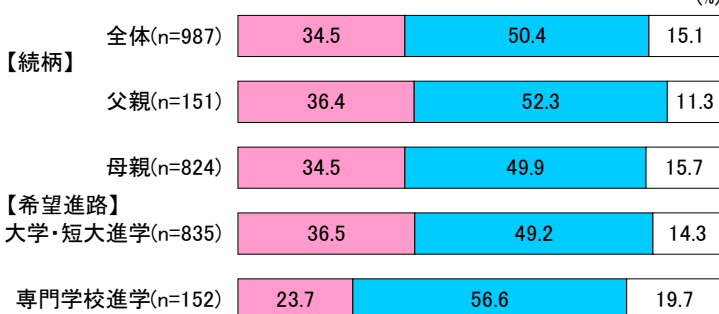
●興味をもった学校の資料請求をする (%)



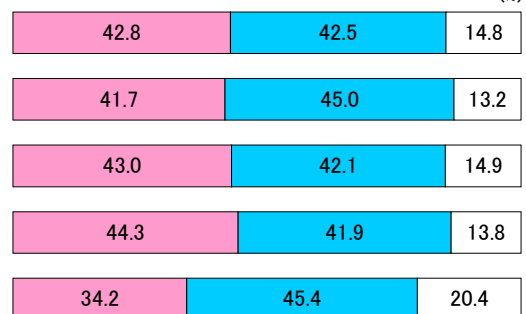
●興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む) (%)



●興味をもった学校の入試方法を調べる (%)



●具体的な受験校を子どもにアドバイスする (%)



37. 家庭と学校の役割に関する認識

■ 保護者の82%が「進路の相談にのる役割は家庭と学校同等」と回答

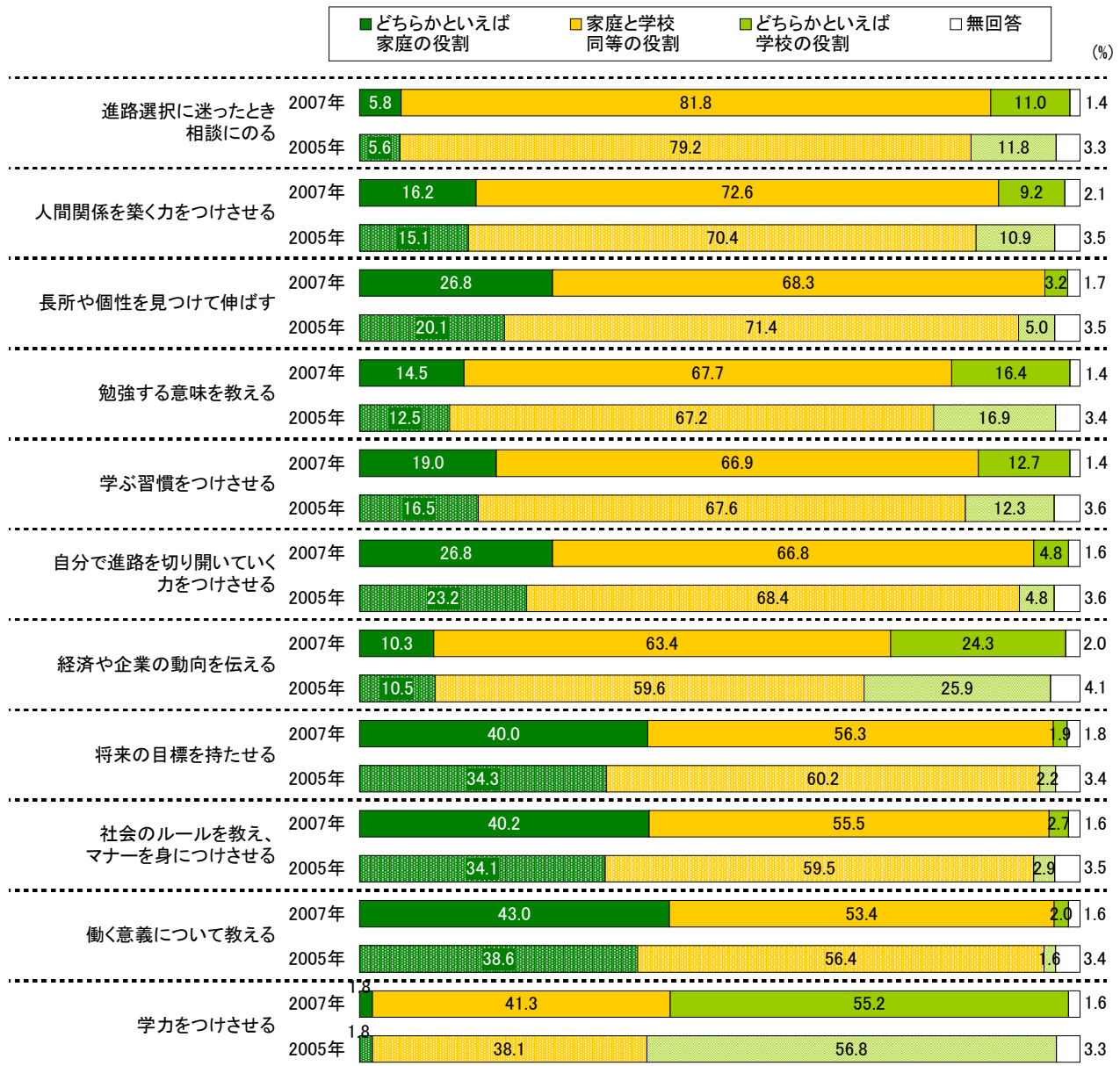
■ 進路の難しい問題は共同であたるべきとの認識

下記の項目について、その役割を担うのは家庭なのか学校なのか、あるいは同等なのか、3つのうちから1つを保護者に選んでもらった。結果はほとんどの項目で「家庭と学校同等の役割」が5割以上の回答を集めた。「家庭と学校同等の役割」の比率が最も高かった項目は「進路選択に迷ったとき相談にのる」、次いで「人間関係を築く力をつけさせる」。保護者が「同等の役割」を選択した項目は、明らかに学校だとか、明らかに家庭だとは言えない微妙で難しいテーマだととらえている証ではないか。だとすれば、ややもすると家庭も学校も責任転嫁をしてしまう危険性があるかもしれない。

「学校の役割」の割合が高かった項目を順に見ていくと、「経済や企業の動向を伝える」が2番目だった。このあたりに家庭から学校への強い期待が感じられる。一方で、前回調査と比較すると、ほとんどの項目で「家庭の役割」が増えていた。

Q. 高校生に次のことをするのはどちらの役割だと思うか

■ 保護者 (2007年N=1541、2005年N=2181)



38. 進路指導への要望

■ 高校生の36%、保護者の45%が「情報提供」を要望

■ 大短進学希望の保護者が「体験・行動」を強く期待

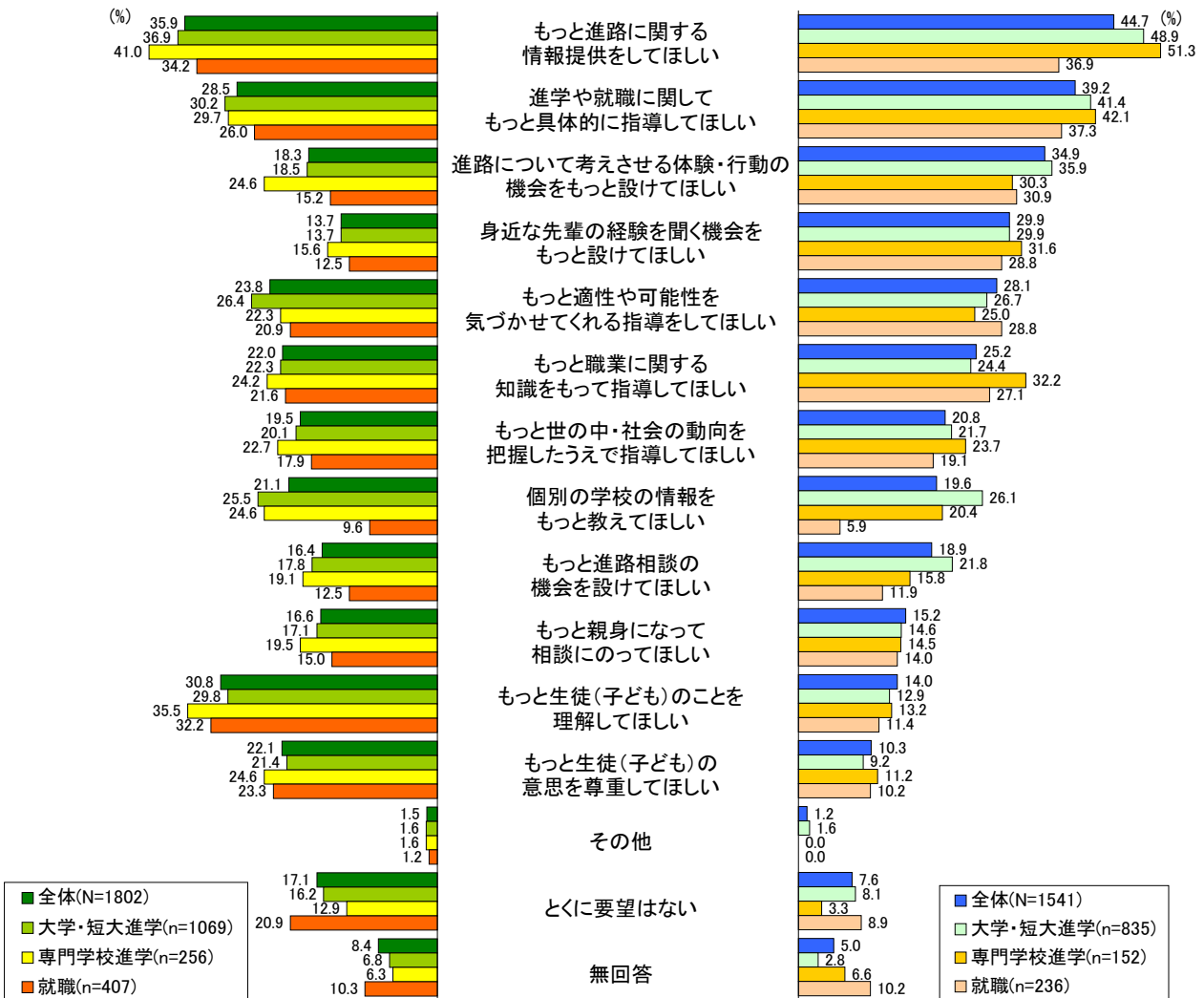
高校の進路指導についての要望を高校生と保護者それぞれにたずねた。両者とも最も要望しているのは「進路に関する情報提供をしてほしい」だが、それ以下の順位は異なる結果になった。高校生は2番目に「生徒のことを理解してほしい」という回答が多く、「生徒の意思を尊重してほしい」とともに、自分の気持ちや考えに共感してほしいという要望が強いように映った。希望進路別に見ると、その傾向は専門学校希望者が最も強い。

一方の保護者は、2番が「進学や就職に関してもっと具体的に指導してほしい」、3番が「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」となり、単なる情報提供にとどまらない個別の指導や体験の機会も欲しているようだ。希望進路によって若干傾向が変わり、たとえば「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」を一番強く要望しているのは大短進学希望の保護者。普通科などでのキャリア教育への期待が読み取れる。

Q. 高校の進路指導にどのようなことを要望するか(複数回答)

■ 高校生

■ 保護者



≫ 高校や教師に対する意見や要望①

■ 保護者

- 先生は今教育がやりづらい時代だと思う。保護者は困った人が多く、無責任である。もっと子どものことだけを見て、悪いことをした場合は体罰もやむなしの考えで、強く大きな教師になってほしい。当然先生の質も高めてもらわなければならないが(香川・父親、男子)
- 甘やかさず強い態度で生徒に接してください。髪を染めたり、化粧をするような生徒は学校に入れるべきではありません。停学くらいのことをするべきです(宮城・母親、女子)
- 進学や進路も熱心に指導して下さいますが、青年期は大事な時期なので、人生や知的好奇心など人生の先輩としての大人の役割も大いに期待している(福岡・母親、男子)

39. 充実してほしい保護者向けガイダンス・指導

■進学先選びのための保護者ガイダンスを39%が希望

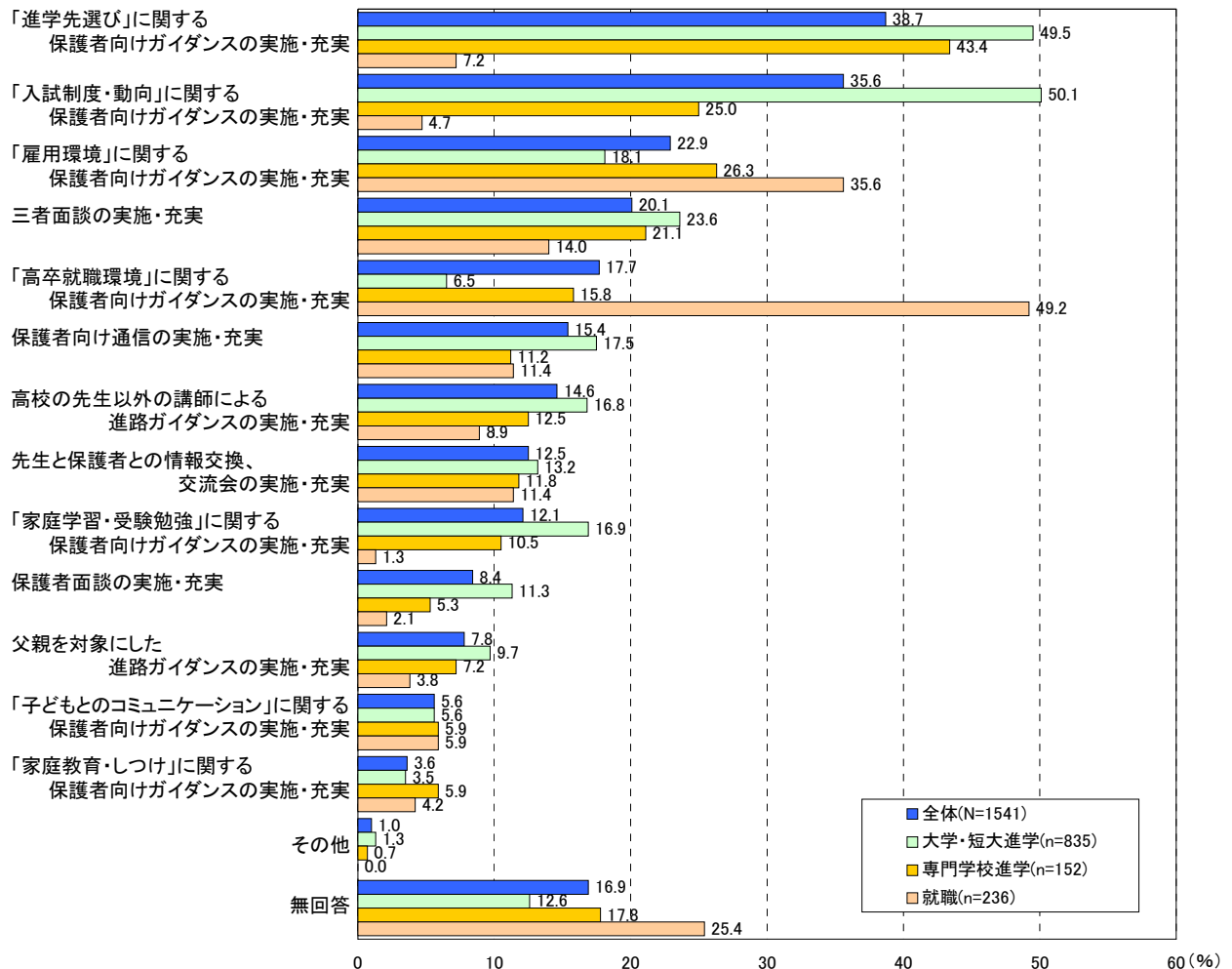
■大短進学希望者の半数は「入試制度・動向」を知りたい

保護者向けとして高校に実施・充実してほしいものをたずねた。全体順位では「進学先選び」と「入試制度・動向」のガイダンスが1位、2位を占めたが、希望進路によって順位に大きな違いが見られた。

大短進学希望者は、僅差ながら1位が「入試制度・動向」で、「進学先選び」は2位。どちらも半数の保護者が希望している。多様化、複雑化する入試と、変化の激しい大学・学部の内容について、保護者の多くは何らかの情報やアドバイスを求めているようだ。専門学校進学希望者は「進学先選び」「雇用環境」「入試制度・動向」が上位を占めたが、中でも「進学先選び」が群を抜いた。情報が少ないとされる専門学校選びについて、ここでも保護者の情報渴望感が見られる。就職希望者の上位は「高卒就職環境」と「雇用環境」のガイダンスだった。こうしてみると、当然ながら、希望進路ごとの対策の必要性が浮かび上がってくる。

Q. 高校生の進路選択のために、保護者向けに充実してほしいこと(複数回答)

■保護者



➤ 高校や教師に対する意見や要望②

■保護者

- 少なくとも日経は読んでもらいたい。世間を知らなさ過ぎる。「教育」(学校教育)という中に自分を閉じ込めすぎている。自分自身の判断の根拠を確かめてもらいたい。わりと独善的なことが多い(新潟・父親、男子)
- 進路を決めるにあたって、先生の助言の中には学校としての実績を上げるためにもっとレベルの高いところに挑戦を、というニュアンスを感じる時があります。本人がしっかりと目標を持ち、考えた末に出した結果に対してまであっさりと言われるのはどうかと思います(静岡・母親、女子)
- 今の先生方は会社員のように、時間でさっさと帰ったり、自分の話したいことは話すが、生徒の話最後まで聞けなかったり、もっと生徒たちを良き社会人に、人間らしい人間に育てていくという気持ちを持ってほしいと思います。親や社会にとって大切な人材ですから(東京・母親、女子)

40. キャリア教育の認知と期待

■保護者の82%が「キャリア教育推進は良いことだと思う」

■名前は知られていないがコンセプトには大きな期待

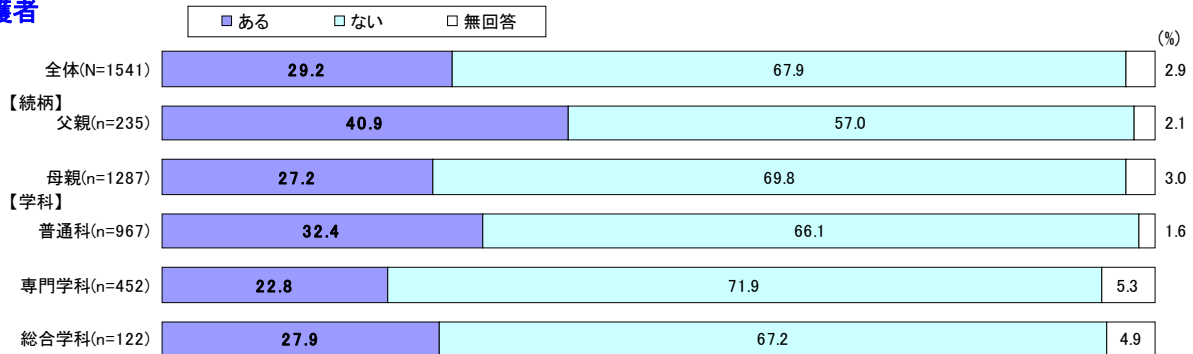
まず保護者に「キャリア教育」という言葉を聞いたことがあるかとたずねたところ、「ある」が29%という結果だった。一般社会におけるキャリア教育の認知は、まだあまり進んでいないと見ていいだろう。父母別では父親の、所属学科別では普通科の認知率が最も高かった。

次に「キャリア教育」の定義を示したうえで、「キャリア教育」が推進されることをどう思うかとたずねたところ、こちらはポジティブな回答が多かった。「非常に良いことだと思う」と「まあまあ良いことだと思う」を合わせると、保護者の82%がキャリア教育に対して賛同や期待を寄せていることがわかった。父母別では母親が、学科別では総合学科が最もその数値が高かった。

しかしフリーアンサーを読むと、単純な期待感だけでなく、キャリア教育による教師の負担増大や指導力不安など、ハードルの高さも感じているようだ。

Q. 『キャリア教育』という言葉を知っているか

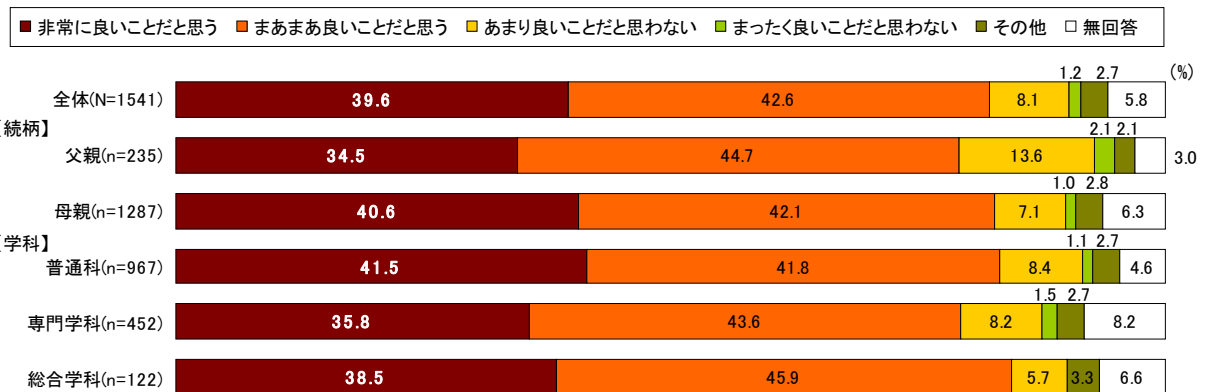
■保護者



Q. 『キャリア教育』が推進されていくことをどう思うか

■保護者

※「生徒一人一人にふさわしいキャリア(生き方・働き方)を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」をキャリア教育の定義とし、示した



≫ キャリア教育に対する意見や要望

■保護者

- 進学に関する学習だけでなく、人間としての生き方、社会のルール等、社会に出てから学ぶのではなく、学校で基本的なものを身につけさせてもらいたい(宮城・父親、女子)
- 自分自身がどんな適性や能力があるか実感として感じる機会が少ないように思う。「自分自身を発見する」ことが大切です(宮城・母親、女子)
- 「キャリア教育」は非常に良いことだと思ひ、ぜひ実施してほしいが、多忙な先生方に負担をかけるのではないかと(新潟・母親、女子)
- 本来は家庭で教育することだと思いますが、家庭と学校で行えばよりよい人間形成ができてよいと思います(福岡・母親、女子)
- 学校しか知らない教師にそれができるとは思わない(新潟・父親、男子)
- 目標ばかりで実が伴わなければ意味がない(福岡・母親、男子)